

会長のページ	年頭所感	河野 雅行	3
年頭所感	日本医師会長	松本 吉郎	4
	宮崎県医師会顧問	秦 喜八郎	6
	各都市医師会長		7
	各専門分科医会長		12
年頭のご挨拶	宮崎県知事	河野 俊嗣	19
	宮崎大学長	鮫島 浩	20
	宮崎県選出国會議員，日医連推選国会議員		21
新春随想(その1)			25
	新木 正剛，福島 慶美，千代反田晋，日高 四郎 綾部 健吾，近藤 恭平，池田 龍二，岩下 徹 北村 和生，古川 貢之，宮田 純一，谷口 二郎 小島 岳史，中山 健		
エコー・リレー(605)	中山 恵介，塩月 裕範	39	
身近なお困りと相談室	高山 桂	40	
診療メモ 上部消化管出血-外来で遭遇した場合の初期対応と紹介判断について	前村 幸輔	78	
宮大医学部学生のページ 第21回宮崎大学清花祭～彩風爛漫～開催報告	大出水 幹，梶 加衣人	80	

令和7年1月～12月までの叙勲及び表彰・祝賀受賞全員	36
あなたできますか？(令和6年度医師国家試験問題より)	38
宮崎県感染症発生動向	42
日赤だより	45
令和7年度医師会立看護学校担当理事連絡協議会	46
令和7年度全国医師会勤務医部会連絡協議会	47
宮崎県医療事故調査支援団体連絡協議会宮崎県医師会医療事故調査支援委員会合同会議	50
県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会	52
ベストセラー	53
日医インターネットニュースから	54
医師協同組合だより	56
会員の異動・変更報告	58
理事会日誌	60
県医の動き	64
ドクターバンク情報	65
行事予定	69
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	71
あ と が き	88

お知らせ カット・イラストの募集	35
令和7年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生採用のお願い	51
郡市医師会への送付文書	82
日医ペイハラ・ネット相談窓口を開設しました	85
医療勤務環境改善支援センター	86
日州医事原稿募集のお知らせ	87

医師の心得

1. 私たちは、皆さまの健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成14年3月12日制定)

〔表紙作品：書〕

賈至岳陽樓重宴別王八員外貶長沙

子どもが書道教室に通い始めたのを期に筆を取り5年目になりました。2尺×8尺の大きな紙に初めて取り組んだ作品です。書き慣れた半紙と違い墨量や線質など紙面の余白とのバランスを考慮するのが難しく、納得できる掠れが完成するまで何枚も練習しました。

なが の あき こ
宮崎市 長 野 晶 子

年 頭 所 感

宮 崎 県 医 師 会

会 長 ^{かわ} ^の ^{まさ} ^{ゆき}
河 野 雅 行



捉え方にも拠りますが、全く平穏な一年はなかなか実現しないものです。昨年も多難な年でした。私達にとりまして大きな問題は、経営困難から医療機関や介護施設の閉院が最多となったことです。現在の医療政策のままでは、この傾向は本年も続くものと思われま。大学病院、公的病院も含めて、諸物価や人件費高騰により殆どの医療機関が大幅な赤字に苦しんでいます。緊急対策として補正予算で補助金の支給がありました。本筋では物価に見合った大幅な診療報酬・介護報酬増額が望まれます。

様々な災害が襲ってきます。例年の風雪水害に加えて酷暑による被害が、各方面による対策にもかかわらず発生しています。せめて人的被害は防いで欲しいものです。異例として九州以外で熊による被害が多発しました。獣による被害とは、未開の時代に逆戻りしたかのようです。駆除については多くの意見が飛び交いました。動物との共存や動物愛護精神は貴重でも人的被害が発生すれば次元が異なってきます。

世界的には各地で戦乱が絶えません。数年に渡るものから新たな紛争まで絶えずニュースになります。春にはトランプ関税なるものが全世界を席卷しました。わが国は懸命の交渉により決着はしても、莫大な見返りを要求されました。近隣諸国との紛糾が相変わらず続いています。現状から防衛費が増額されそうです。歴史は繰り返すと言われるように軍拡競争の再来でしょうか。

国内政治の混乱が続いています。県内でも参議院選挙では与党の現職候補が敗れ、保守王国と言われていた宮崎県も随分と様変わりしました。自民党の総裁選挙では高市氏が初の女性総裁となりました。自公連立政権から公明党が離脱し、自民党は少数与党の為にさまざまな駆け引きが必要であったようです。維新が連立に加わり本邦初の女性総理が誕生しました。全く政界は摩訶不思議なところ。混沌とした社会情勢下での為政は苦勞が多い中でも、医療の充実を含めた政策をお願いしたいものです。高市首相は医療の窮状を救うべきだと述べられており、期待が持てます。

日医連推薦の釜薙敏副会長が参議院選で医療系トップ当選しました。しかし、日医・県医・市郡医連の全力を挙げての運動にも関わらず目標得票には届かず、今後の選挙対策には大きな課題を残しました。自見参議の担当された大阪万博は当初の悲観的な予想に反して成功裡に終わったようです。ノーベル生理・医学賞を坂口氏、化学賞を北川氏が受賞されました。最高の榮譽を二人同時に与えられたのは誠に嬉しいニュースでした。

皆様にとりまして幸多き年になります事を祈念いたします。本年もどうぞよろしく願いいたします。

年 頭 所 感



日 本 医 師 会

会 長 松 本 吉 郎

明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

本年の干支は、「丙午」です。「丙午」は、ある意味で最も有名な干支かもしれません。根強い迷信によって、前回の1966年でも出生率が前年より約25%も下がるなど、驚嘆に値する影響力がありました。

「丙」「午」は共に「火」の要素を持ちます。それが迷信にもつながっているのですが、別の面から見ると「情熱」や「エネルギー」と捉えることができます。実は私も午年生まれで本年は年男でございますので、高市総理も自民党新総裁就任時に仰っておられましたが、私自身も「馬車馬のように」医師会のために働き、地域医療を守るという強い決意と信念の下、情熱的、かつエネルギーシュな一年にしたいと思います。

日本では、新年に門松・しめ縄・鏡餅の飾り付け、おせち料理、お屠蘇、初詣、年賀状など、新しい年の無事を願う様々な風習があります。

我が国には、平安時代に宮中医官を務めた丹波康頼が撰した、日本に現存する最古の医学書で、984年に朝廷に献上された「医心方」があります。現存する仁和寺の「医心方」は1952年に、東京国立博物館の「医心方」(半井家本)は1984年に、いずれも国宝となっています。日本医師会では、国宝「医心方」のユネスコ「世界の記憶」への登録を目指して活動しています。新年を期に、是非多くの会員の先生方に知っていただきたいと考えております。

また本年は、2月に冬季オリンピックがイタリアのミラノとコルティナ・ダンペッツォで、6月にサッカーワールドカップ2026がアメリカ・カナダ・メキシコでそれぞれ開催されます。日本選手が大いに活躍されることを期待しております。

さて、昨年は参議院選挙が行われました。本会からは当時副会長であった釜范敏先生が組織内候補として出馬し、初当選を果たされました。与党が過半数割れし、自民党の全国比例の得票数も前回から大きく減少するという極めて厳しい状況の中でしたが、皆様のご尽力によって、医療・社会保障関係候補者7名のうち、トップの17万4,434票余りを獲得することができました。

組織強化につきましては、私が日本医師会長に就任して以来、力を入れて取り組んでまいりました。新たな医師会会員情報システム「MAMIS」によって、これまで書類で行ってきた入会・異動等の手続きをWeb上で行えるようになったこともあり、今年は更なる会員増に向けて活動を推進してまいります。ご協力いただいております全国の医師会の先生方には改めて深く感謝申し上げます。MAMISにつきましては、本格的な運用開始後、さまざまなご意見・ご要望を頂いており、順次改善してまいります。

なお、本年夏頃には、昨年から建設しておりました新オフィスビル「JMA EXTRA」も竣工予定です。

また、昨年4月より、かかりつけ医機能報告制度が施行され、地域における面としてのかかりつけ医機能のさらなる発揮に向けた取り組みが始まりました。この1月から3月にかけて、かかりつけ医機能報告制度のG-MISを活用した申請も始まります。地域を面で支えるため、多くの医療機関に手を挙げて参画いただきたいと思いますと考えております。日本医師会としてもかかりつけ医機能報告制度を見据え、研修の充実等を図ってまいります。

今春には、令和8年度の診療報酬改定が行われます。改定にあたっての基本認識として、まず、日本経済が新たなステージに移行しつつある中での物価・賃金の上昇、人口構造の変化や人口減少の中での人材確保、現役世代の負担の抑制努力の必要性が挙げられております。次に2040年頃を見

据えた、全ての地域・世代の患者が適切に医療を受けることが可能で、かつ、医療従事者も持続可能な働き方を確保できる医療提供体制の構築、さらには、医療の高度化や医療DX、イノベーションの推進による、安心・安全で質の高い医療の実現、そして、社会保障制度の安定性・持続可能性の確保、経済・財政との調和といった方向性で、診療報酬改定が進められることになるかと思えます。

そのための基本方針として、「物価や賃金、人手不足などの医療機関等を取りまく環境の変化への対応」、「2040年頃を見据えた医療機関の機能の分化・連携と地域における医療の確保、地域包括ケアシステムの推進」、「安心・安全で質の高い医療の推進」、「効率化・適正化を通じた医療保険制度の安定性・持続可能性の向上」の4つが挙げられています。

日本医師会としては、まずは急激な物価高騰に対応するとともに、公定価格で運営されている医療機関・介護施設等における就業者約938万人の賃上げが可能となる環境を整えることが不可欠だと考えております。

また、医療機関は、病院、診療所ともに一体となって地域を支えており、両方とも必要不可欠です。特に財務省等は、「病院と診療所」、「高齢者と若者」、「病気の方と健康な方」など様々な二項対立で分断を煽っておりますが、それが社会の不安定につながっていきます。社会格差と健康格差を生まないような社会にしていかなければなりません。

保険料はすべて国民の健康と生活を支える医療・介護として還元されています。社会保障給付は、医療・介護ニーズの高い高齢者を中心に利用されるため、現役世代の社会保険料負担のみに着目した議論になりがちですが、現役世代にとっても、離れて暮らす高齢の親への仕送りや医療・介護を心配することなく安心して働き、能力と適性に応じた場所で活躍できることこそが、子どもの有無にかかわらず現役世代のメリットです。

このような課題に対し、医療保険制度を持続可能とするための方策として、高額療養費制度や、高齢者の自己負担のあり方、金融所得の勘案の検討、OTC類似薬の保険給付のあり方、医療保険制度における出産に対する支援の強化等が挙がっております。

その他にも医薬品の安定供給や2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の検討など、医療界には取り組むべき課題が山積しております。日本医師会は、医療界の総力を結集して議論をリードしつつ活動を進めてまいります。

新しい年が会員の先生方お一人お一人にとって充実した幸多き年となりますことを祈念申し上げ、年頭に当たってのごあいさついたします。

本年もどうぞよろしく申し上げます。

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

理	事	常任理事	副会長	会長												
上	佐	峰	落	玉	吉	大	赤	嶋	高	池	吉	市	荒	金	小	河
山	々	松	合	置	見	塚	須	本	木	井	田	来	木	丸	牧	野
貴		俊	秀		雅	康	郁	富	純	義	建	能	早	吉		雅
子	究	夫	信	昇	博	朗	郎	博	一	彦	世	成	苗	昌	斎	行
								監								理
宮	崎	県	医	師	会			事								事
						事務職員一同		田	宮	中	内	松	吉	河	山	田
								中	田	村	藤	岡	村	原	中	畑
								穰	純	周	明	敬	雄	勝		直
								式	一	治	美	子	樹	博	聡	人

年 頭 所 感



宮崎県医師会 顧問

秦

喜八郎

明けましておめでとうございます。

2026年度の県内臨床研修医は59人が内定しました。県の目標は80人ですから医師少数県の状況は早急には解消されません。医師の絶対数不足に加え、① 地域医療圏毎の偏在、② 診療科毎の偏在も問題です。医師のリクルートには、地縁、血縁、宿縁の影響が強く、各県とも臨床研修医の確保に向けて様々な取り組みをしています。研修医がこの地域で働きたいと思えるような魅力ある研修病院の整備や、本人へのキャリア支援に力を注がなければなりません。目標の7割とは言え、前年度より2人増加に希望を抱いています。また、宮崎大学医学部の地域医療枠（2022年より40名）には、地域医療の将来を担おうとする若者の存在もあり心強い限りです。

さて、韓国の2023年の合計特殊出生率は0.72で、急速な少子高齢化国として注目すべき隣国です。2023年末、尹錫悦前大統領は、「最優先の国政課題」、「異次元の対策」として少子化対策に声を上げました。仁川市では、韓国平均を下回る出生率0.69を背景に、子ども一人あたり1億ウォン（約1,100万円）の支援策を導入、また住宅事業を手掛ける富栄グループも社員向けに同額の支援を発表しました。本人への直接支援と金額の大きさが話題を呼び、今後の出生率の推移に注目しているところです。（朝日新書「縮む韓国」2025参照）

韓国の出生率低下は、首都圏への人口一極集中や高齢化の加速も密接に関連しており、日本も同様の課題を抱えています。両国が直面する人口構造の変化には、社会全体の価値観転換と制度改革が急務です。こうした共通課題に対して、韓国との協調が望まれます。100年に一度と言われる激動の時世に、高市早苗氏が憲政史上初の女性宰相として誕生しました。今後の政策への期待が高まります。

今年も皆様にとって良い年でありますように。



年 頭 所 感



宮崎市郡医師会長
高 村 一 志

新年明けましておめでと
うございます。

昨年は全国の病院の約7割が赤字に転落しました。全国の大学病院でも合計500億円以上の赤字となり、宮崎県の3県立病院も赤字経営に苦しんでいます。その原因は以前から指摘されているとおり人件費、委託費、水道光熱費の増加、診療材料費の高騰などです。宮崎市郡医師会病院も収入の増加を上回る支出の伸びで令和6年度から赤字経営となっており、人件費や診療材料費を抑える、新規の医療器機購入を控えるなどの工夫を行ってきましたが、令和7年度も収支の改善は認められていません。

診療所も全国的には約5割が赤字との報告があります。厳しい状況の中では看護師や事務職員の給与も物価上昇分に見合うだけの増加がなかなかできないようです。現在の医療、介護の給与が他の業種との差が出てきているためなのか、求人しても看護師のみならず一般事務職にもなかなか応募がなく、診療にも支障が出てきています。

今年の診療報酬改定では増額となることについて高市内閣は明言していますが、今年こそは思わず笑顔が出るような大幅な診療報酬改定となることを期待しています。

今年は清山市長が二期目の市政を司ることとなりそうです。医療に関しては宮崎市郡医師会の立場を理解してもらいながら協働する意識で前進する事を希望します。医療界がそして宮崎市郡医師会が希望を持てる年になることを願いながら。

今年もどうぞよろしくお願ひします。



都城市北諸県郡医師会長
田 口 利 文

新年あけましておめでと
うございます。旧年中は当
医師会にご支援を賜りまし

て、誠にありがとうございました。日本も女性の総理大臣が誕生しました。高市早苗首相の強い日本、強い経済を実現するという言葉にはおおいに期待しています。補正予算には医療機関・薬局における賃上げ、物価上昇に対する支援が盛り込まれました。これは赤字の補填であり、来年の診療報酬改定が心配です。診療所に対する厳しい査定が予想されています。地域医療を守るためにその役割がしっかりと評価されることを希望します。昨年は当医師会では、経営改善は難しいと判断し、すこやか苑の整理閉鎖を行いました。地域医療構想2025に掲げられた、病床の機能分化・連携を進めるために、医師会病院の高度急性期病床の整備・心臓、脳血管センターの増設はすべての工事が終了し、昨年12月1日に最終の引き渡しを受けました。HCUを増床したことで救急患者の受け入れはスムーズになり、看護師の負担軽減にもなっています。今後は新設した心臓血管外科が使用する手術室、ハイブリッド手術室などの新しい施設をしっかりと生かし、透析センターの稼働もできるようにして、医師会病院が会員医療機関の助けになるようにしていかなければなりません。そのためには職員、特に医師の確保と熟練医の養成が不可欠です。さらに今後は後期高齢者の増加に対応し、医療と介護の連携、特に急変時の対応など検討していく必要があります。

本年も当医師会へのご支援よろしくお願ひ申し上げます。新しい年が良い年となりますよう心より祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。



延岡市医師会長
佐藤 信博

あけましておめでとうございます。今年もよろしく
お願い申し上げます。

さて、昨今の物価上昇、賃金上昇などの影響
で医療機関の経営は非常に厳しい状況にありま
す。病院の7～8割が赤字で特に特定機能病院
の赤字幅が大きいと言われてしています。

一方、診療所の多くが赤字経営で厳しい環境に
あるのですが、診療所については、財務省によ
りますと黒字経営にあるとの認識です。

これは現場の肌感覚からしますと財務省の認
識には違和感を禁じえません。例えば、厚生労
働省「医療経済実態調査（令和6年度/第25回
調査）」によりますと、平均損益率は無床診療
所（医療法人）が約5%、同（個人立）が約
29%、有床診療所（医療法人）が約1～2%、
同（個人立）約23%と公表されています。勿
論、個人立診療所には、院長の給与が費用に含
まれていませんから高くなっています。

また、損益計算におきましては借入利息のみ
が計上され、元本返済額は含まれません。つ
まり元本返済額は損益計算上、費用化されませ
んで黒字となりましても、現預金が流出しま
すので経営実態は大変厳しくなるわけです。特
に有床診療所は人件費や設備費など固定費が高
く医療法人の有床診療所では半数以上が損益ゼ
ロ～赤字という状況だと報告されています。是
非とも診療所経営の厳しい実態について理解を
賜りたいと願っております。

また現下の厳しさの中で診療所の破綻が増え
ますと、やはりそのつけは病院に影響致しま
す。この局面におきましては病院と診療所、勤
務医と開業医が互いの立場を理解しあって、こ
の難局に立ち向かう必要があると感じております。

今年も国内外とも火種は絶えませんが、本年
が皆様にとりまして素晴らしい年でありますよ
う、心から祈念申し上げます。



日向市東白杵郡医師会長
今給黎 承

明けましておめでとうご
ざいます。昨年は大阪・関

西万博の成功やMLBでのイチロー殿堂入りや
ワールドシリーズにおけるドジャース日本人3
選手の大活躍など明るいニュースもありました
が、国産米を筆頭とした物価高や高市総理の
「存立危機事態」答弁後の隣国による理不尽な
圧力など暗いニュースもありました。また赤字
経営が強いられた医療機関は多く、補正予算で
ある程度の支援が得られましたが急場しのぎで
あり、2026年6月からの診療報酬改定が正念
場かと思えます。さて当医師会では看護学校や
在宅サービス事業の経営難や医療人材不足が大
きな課題となっています。特に今年の会員平均
年齢が64歳でありましたが、今年新規入会次
第では前期高齢者医師会になってしまいます。

日向市はその名のとおり日出ずる方に向き、日
照時間は年間約2,160時間ととりわけ長く（東
京1,920時間）、海と山が近いため、風通しも
良い気候風土です。その為か住民性は非常に穏
やかであり、医師会内外での連携は非常に円満
かと思えます。釣りやサーフィン、登山なども
30分以内の移動で可能な住環境です。アウトド
アライフに重点を置きたい若者や、県内外での
勤務を定年退職される医療人材の方々が第二の
人生を満喫するには最適の環境かと思えます。
又、従来日向市の新規医療機関開業支援事業は
産科・小児科のみが対象でしたが、他の診療科
も対象となるように働きかけをしており、検討
中であります。

本年が皆様にとって穏やかな希望に満ちた年
でありますように祈念申し上げます。



児湯医師会長
北 村 洋

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

年頭所感は今回が2回目で、明るい話題を探しましたがあまりありませんでした。昨年内科泌尿器科が新富町で新規開業し、喜んでいきます。スポーツでは山本由伸選手がワールドシリーズでMVPを獲得し、女子プロゴルフで数人の県出身ゴルファーが優勝するなど明るい話題がみられました。

宮崎県でも燃料光熱費を含む物価高騰、最低賃金が1,023円になるなど人件費の高騰、医療事務、看護師等の人材不足等、医療経営はますます厳しさを増しています。昨年の参議院選挙後に成立した高市内閣が日本維新の会との合意事項に社会保障全体の改革が含まれ、OTC薬剤の保険適用除外が打ち出される可能性があります。病院の赤字比率が約7割(67.2%)と経営が厳しい中、社会保障費の実質削減が行われたら多くの病院が倒産する可能性があります。医療改革では、外国人保険料未納問題、外国人高額医療問題、1人1億円を超える高額医療等、他に先にやるべきことがあると考えます。医療費引き下げに対抗するためにも今後医師会が一丸となって頑張っていくしかないと考えます。

児湯医師会は現在会員61名(A会員35名、B会員26名)で減少しております。これはB会員の退会が数名あったためです。小人数で医師会の運営を行う必要があります。看護学校は定員に足りておりませんが17名の入学があり、今後も継続していくつもりです。

最後にこの場をお借りして、昨年お亡くなりになった前会長 永友和之先生を追悼いたします。



西都市西児湯医師会長
松 本 英 裕

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

2025年の年頭所感では真っ先に「新規開業がありました」から始まったのですが、当医師会は会員数が最も少ないにも関わらず、本年3月までに4件の閉院が決まっております。1件は承継開業の運びになりましたが、診療報酬の問題も含め、全ての医師会が抱えている喫緊の課題だと思います。

さて私も10回目の年頭所感になりました。いつも隣にいた児湯医師会前会長の永友先生が昨年お亡くなりになり、寂しくもありますが、天国から我々を見守ってくださっていると思います。昨年1月には西都市長選挙があり、行政と医師会が良好な関係を築いていけると自負しておりますが、長年の課題の西都児湯医療センター新病院建設に向けては大きな進展はまだありません。長期任務は決して良くないことは理解していますが、昨年7月に西都市西児湯地域包括支援センターを立ち上げたばかりなので、もう1期会長職を拝命するか悩んでいるところです。

2026年はどんな年になるのでしょうか。今年も「午年」で検索してみました。馬は本来、常に前進する動物であり、後ろを振り返らずに前へと進むその姿は、昔から躍動・成功・勝負運、いわゆる夢に向かって突き進む人の象徴のようです。「午年」の中でも活気のある“丙午(ひのえうま)”は新しい挑戦に光が差し、前へ進む力を感じられる一年になって欲しいですね。馬は人の暮らしを支えてきた大切な存在で、家族を守り、幸せを運ぶ縁起の良い動物として親しまれてきました。縁起の良い言葉として「馬九行久(うまくいく)」:「物事がすべてうまくいく」という願いを込めた語呂合わせ、「馬到成功」:馬が到着すれば成功が訪れる、「千軍万馬」:千の軍と万の馬を従えたような勢い、転じて、経験豊富で頼りがいのある人物といった言葉があります。頼りがいのある会長を目指して、MCSを活用した西都市西児湯地域包括支援センターの確立、三師会での連携も密にし、更なる多職種間の顔の見える関係づくりに尽力していきたいと思っております。

当医師会も辛抱強く、焦らず、粘り強く、着実に前進し、最終的に望む結果に近づけていきたいと思っております。

今年も皆様方に当医師会への更なるご指導、ご鞭撻をお願いし、会員の先生方の健康と幸せを祈念申し上げます。



南那珂医師会長
中 村 彰 伸

明けましておめでとうございます。

旧年中は、南那珂医師会に多大なるご支援、ご交誼を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年11月に南那珂医師会と日南、串間両警察署との間で「子供・女性・高齢者・医療従事者を犯罪から守る活動に関する協定」を締結しました。この協定により、今までよりさらに安心して医療提供に専念できると考えますが昨年は、尋常ではない物価高騰に加え、最低賃金の大幅アップによる人件費の高騰により医療機関の経営状況は危機的なものとなっています。

地域における基幹病院である宮崎県立日南病院は、令和6年度、一般会計から約8億円強繰入れしても純損益約11億円の赤字決算だったとのこと。病床を削減して経営改善を図るとのことですが人口減少（患者絶対数が減少）する中で収益をどうやって確保していくのか見守っていく必要があります。

A会員が最終的に頼るところは地域の公立病院ですから公立病院が規模を縮小して患者さんの受入れが困難となると地域医療が維持できない事態となってしまいます。

また、地域内の民間病院においても患者数減少、医療人材不足等の理由で病床削減が行われ、入院を要する患者さんの受入れが困難となっています。

地域の構造的な課題はありますが人件費や医療材料費等の必要経費に見合う収入（保険点数）がなければ医療提供はできません。今年は診療報酬改定年です。地域医療を維持、持続できる改定となることを願ってやみません。

また、日南市からの委託事業として日南市初期夜間急病センターを毎日運営していますが会員の減少と高齢化により毎日運営という部分を見直す時期に来ています。会員の意向をしっかりと聴いて日南市と運営のあり方について協議したいと考えます。

南那珂の医療を守るため理事の先生方、会員の先生方と共に会の運営に努めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻よろしくお願い致します。

最後になりますが皆様的一年が幸多き一年となりますようお祈り申し上げます。



西諸医師会長
内 村 大 介

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年

を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。旧年中は当医師会への格別なご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

本年は、診療報酬改定の年であります。ご承知のとおり、物価の高騰やエネルギー費の増加に加え、人件費の上昇など、医療機関を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。これらの負担は地域を問わず医療現場に重くのしかかっており、持続可能な医療提供体制を守るためにも、現場の実情を的確に反映した診療報酬の評価が不可欠です。今回の改定において、必要な医療が適切に評価されることを強く期待いたします。

また、国が示した新たな地域医療構想への対応も、本年から準備と議論が本格化する重要な年となります。従来 of 構想が入院医療、とりわけ病床機能の整理を中心としていたのに対し、新たな構想では、医療機能の分化・連携や、在宅医療と介護を一体的に提供する地域包括ケアの推進が求められています。急速な高齢化が進む西諸地域でも、入院から在宅まで切れ目なく医療・介護を提供する体制の整備が不可欠であります。

当医師会では行政と連携し、在宅医療介護連携推進事業を通じて、医療と介護が円滑につながる仕組みづくりを進めております。さらに、「結netにしもろ」を活用した情報共有や入院支援の標準化など、多職種協働の体制整備も着実に進めております。今後も当医師会が中心になって、こうした取り組みをさらに推進し、地域の医療・介護がより安全かつ円滑に提供される体制の充実に努めてまいります。

最後になりますが、本年も当医師会に対しまして、これまで以上のご支援を賜りますようお願い申し上げます。併せて、本年が皆様にとって実り多い素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



西白杵郡医師会長
植 松 昌 俊

新春を迎え、謹んで新年
のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、新年をお健やかに
お迎えになられたこととお慶び申し上げます。

以前からファンであり、個人的には待ちに
待ってではあるが、10月21日、第219回国会に
おける首班指名選挙で高市総理大臣が誕生し
た。その就任直後の記者会見では、「病院の7
割が赤字」と言及し、対策の必要性を述べてい
た。しかし、初心表明演説では、「病院」では
なく、「赤字に苦しむ医療機関」へと変わって
いた。このことが何を意味するかは小生には不
明だが、首相が述べる通り「診療報酬改定の時
期を待たず、経営の改善及び従業員の処遇改善
につながる補助金を措置して、効果を前倒しし
ます」明言しており、早急な支援を期待した
い。さらには、2026年度は診療報酬改定の年
度でもある。コスト削減、給付の重点化などの
効率化を求める財政中立のお決まりの議論が続
くのだろうか？現在の医療制度を維持するため
には2026年度診療報酬改定では10%超の引き
上げが必要と考えられている。ウクライナ紛争
を契機に始まったエネルギー価格、物価、人件
費高騰の中で医療を取り巻く環境は待たなし
の状態であり、経営改善の自己努力はもはや界
界にきている。つまり、いくら収入を増やして
も消耗品や医薬品の値上げが上回っているの
である。現状の診療報酬をはじめとした社会保
障制度自体に制度疲労が起きているのではな
らうか？

本年もどうぞよろしくお祈りします。



宮崎大学医学部医師会長
賀 本 敏 行

新春を迎え、謹んで新年
のご挨拶を申し上げます。

昨年、令和6年の経営状況については、国立
大学病院のみならず、すべての医療機関で悪
化し、危機的な状況となっていると報じられ
ました。要因は、経費の上昇や人件費の増加に
加え、病院においては病床稼働率の低下も指
摘されています。年末の補正予算による補填は決
まりましたが、今年6月の診療報酬改定にどう
反映されるかが注目されています。しかしなが
ら、これらの要因は引き続き続く見込みで、大
きな改善は容易ではない状況です。

こうした中、昨年末の新聞報道のとおり、大
学病院では本年4月から木曜日を休診とし、土
曜日に診療を行う方針を決定しています。経緯
には複数の理由がありますが、もともとは令和
元年に医師の働き方改革の一環としての、「連
続勤務時間の回避」のために浮上した案が、週
内に休日を設けることでした。当時は対過重
労働が主な目的でしたが、その時のシミュレ
ーションによって、土曜日の診療（紹介初診）や
入院患者の増加により、特に振替休日の月曜
日を挟む週の医療提供体制の低下を抑え、全
体の稼働状態を安定させる可能性が示されま
した。

従いまして今回の取り組みは、診療報酬の増
加を狙うとともに、医師の労働負担軽減や地
域医療への貢献を目的としています。土曜日
も診療を行うことで、患者さんにとっても利
便性の向上が期待されます。詳細については
別途ご案内申し上げます。

最後になりましたが、皆様にとりまして健
やかで実り多い一年となりますことを心より
祈念申し上げます。

年 頭 所 感



内科医学会長
比 嘉 利 信

明けましておめでとうございます。皆さま健やかに

新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

国民の健康意識への向上を図るため、日本内科学会と日本臨床内科医会（日臨内）は7月1日を「内科の日」と定め、内科医の役割と大切さを広く市民に知っていただく機会とし、各地でイベントが企画されています。

日臨内は、昨年春には総会が日本内科学会と同じ大阪で、秋には学会が群馬県高崎市で開催されました。日臨内九州ブロック会議・九州各県内科医会連絡協議会（九内協）・同審査委員懇話会（九内懇）は、熊本市で行われました。とくに令和6年度診療報酬改定における「生活習慣病管理料」や「医療DX」の影響が大きく、実態調査報告とともに次期改定への要望事項等が協議されました。

宮崎県内科医会の総会・学術講演会は、コロナ禍以降、WEB中心の会でしたが、昨年は久しぶりに外部会場にてハイブリッド開催となりました。「肝疾患領域の保険診療」、「肺抗酸菌症の最近の動向」、「SGLT2阻害薬の心腎代謝連関」についての講演が行われました。多くの会員が顔を合わせ、直接意見交換ができた有意義な会だったと思います。今年も会場開催の予定です。会員数は減少傾向にありますが、ホームページをさらに充実させ、会員の先生方への迅速かつ有用な情報提供を図りたいと考えています。

昨年も各地で戦争や災害のニュースが絶えない一年でした。新しい年を迎え、平和な世界と平穏な日常を望みたいものです。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



小児科医学会長
高 木 純 一

謹んで新春をお祝い申し上げます。

近年の加速化する少子化問題は、先進国に共通する課題であることは間違いありません。しかしその場にいる小児科医として我々に今できることを積極的に行っていくことが我々の社会的な役割であり、具体的には医療保健活動を通じた子育て支援であると考えます。われわれ小児科医の外来診療も、ワクチン接種の導入による感染症の減少が従来の診療内容を変化させ、アレルギー疾患、不登校、発達障害、心の問題、小児在宅医療などに代わってきています。

特に子どもたちのメンタルヘルスの問題は新たな小児医療の方向性を示すもののように思います。日常診療において、心の健康を問いかける姿勢を組み込み診療のすそ野を広げていく必要があるかと考えます。

最後に、小児科医学会の開業会員の高齢化が進行し、今後地域の小児乳幼児健診体制、学校内科検診、時間外休日夜間の救急体制を維持していくことも不安視されています。これらの諸問題に対応していくためにも、行政、大学の小児科医局ならびに各医療圏の基幹病院の先生と連携を取りながら子供たちが安心して暮らせる宮崎県を維持していかなければと会員一同考えております。

本年度もどうぞよろしく願い申し上げます。



外科医会長

白 尾 一 定

2026年（令和8年）元旦、皆様、明けましておめでとう御座います。今年は

丙午年です。都井岬の岬馬の如く、厳しい医療界の中を闊歩する年になるように祈願いたします。本年は、新執行部2期目4年目です。副会長は、宮本耕次先生と土居浩一先生です。

2025年2月7日の冬期講演会は、一般演題は9題で、「熟練外科医から若手外科医へ」は、春光会記念病院理事長の宮路重和先生にご講演頂きました。トップランナーに手術の勉強に行くことで大きく道が開けることを教わりました。手術記録も保管されており、多くの手術記録を説明して頂きました。

3月19日に、宮崎県外科医会主催の招請手術第1回HIMUKA Live Surgery Seminarが県立宮崎病院で、大阪大学消化器外科の植村守先生をお招きし、腹腔鏡下S状結腸切除を施行して頂きました。理事の中島真也先生始め、県立宮崎病院の諸先生方に感謝申し上げます。

2025年8月1日の夏期講演会は、一般演題は15題で、「若手奨励賞」は、宮崎大学医学部の西田脩通先生が受賞されました。「熟練外科医から若手外科医へ」は、元村胃腸科外科の元村祐三先生が、「外科医としての50年を振り返る」と題して講演して頂きました。患者様から「この先生に手術して欲しい」と言われるまで研鑽して欲しいなど多くのご助言を頂きました。

2025年11月14日の秋期講演会は、自治医科大学消化器一般移植外科元教授の佐田尚宏先生に、「2040年sustainableな消化器外科診療を目指して」という演題でご講演して頂きました。

2026年11月26日～28日に宮崎大学外科学講座の七島篤志教授が第88回日本臨床外科学会学術集会をシーガイアにて開催されます。宮崎県外科医会も全面的に応援しています。宮崎県外科医会は、外科医の魅力を発信し、若手外科医を育てることを大きな目標としています。皆様のご多幸をお祈り致します。



整形外科医会長

川 越 正 一

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

医療の状況としては、高齢化による医療需要の増大と医療従事者不足、医療費の増加という課題が深刻化しています。この状況に対応するため、国は医療DXの推進を進めていますが、それに伴うリスクにさらされる危険性を非常に心配しています。

整形外科関連の全国規模の学会に関しましては、令和7年5月に行われた東京での日本整形外科学会学術総会は現地開催、一部オンデマンド配信されました。10月には日本整形外科学会基礎学会が青森で開催されました。また、第150回西日本整形外科災害外科学会・学術総会が11月に宮崎市で、宮崎大学整形外科亀井教授のもと開催されました。

宮崎県整形外科医会総会は令和7年7月12日に開催されました。11月8日に行われました宮崎県整形外科医会研修会では、国保審査委員からは濱田浩朗先生が、社保審査委員からは黒木修司先生が全国保険審査委員会議の報告及び宮崎県における保険審査基準を説明していただきました。さらに、宮崎大学整形外科の永井琢哉先生に講演して頂きました。

県整形外科医会は、医師会の開催する各種委員会の委員、市民公開講座の講師、宮崎日日新聞生活情報誌『きゅんと』の執筆者、『生きる力』を育む健康教育充実事業の講師などの推薦を業務として行っております。偏り無く、広く受け持って頂きたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

県医師会会員の皆様のご多幸をお祈りいたします。



皮膚科医学会長
西 田 隆 昭

新年あけましておめでと
うございます。

県医師会の先生方をはじめ、大学を含めた基幹病院、他科の先生方にはいつも公私ともに大変お世話になっております。お礼申し上げます。

宮崎県皮膚科医学会としては、宮崎県皮膚科懇話会と称した勉強会、「皮膚の日」に合わせたの市民向け講演、ポスター作成、通称「宮崎スタディ」の带状疱疹患者集計など医学会として例年通りに活動してまいりました。県内の皮膚科事情ですが、この2年で閉院5施設、新規開業3施設と全体として減少しており、しばらくはこの流れだと思います。平均年齢は上がっており、後継者不在の問題、県内での偏在の問題もあります。私は宮崎市の南部で開業していますが、日南市や串間市から受診される方も結構います。このような全体としての問題に加え、物価上昇への対応、慢性的な人手不足、働き方改革、急速なデジタル推進の流れなど個々の医院での問題もあります。どれもあまり解決策が見えず、有効な手立てがないまま時間が過ぎ、問題が先送りされている感じです。数年後さえどうなっている予測が付きません。

暗いことばかり書きましたが、明るい要素もあります。宮崎大学皮膚科4代目教授として緒方大先生が昨年11月に就任され、気運は上がっています。大学とその関連病院、基幹病院、開業医と連携しながら少しでも良い医療を患者さんに届けられるように皆で頑張っていきたいと思います。本年もどうぞよろしく願いいたします。



産婦人科医学会長
川 越 靖 之

謹んで新年のご挨拶を申
上げます。

昨年度、宮崎県のHPVワクチン定期接種率は全国一となり、宮崎市では九州の市としては初めて男子への無料接種が開始されました。この状況が継続すれば、今後10年足らずで県内の子宮頸がんは減少に転じるものと予想されます。子宮頸がんは若年女性に多い疾患であり、ワクチンの普及によって、安心して妊娠・出産に臨める環境づくりが進むことが期待されます。一方で、県内には接種率に地域差がみられており、今後は県全域での一層の普及促進に努めてまいります。

宮崎県では、これまで自殺率の高さが課題とされてきました。特に近年、妊娠中～産後の女性の自殺が多いことが指摘されており、さらなる対策強化が求められています。本県では優れた周産期医療体制が整備されてきた一方で、特定妊婦に対する支援体制はいまだ十分とは言えません。これは自殺対策や児童虐待防止にも直結する重要な課題であり、今後この分野への取り組みを一層推進してまいります。

これまでの活動を通じて、行政担当課と医療現場との間に存在するギャップを埋めることこそが、私たち医学会の大きな使命であると強く感じるようになりました。そして時に、要望が実現せず、もどかしさを覚えることもあります。今後積極的な活動を継続することで、行政の方々にも我々の真意が伝わるものと信じております。

本年8月には、当医学会が主催し「性教育指導セミナー全国大会」を宮崎観光ホテルにて開催します。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。



泌尿器科医会長

福田 聡一郎

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

宮崎県医師会会員の先生方におかれましては、平素より地域医療の維持・発展にご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。また、日頃より県泌尿器科医会活動にご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行がようやく終息に向かい、医療提供体制も「平時」の形へと移行する大きな転換期となりました。この激動の期間中、当医会会員は、県医師会並びに他科の先生方の温かいご協力の下に超高齢化社会の中、ますます増加しています泌尿器科疾患への対応を継続してまいりました。

新しい年を迎え、宮崎県の医療が直面する課題は、より複雑かつ深刻化しています。その中で、当医会は以下の2点を最重要課題として掲げ、活動してまいります。

1. 前立腺がんの早期発見・早期治療への取り組み
超高齢化社会の中で、増加傾向を示している前立腺がんですが、その早期発見の重要なツールである「PSA検診」が宮崎市では廃止されており、前立腺がんは早期発見されれば非常に予後が良いことが知られておりますが、転移のある状態で発見されますと、死亡率が極端に高くなります。PSA検診は死亡率低下のエビデンスのある数少ない検診です。県医師会の先生方のご協力の下、十分な説明の上での県民の皆様のPSA検査受診率の向上に努めてまいります。

2. 高齢社会における排尿ケアの推進

排尿トラブルは、患者様の社会活動を制限し、認知症、フレイル、大骨折等のリスクを高める要因にもなります。県民の皆様の健康寿命延伸のため、当医会は今後も、泌尿器科専門医の知見を活かした適切な排尿ケアの知識を、県医師会を通じて広く県民に発信し、疾患の早期発見・早期治療に繋がる啓発活動を強化してまいります。

以上の2点を含め課題は数多いのですが、県医師会、各郡市医師会、そして関連諸機関との連携を密にし、県民の皆様が安心して暮らせる医療環境の構築に、微力ながら全力を尽くす所存です。

会員各位におかれましても、多忙な日々が続きますが、何卒ご健康にご留意いただき、この一年が皆様にとりまして実り多き年となりますよう、心よりご祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。本年も、皆様の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



眼科医会長

中村 彰伸

新年明けましておめでとうございます。旧年中は宮崎県眼科医会に多大なるご

支援を賜わり厚くお礼申し上げます。

当会にご存知のように県内の眼科医で組織された団体で県民の「目の健康を守る」ことを第一の目標として活動しております。その上部組織に公益社団法人日本眼科医会があり国民の目の健康を守るために様々な活動をしています。その活動の一つとして「ACジャパン」に協力頂き「緑内障」「眼底疾患」「アイフレイル」についてTVコマーシャルを放映し目の疾患について周知活動を強力に展開しました。特に「アイフレイル」についてはあるテレビ局の都合で集中的にACジャパンの広告が代用された関係でアイフレイルに対する国民の認知度が急上昇したと報告されています。その日本眼科医会が10月10日を「目の愛護デー」と定めたことに因み令和7年10月18日(土)に宮崎駅前KITEN大ホールにおいて市民向け公開講座「目の健康講座」を開催しました。宮崎大学眼科中馬秀樹准教授に「知っておいて損はない目の危険信号」というタイトルでご講演頂き、171名の市民の参加がありました。講演後には無料健康相談のコーナーを開設し大盛況でした。次回の「目の健康講座」は都城地区で開催予定です。

また昨年近視進行抑制の効果があるとして低濃度アトロピン点眼薬が保険収載され近視進行抑制に使用可能となりました。しかし予防医療であるため自由診療扱いなので治療する際の取扱いについて会員に周知を徹底する必要があります。

さて今年には会員が主催者となって開催する全国規模の学会が複数予定されています。会員の先生方には学会に参加して頂き日常診療の質の向上にお役立て頂けたらと願っております。物価や人件費の高騰で医療提供が厳しい状況ですが会員とともに県民の目の健康を守るため活動していく所存です。今年も皆様のご理解とご協力よろしくお願い致します。末尾ですが皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げます。



耳鼻咽喉科医会長
坪井 康 浩

新年あけましておめでと
うございます。謹んで新春

のお慶びを申し上げます。

令和6年の年末から7年の年始は、インフルエンザの流行により耳鼻咽喉科の休日当番医には200人から300人の患者さんが集中しました。他科の先生方も同じく大変な思いをされたことは重々承知していますが、このような状況を繰り返すようであれば、担当医師はもとよりスタッフの過重労働で休日当番医の継続が困難になるのではないかと危惧しています。耳鼻咽喉科では昨年の実績を踏まえ、令和7年12月31日と令和8年1月2日に手上げ制で当番施設を増やす措置に協力致しますが、16施設で休日当番医を回し、担当医師も高齢化している開業医は、今後長期に同じ対応を継続できるはずもありません。受付時間の短縮やコンビニ受診を控えるなど県民への啓発活動が必要と考えています。

さて、耳鼻咽喉科医会で昨年最も力を入れたのは、高齢者の認知症やうつ病の予防を目的とした難聴対策の啓発活動と、補聴器購入費用の助成を各市町村に求める働きかけでした。この働きかけにより、令和7年6月から宮崎市で補聴器購入費用の助成が開始され、7月からは美郷町でも助成が始まりました。8月には日南市長、五ヶ瀬町長、都農町長との面会が実現しました。補聴器購入費用助成の取り組みに加え、令和7年9月14日には宮崎市主催で「耳の聞こえと認知症」をテーマとした市民講座が開催され、138名の市民が集まりました。このような市民への啓発活動が、認知症予防の観点から非常に重要であると考えています。最後になりますが、皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。



精神科医会長
吉田 建 世

新年あけましておめでと
うございます。謹んで新春

のお慶びを申し上げます。

最近では、どの診療科でも医療機関の経営が厳しさを増しており、精神科においても例外ではありません。世の中の急激な変化もあり、心を悩む人が多くなっていて、精神科診療の需要が高まる一方で、診療報酬の伸び悩み、物価高騰、人件費の上昇、さらには国が進める医療DXなどが重なり、多くの精神科医療機関が安定的な運営に苦慮している状況であります。人材的にも、医師・看護師のみならず、PSW（精神保健福祉士）、作業療法士、看護補助者など、多職種における人材不足も深刻であり、地域で必要とされる医療体制の維持そのものが危機にさらされています。

このような中、国に対しては、医療・介護の重要性をより認識して頂き、まずは診療報酬を正當に評価し、物価高に対応できるように、積極的な改定をお願いしたいと考えます。また、人材確保を強化・存続できるための支援策や、地域医療構想・地域包括ケアにおける精神科の位置付け向上など、実効性ある支援を強く期待するところです。

幸いにも、高市新政権は、医療・介護の重要性を認識されており、医療・介護が安定的に今後も存続できるような、政策を実行されると聞いております。是非とも、確実に実行して頂き、すべての医療機関に、本当に春が訪れることを期待しております。

本年の先生方のご健勝をお祈りいたしまして、新年のご挨拶といたします。



放射線科医会長
杜 若 陽 祐

新年あけましておめでと
うございます。

新型コロナの話題が以前より少なくなってきた一方、今冬はインフルエンザが例年以上に流行しており、私自身もなるべく人混みを避けて過ごしている状況です。

昨年の放射線科関連では、2名の新入局員を迎え、放射線科専門医3名、診断専門医1名が新たに誕生しました。若い力が今後の宮崎県の放射線診療を支えてくれるものと期待しております。一方で、放射線医会会員104名のうち約4割が60代以上となり、高齢化が進んでいることも現状として認識すべき課題です。

学術活動としては、9月の県医師会医学会において、九州国際重粒子線がん治療センターの塩山善之先生より重粒子線治療の現状についてご講演いただき、非常に示唆に富む内容でした。続く11月の同門会では、名古屋大学 西井龍一教授より、NDBデータを用いた放射線診療の地域差分析についてお話をいただきました。宮崎県ではマンモグラフィ検査数が全国的にも多いとの指摘があり、乳腺エコー検査の普及がその背景にあるのではないかと感じました。

近年、“Sustainable (Green) Radiology”という概念が提唱されています。これは環境負荷を最小限に抑え、持続可能で責任ある放射線診療を実践するという考え方です。秋の学会では、MRI検査が年間約40世帯分の電力を消費することや、造影剤が環境に及ぼす影響などが紹介され、非常に考えさせられる内容でした。今後はこうした視点を踏まえ、より意識した診療が求められると感じております。

本年が皆さまにとって健やかで実り多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



東洋医会長
川 越 宏 文

明けましておめでと
うございます。宮崎県東洋医会

より新年の挨拶を申し上げます。

いつも東洋医会をご支援頂き有り難うございます。医療用エキス製剤は薬価収載して半世紀を迎えます。漢方に関して世界的に大きな動きとして、国際疾病分類（International Classification of Diseases : ICD）の改訂版であるICD-11の第27章に伝統医学（漢方・鍼灸）の疾病分類が追加されたことは大変嬉しいことです。すでにアジアだけでなくヨーロッパでも日本の漢方の研究会が立ち上がり、ドイツでは漢方治療を受けられる施設もあります。このような国際的な動向が日本の医師にあまり伝わっていないことは残念です。では、なぜ急速に漢方の世界への広がりを支えたものは何でしょうか。その一つはエビデンスの集積です。

昨年の国政選挙後に、日本維新の会が政権に加わり、我々が用いている医療用漢方製剤がどのような扱いを受けるのか戦々恐々しています。この原稿が皆様の目に触れている時、どのようなことになっているのか大変不安であります。医療用漢方製剤の保険薬価収載を推し進めた当時の日本医師会長・武見太郎先生のご子息でおられます厚労大臣を務められた武見敬三元大臣に直接お尋ねし保険収載の目的に対する答はただひとつ「医師の裁量権の拡大」でした。医師以外の医療職の皆様との協力・ごちゃまぜ化はある程度必要と思われませんが、最終的に国民の健康に責任を持つ立場としての医師がこれからも世界で活躍できますように願っています。



透析医会長
藤 元 昭 一

新年、明けましておめで
とうございます。旧年中は

会員の先生方には色々とお世話になり、厚く御
礼申し上げます。

さて、全国の透析患者数は2021年まで緩徐
に増加傾向でしたが、その後減少し続けていま
す。その理由として、透析患者の高齢化が進み
70歳以上の透析患者が増加しているのに伴い
死亡率も上昇していること、新規透析導入患者
数が2009年以後は増減を繰り返し、最近は減
少し続けていることが挙げられます。年々透析
医療費には抑制がかかっているものの、日本に
おける透析医療レベルの低下は指摘されておら
ず、透析患者の生命予後は世界的に見ても日本
が最も優れていることが示されています。しか
し、全国の透析医療施設の収益が悪化し、高齢

化、病態の複雑化・重症化を背景に、社会支援
を仰ぐ必要がある患者が増えてきており、来年
度は大きなプラス改定が望まれています。

昨年も当医会では各種の透析関連の講演会・
研究会を行ないました。「透析患者の各種合併
症と治療」、「透析医療における感染・災害対
策」等に関し、医師ばかりでなく透析医療ス
タッフも交えて、透析医療の日進月歩に遅れな
いよう努めています。昨年12月には「九州透析
災害対策合同協議会」が設立され、大規模災害
時の県跨ぎの広域連携を医師会や行政の協力を
得て進めていこうとしています。今後も他科の
先生方にもお世話になることと思いますが、医
療連携を宜しく願います。

本年も皆様の当医会へのご指導とご協力の
程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

謹
んで年頭の
ご挨拶を申し上げます

理事長 河野雅行

副理事長 金丸吉昌

” 吉田建世

専務理事 赤須郁太郎

理事 中山健

” 大塚康二朗

” 吉村雄樹

” 山中聡

監事 桑原正知

” 宮田純一

事務職員一同

宮崎県医師協同組合

年 頭 の ご 挨拶



宮崎大学長
鮫 島 浩

宮崎県医師会の皆様，新年あけましておめでとうございます。穏やかで健やかな新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

宮崎大学は，2003年の統合と翌年の法人化以降，「世界を視野に，地域から始めよう」のスローガンの下，地域の知の拠点として着実に発展してきました。医学部医学科もまた，宮崎医科大学からの50年以上の歴史を紡いでおり，県内唯一の医育機関として，医学研究の基地として，さらに特定機能病院として，地域の医療を支えてまいりました。

これも偏に，宮崎県医師会会員皆様からの強力な支援があつてのことと思います。貴重な症例の紹介，学部学生のクリニカルクラークシップでの教育，オール宮崎体制の臨床医教育への支援，専攻医の指導，病・病と病・診連携

等々，枚挙にいとまはありません。

今後，2022年度から始まった「地域枠40人」体制の卒業生が2028年にはキャリア形成プログラムに進み，それに伴って宮崎県内での医師定着数ももう一段増加することが期待されます。迎え入れる十分な体制を早急に整備し，キャリア形成の将来ビジョンをしっかりと提示する必要があります。

大学病院には医師派遣機能が重要であるとの認識が示されていますので，今後も宮崎県医師会との強固な連携を図っていく所存です。それに加えて，看護師派遣，薬剤師派遣，コメディカル派遣などの役割も期待されており，大学全体を挙げての支援体制の構築を検討してまいります。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

理事長 獅子目 賢一郎

理事長代理 飯田 正幸

理事 相澤 潔

監事 中村 啓子

” 竹内 茂

常務理事 杉田 恵美子

事務職員一同

宮崎県病院企業年金基金



衆議院議員（1区）
渡 辺 創

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。「緑と太陽の

国」である宮崎がその名にふさわしく、たくさん
の恩恵を民に与え、無数の生きる喜びが芽生
える一年になることを願いながら、衆議院での
5年目をしっかり務めて参ります。本年もご指
導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、新型コロナ禍が与えたダメージを拭い
去る暇もないまま、超高齢社会の進展や人口構
成の変化等によって社会保障システム全体の脆
弱化が進んでいます。情報技術の進展を解決の
糸口にしたいところですが、医療のデジタル化
なども国民の納得という意味では、依然として
いくつかの課題を抱えている状況です。

「いざと言う時の安心」を重要視し、福祉型
国家を志向する私の立場からは、人口構成と増
大する社会保障コストを直視し、順応に向け
た負担のあり方を国民とともに探るべきとの
思いが募りますが、現実の政治はむしろ異なる
方向へと舵を切りつつあるように思います。世
代は、スライドするものであり、「支えられる
側」が「支える側」になり、また「支えられる
側」になるのは自然の摂理。いたずらに世代間
の対立をあおるような世論形成に私は与するこ
とができません。

そのような中、医療への「信頼」が問われて
います。信頼が安心を紡ぎ、社会の安定につな
がります。医療現場の負担感が高まるからこ
そ、関係者の努力に見合う社会的なバックアッ
プは不可欠です。これからもその推進に尽力し
て参ります。

結びに、先生方のご尽力に感謝と敬意を表し
ますとともに、益々のご繁栄をお祈りし、新春
のご挨拶に致します。



衆議院議員（2区）
江 藤 拓

謹んで新春のお慶びを申
申し上げます。宮崎県医師会

の先生方におかれましては、平素より温かい御
支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、高齢化が進展する我が国においては、
今後、医療・介護サービスの需要が益々増大・
多様化していくことが見込まれています。こう
した中であっても、県民の皆様が引き続き安心
して質の高い医療を受けることができる体制を
守っていかなければなりません。

質の高い医療を提供し続けていくためには、
医師不足・偏在の解消と併せて、診療を行う医
師の皆様健康もしっかりと確保されるよう、
タスクシフト/シェアといった働き方改革や医
療DXの取組も着実に進めていくことが重要で
あると考えております。

また、本年は診療報酬改定の年となります。
令和6年度の診療報酬改定では、物価高騰・賃
金上昇等を踏まえた対応を行ったところですが、
その施行後も、医療機関は大変厳しい経営
状況にあると承知しております。我が国の国民
皆保険制度を堅持し、地域で安定かつ継続して
医療を提供していくためには、その原資である
診療報酬の確保が最も重要であると認識して
おります。

私といたしましても、今後とも、先生方のお
声に真摯に耳を傾け、御指導を仰ぎながら、本
県の医療の充実に向けて、これらの問題に全力
を尽くして取り組んでまいります。

結びに、宮崎県医師会の今後益々の御発展と
先生方の御健勝、御多幸を祈念申し上げ、新年
の御挨拶とさせていただきます。



衆議院議員（3区）
古川 禎 久

新年明けましておめでと
うございます。宮崎県医師

会の先生方におかれましては、健やかな新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より県民の健康管理のため献身的にご尽力賜り衷心より敬意と謝意を表します。

さて、我が国では、急速な少子高齢化、社会保障制度の発展や技術の高度化等により、医療費をはじめとする社会保障給付費は、年々増加を続けております。

このため、国は、社会保障制度の持続可能性を確保していくため、能力に応じて全世代で支え合う全世代型社会保障の構築に向けた取組を進めております。

また、医療・介護ニーズが高まっていく中で、引き続き県民の皆様へ安心して質の高い医療・介護サービスを提供していくため、かかりつけ医を中心とした医療提供体制等の構築や、地域医療構想の見直し等も進められているところです。

昨今の長引く物価高騰、賃上げへの対応等により、医療機関では厳しい経営状況が続いております。本年は診療報酬改定の年となりますが、こうした医療機関を取り巻く状況を十分に考慮し、近年の医療機関の経営状況の実態を踏まえた対応が重要であると考えております。私といたしましても、皆様により一層ご活躍いただくことのできる環境整備に向け、国政の場で全力を尽くしてまいります。

終わりに、宮崎県医師会の更なるご発展と先生方のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、謹んで新年のご挨拶といたします。



衆議院議員（比例）
長 友 慎 治

明けましておめでと
うございます。我が国において

最も大切な国民の命と健康を守ってくださる医師会の先生方に深く敬意を表します。

日本はこれまで世界と比較して低い医療費対GDP比で、フリーアクセスと質の高い医療を提供し世界最高レベルの平均寿命、健康寿命を実現してきました。しかも、それを海外のように公立の医療機関ではなく、民間の医療機関が中心となって実現してきたことは我が国が最も誇るべきことです。普通は民間に任せれば利益追求が起こり医療費は高騰します。一方で公立だけに任せれば、医療レベルは上がらなかったかもしれません。その中で日本の先生方は自制心と医師の誇りとともに、昼夜を問わず国民の命と健康のために尽力されて来られました。私もその姿を拝見して参りました。

近年の経済成長の停滞、少子高齢化など様々な理由で医療制度の課題が議論されるようになりましたが、私はあまり悲観的になっていません。「命と健康」という誰にとっても最も大切な目的がある限り、必ずどこかで全ての人が同じ方向を向けるはずで。そして、これまで理性と献身で世界一の医療を築いてこられた先生方と一緒にあれば、必ず時代に合った最適な医療を再構築することができるかと確信しています。私たち国民民主党は「対決より解決」。皆様と共に課題に向き合い、共に新しい答えを作っていきたいと思っております。

結びに、宮崎県医師会の先生方のご多幸を祈念し、本年もご指導いただきますことをお願い申し上げます。謹んで新年のご挨拶とさせていただきます。



参議院議員

松 下 新 平

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

宮崎県医師会の皆様には日頃からの温かいご支援に感謝申し上げますとともに、本県の地域医療のために日々ご尽力いただいていることに、心より敬意を表します。

昨年は、団塊世代が後期高齢者となる2025年問題を迎える中、医療機関の経営のひっ迫化、賃金上昇や物価高騰が大きな問題となりました。昨年10月の臨時国会において首班指名を受けた高市総理は、所信演説において、診療報酬改定の時期を待たずに経営の改善や従業員の処遇改善につながる補助金を措置し効果を前倒しするとともに、人口減少・少子高齢化を乗り切るために、社会保障制度の給付と負担の在り方を議論するための国民会議を設置し、給付付き税額控除の制度設計を含めた税と社会保障の一体改革について議論を深めるとしました。また、地域医療構想の見直しや医師偏在是正に向けた総合的な対策、医療DXの推進を内容とする医療法等改正案につきましては、その成立に向けて、常会に引き続き、努力しているところです。

私も皆様からのご意見を真摯に受け止め、新たに設置された参議院デジタル社会の形成及び人工知能の活用等に関する特別委員会の委員長として、2期目を迎える自民党スポーツ立国調査会長として負託にお応えし、副大臣や自民党部会長の経験とネットワークをいかして、本県の医療が抱える課題の解決に向けて全力を尽くしてまいります。

結びに、宮崎県医師会の更なるご発展と会員の皆様のご健勝を祈念し、新年のご挨拶といたします。



参議院議員

山 内 佳 菜 子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃より地域

医療を力強く支えてくださっている宮崎県医師会の先生方のご尽力に、心より感謝申し上げます。救急・在宅を問わず、平時も災害時も、宮崎の医療がcaろうじて維持されているのは、まさに先生方のおかげであります。参議院厚生労働委員会の所属も決まり、新聞記者19年、県議3年の経験を通じて伺ってきた現場の声を、国政において確かな政策へと結びつけることが私の責務と考えております。

近年、医療提供体制の基盤はかつてないほど揺らいでいます。厚生労働省の医療経済実態調査では、国公立・民間を含む一般病院の約6割が2024年度に赤字となり、利益率は平均マイナス7.3%と深刻な状況です。物価高騰や人件費上昇に診療報酬が追いつかず、地域医療の根幹が削られつつあります。

厚生労働委員会での初質問では「九州唯一の医師少数県・宮崎」が直面する経営悪化の現実、そして病床削減補助金への申請が殺到した背景にある危機を訴えました。「削減」を目的化するのではなく、必要な病床・医療を戦略的に守る視点への転換が不可欠です。今年は診療報酬改定の年でもあります。引き続き、宮崎で起きている課題を一つずつ国に届けてまいります。

宮崎の医療を守る鍵は、現場の声に基づく政策づくりです。先生方の専門性と情熱を国が正しく支えられるよう、これからも全力で取り組む所存です。本年が地域医療をより確かなものとする一歩となりますよう、変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。新年のご多幸を心よりお祈り申し上げます。



参議院議員

自見 はなこ

あけましておめでとうございます。河野雅行会長を

はじめ、宮崎県医師会の先生方には旧年中も格別のご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、6月の「骨太の方針」閣議決定に向けての取組み、7月の参議院議員選挙、9月の自民党総裁選と10月の高市内閣発足、12月の臨時国会での補正予算成立など政治的に大きなうねりが続いた1年でした。その中で、とりわけ骨太の方針に診療報酬等について「経済・物価動向等を踏まえた対応に相当する増加分を加算」と明記できたことと、参院選で釜薙敏先生を比例区の医療系候補者トップの成績で国政に送っていただきましたことは、先生方の絶大なご尽力の賜物と感謝の念に堪えません。

物価高騰の中で医療機関の疲弊が著しい中、大学病院・自治体病院・民間病院・診療所や有床診など、施設類型を問わず地域医療を支えるすべての医療機関が厳しい経営状況に置かれており、幅広い支援の強化が喫緊の課題となっています。こうした状況を踏まえ、令和7年度補正予算においては診療材料費や病院建て替え費、病床数適正化等の経営改善支援の補助金などを含む「医療・介護等支援パッケージ」を成立させることができました。しかしながら、厳しい現状を乗り越えるにはさらなる支援が必要であり、次期診療報酬改定に向けても釜薙先生と二人三脚でしっかりと取り組んでまいります。先生方におかれましては、変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

結びに、宮崎県医師会の更なる発展と先生方のご多幸を心より祈念申し上げ、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。



参議院議員

かまやち 敏

新年あけましておめでとうございます。河野雅行会

長先生をはじめ、宮崎県医師会の皆様には、日頃より温かいご指導、ご支援を賜りまして、心から御礼申し上げます。おかげさまで昨年の参議院選挙において、国政に押し上げていただきましたことに、改めて深く感謝申し上げます。皆様から現場の声を託していただきました重みを胸に、日々取り組んでおります。

昨年末には、高市総理大臣のもとで、令和7年度補正予算、医療法等の改正、令和8年診療報酬改定の方向性が決まりました。物価高騰への対応、他産業に負けない医療従事者への処遇改善の実施、病院、診療所、介護施設等の運営が持続可能となりますように、年明けからの状況を注視しなければなりません。医療・介護・福祉は国民の皆さんにとってなくてはならない共通基盤であり、何としても国民の皆さんに安定して提供できるための施策の実現に、引き続き全力で取り組んでまいります。

令和8年1月から、かかりつけ医機能報告が求められます。そもそも「かかりつけ医」は受診される患者さんが決めるものです。今回の報告は診療科にかかわらず、すべての医師にご自身の担える機能を報告していただくものでありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

結びに、宮崎県医師会のさらなるご発展と、先生方のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新春随想

その1

新春随想を募集いたしましたところ、多数のご投稿をいただきありがとうございます。1, 2月号にわけて掲載させていただきます。

宮崎が生んだ不屈の魂

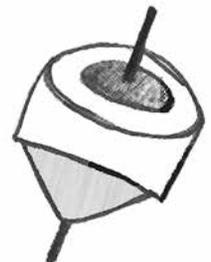
日南市 新木医院 新 木 正 剛

高木兼寛のことを知ったのは平成4年秋であり、九州麻酔学会終了後福岡市内のぶらつき歩きの途中偶然に立ち寄った書店でT先輩から薦められて購入した吉村昭の小説（白い航跡、上下巻）が原点である。「南極にタカキ岬あり」と紹介しているが一読して感動した。日露戦争では脚気のために兵隊がバタバタと倒れ、その数は敵弾による戦死者よりも多かったという。東大出身でドイツ医学の陸軍軍医、森麟太郎（鷗外）は細菌説、対するイギリス医学の海軍軍医、高木兼寛はビタミンB欠乏説を唱え白熱の論戦を繰り広げた末、終に臨床公開実験に踏み切る。結果は兼寛の圧倒的勝利に終わったにも拘わらず、当時の東大一辺倒のドイツ医学の風あたりはつよく主張が認められることはなかった。大正14年ようやくビタミン欠乏説に軍配が拳がったがすでにこの世の人でなかった。あまりにも非凡、あまりにも悲運、そしてあまりにもツイていなかった人生に涙がにじむ。

宮崎が生んだ不屈の魂、高木兼寛。今では高岡町^{ぼく}穆園広場の片隅に立ってやさしくふるさを見守っている。私は思い出したようにふとここを訪れることがある。小さな立像である。某年某日の午後、広場を守る会？の会長さんと出

くわして、しばし立ち話をしたことがある。「南極のタカキ岬をご存じですか」と聞くと、はてな?!と首を傾げていた。東京の慈恵医大創設の祖で、森鷗外と張り合っても、一步も引けを取らなかった兼寛の名に因んだ岬です、との説明にその人は真剣に耳を傾けて頷いていたのを思い出す。

宮日新聞、男のメッセージに拙文が採用されたのが平成5年8月15日のことであるが、今ではこのコーナーはない。



福島さんって、もしかして…

宮崎市 宮崎大学医学部附属病院 福 島 慶 美

そもその始まりは1年前だった。娘の小学校の合唱部が九州大会に出場することになり、先生が宮崎から佐世保まで40人をどう移動させ、どこに泊めるかと頭を抱えておられた。そんな折、娘が「おばあちゃん家に泊まったらいいよ」とぼろっと言ったらしい。先生から連絡をいただいたが、実家はかつて民宿を営んでいたとはいえ、さすがに40人は無理。ただ、地元の土地勘があるため宿探しを手伝うことになった。

先生の最大の懸念は費用だった。補助金制度を調べ、帰省ついでに何軒も下見した。最終的に、音楽室とピアノを備えた「佐世保青少年の天地」にたどり着いた。補助金を使えば1泊2食1,500円弱。企画書まで作って提出し、気づけば旅程の骨組みは私の担当になっていた。

次の課題は食事場所だ。40人が一緒に食えることができ、子ども向けでアレルギー対応が可能で、大型バスも止められること。条件に合う場所を探すのは一苦勞だったが、有田の「ポーセリンパーク」に決まった。ちょうど実家のシャインマスカットが収穫期で、母に手伝ってもらい、小分けパックを帰りのバスで渡すサプライズも準備した。

現地では、見ず知らずのお母さん方4人と二段ベッドで就寝するという思いがけない体験をした。朝食後、子どもたちが練習に励む間、親はシーツを回収し、部屋を整え、大浴場を掃除した。裏方の仕事は意外と楽しく、共同作業の中で学校や子育ての話に花が咲いた。

合唱の先生の熱心なご指導と、伴奏の先生の美しいピアノに支えられ、子どもたちは持てる

力を出し切った。結果は見事銀賞。澄んだ歌声に触れ、準備の疲れが吹き飛んだ。

この2日間を振り返ると、母親5人で35人を見るだけでも大変だったのに、先生方は普段からこれを一人で担っているのだと気づかされた。また、子どもたちも集団生活の制約の中でルールを守り、一生懸命に生活していた。教育という現場の奥深さに触れ、私自身多くのことを学んだ。

マスカットのサプライズも大好評。ひとりのお母さんに「福島さんって、もしかして旅行関係のお仕事の方ですか？」と尋ねられ、思わず笑ってしまった。私にとっては何よりの“大賛辞”である。



年男の独り言

日向市 千代田病院 ちよたんだ すすむ 晋

還暦の赤いチャンチャンコも古稀の紫色したベレー帽も卒業し7回目の年男を迎えた。午年は前進、活力、飛躍を象徴する縁起のよい年と云われる。まさに千里を駆ける駿馬である。一方、「犬馬の齢」「馬齢」といったネガティブな言葉もある。これは長く人と共存し従順なことから、ただむなしく年齢を重ねる様子を例えて

のことだそうだ。駿馬には憧れるが駄馬には親近感を覚える。最近YouTubeで会釈をしながら横断歩道を渡る奈良の鹿を見た。賢い馬も犬もたくさんいる。きちんと学習するのである。ちなみに馬鹿は当て字だそうだ。

馬の寿命は住む環境で違いはあるものの、牧場育ちの場合おおよそ25～30歳ぐらいのようだ。すでに馬の平均寿命の2倍以上も生きてきて、さすがに「馬齢を重ねまして」と謙遜すること自体馬に対して失礼というものだろう。

さて、現下の医師偏在、医療格差、少子高齢化による人手不足などの問題に加え長期のデフレ政策からインフレ政策への急激な変化と働き方改革というパラダイムシフトは長年医療費抑制に苦しんできた医療経営を急激に悪化させた。最近では物価上昇や賃上げを商品価格に転嫁できる産業への人材流出も問題となっている。今や日本の医療体制の存続そのものが危機的状況に陥っている。医療に携わる者として幾ばくかの善行は積んできたつもりではあるが泣き言を言っても容赦ない時代がそこまで来ている。

「人窮すれば天を呼ぶ」。ここはひたすら神仏に祈るしかない。幸い今年は午年だ。馬も役が多すぎて大変だが、神様と人をつなぐ神聖な存在として昔からあがめられている。力強く速く走る姿が「願いを神のもとへ素早く届けてくれる」と信じられ、絵馬に願い事を書くのもその習わしとのこと。馬にゆかりのある神社も多いので今年はずいぶんお参りしたいと思っている。

無責任力について

宮崎市 日高医院 日 高 四 郎

リストカットをしたけど死にきれなかったと話す患者さんが来られました。

いろんなことが重なって生きることにつかれたのでしょうか。本人の想いをしっかり聴いた後に、「無責任力」の話をしました。

何もかも放り投げて命を絶つことは、完全な無責任状態になるのではないのでしょうか。そして、家族や友人を含めて周囲の方々の人生に言えないような重いものを残してしまいます。

どうせ無責任状態になるのであれば、生きたまま無責任状態になってはどうですか。

しっかり眠る、声をかけられても起きない、少しずつ食べて、トイレに行ってはまた眠る。

なんと言われようが無責任になる。つまり「無責任力」を鍛えることではないのでしょうか。とにかく生きてみる。

そして、自分に「これでいいんだよ！今の自分でいいんだよ！明日は、明日の風が吹く！」と言い聞かせながら眠る。

周りからいろいろ言われても「それがどうした！だから？」と言い返せる「無責任力」を身に着けることが、生きる力ではないでしょうか…とね。

年男を迎えて：

6年周期で歩んだ私のキャリア

宮崎市 宮崎市郡医師会病院 心臓病センター 綾部 健吾

年男を迎えるにあたり原稿のご依頼を頂きました。せっかくの機会ですので、自分のこれまでの医師人生を簡単に振り返ってみたいと思います。

十二支は12年周期ですが、私のキャリアを振り返ると、なぜか“6年ごと”に節目が訪れてきました。

宮崎西高校を卒業後、1年間の駿台での浪人を経て東京の大学へ進学し、卒業後の6年間は内科・循環器の研修を行いました。

その後の6年間は一転してアメリカへ。New Yorkでのインターン、Indianapolisでの麻酔科レジデント、Los Angelesでの集中治療フェローと、気づけば国の端から端まで移動していました。多民族国家での医療、人種による価値観の違い、そして日本ではなかなか遭遇しない症例を数多く経験できたことは、今の自分の臨床姿勢に大きな影響を与えています。最終的には米国麻酔科専門医・集中治療専門医を取得し、知識も判断基準も鍛え直された6年間でした。

帰国後の6年間は東海大学で過ごしました。後藤信哉教授のもと、社会人大学院生として血栓・血小板の研究に取り組みながら、不整脈診療に専従する機会を得ました。学位取得だけでなく、臨床面でも多くを学ばせていただいた時期でした。

そして2022年、宮崎に戻り、宮崎市郡医師会病院で勤務を開始しました。柴田先生をはじめ専門性の高い先生方とともに働きながら、私は“広さ”を強みにしたいと考えています。内

科・循環器・不整脈・麻酔・集中治療——いずれの分野も特別な知識や技術を持ち合わせているわけではありませんが、複数の視点を重ねることで、患者さんにより総合的な医療を提供できると信じています。

また、地域医療は医療機関だけでは完結しません。行政や消防との連携があってこそ成立するものです。医師会病院の一員として関われる範囲は限られますが、少しでも円滑にコミュニケーションを取り、地域全体が動きやすい環境に貢献できればと思っています。

これまで6年を一区切りにキャリアが変化してきたことを考えると、医師会病院での6年間が過ぎるころには、開業という次のステージに進み、より地域に根ざした医療を実直に提供したいと考えています。宮崎県医師会・宮崎市郡医師会の先生方、そして職員の皆様には、今後多大なご指導を賜ると思います。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

年男のリスキング

宮崎市 大江整形外科病院 近藤 恭平

若輩時代に想像した48歳より未熟というのが率直な感想です。また、社会情勢に目を向けると未曾有の病院経営赤字時代ですし、また、人類史上経験したことがない少子高齢化が襲ってくる現実を漠然としかイメージできていないことに恐怖を感じています。

元来、授業や講義聴講が苦手な体質で、学ぶ手段として読書を好んでいます。読書は完成された領域を学ぶにはこれほどのものはないと思っていますが、未完の分野や刻一刻と変わりゆく分野には適さないと感じておりました。

2025年9月に病院経営の本質的な課題である労働者不足に対抗する手段として、DX人材育成講座を受講しました。1日3時間の講義が週3回開催され、計4週間のオンライン講座がプログラム内容でした。しかし、すべてアーカイブ受講になり、講義と自分自身の相性の悪さを痛感いたしました。本講座の最大の特徴は、講義終了後2週間で、異業種の3～4名の受講生がチームに割り振られ、卒業制作として実際の業務の問題点を洗い出し、アプリを制作して、DX内容を発表することです。当方は造船所職員の方と美容皮膚科クリニックの看護師とチームになりました。紆余曲折ありましたが、仲間に助けられ、アプリを完成できました。病床管理アプリを作成し、年間100万円程度の費用がかかるところを、人件費を無視すれば、数千円程度で試作品を作成できました。我々世代の学びといえば、インプットばかりでしたが、学んだらすぐアウトプットするスピード感とそれを可能にするテクノロジーを体験でき、有意義でした。

臨床も病院経営も社会変化も課題を解決することが本質であり、その手段のひとつにDXが加わったと確信しました。手段と目的を間違えることなく、これからも向上心を保ちつつ、リスキングを実践し、成熟したひとかどの人物を目指したいです。

第14回九州山口薬学会ファーマシューティカルケアシンポジウムに関して

宮崎大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 池田龍二

2026年2月7日(土)・8日(日)の両日、宮崎市民プラザ(宮崎市)にて第14回九州山口薬学会

ファーマシューティカルケアシンポジウムを開催する運びとなりました。今回、本会の実行委員長を拝命しています。このシンポジウムは、1999年2月に第1回が長崎で開催され今回14回目になりますが、宮崎では初めての開催になります。

大会テーマは、「薬剤師が切り拓くファーマシューティカルケアの最前線～患者に届ける薬剤師力～」とさせていただきます。チーム医療や医師の働き方改革におけるタスクシフト・タスクシェアが推進される中、これからさらに求められるシームレスで最適な薬物治療管理体制の構築について考える機会にしたいと思います。テーマに沿った特別講演(2題)、教育講演(2題)、シンポジウム(7題)などを予定しております。また、今回、新たな取り組みとして「九州先進的薬剤師育成推進プロジェクト(Kyushu accelerated Project for advanced Pharmacists(KPP))」を本学会にて取り入れました。このKPPは2015年より九州地区大病院の薬剤師を中心に若手研究者の発掘と次世代の人材育成を目的として発足したプロジェクトになります。さらに、特別企画として「薬剤師の魅力とこれから求められる職能について考える」と題した座談会や診療報酬セミナー、特別シンポジウム、処方解析セミナー、行政や薬学部との連携企画などを準備させていただきました。本会を通して、連携の大切さ、研究・教育・医療業務の発展の一助になることを期待しております。

先生方のご参加を心よりお待ちしております。

思い出

千葉市 介護保険施設 四街道徳洲苑 (四街道徳洲会病院内)

岩 ^{いわ} 下 ^{した} 徹 ^{ととおる}

一度はお断りしようかと思った、この原稿を書いてみることにした。

まずは、齢83歳にして、働くという動作ができていることは、過去、現在における周りの方々のおかげであると感謝している。物質としての肉体が徐々に破壊されていくのも時間の問題であろうか。“若さ”といったものが本当に眩しく見える今日ではある。

老健という施設の中で、自分と前後した世代の方々の息遣いを感じながら、これまでの時間の流れが、浮かんでは消え、浮かんでは消えていく。

防空壕の記憶が残る太平洋戦争の末期に生を受けて、物資の乏しかった日常と、軍人上がりだった父親の逆境に荒れ果てた人生の中で育ってきた。

いくつかの理由で、当時、夢物語であった宇宙への憧れを捨てて、医療の世界で生きていくことになった。

下積みのサラリーマンとしての父親の悲しみを背負っての医療界への出発であったが、インターン最後の学生としての紛争、研究室の封鎖など、貧乏人にとって決して楽な船出ではなかった。糧を得るために、船医としての時間を過ごしたこともあった。油を流したように滑ったとしたインド洋の上を走る船のデッキの上で、自分の根無し草的な存在に、涙を流した思い出もある。

京都では、医学生時代に、音楽家である中川牧三氏との出会い、レッジーロテノールとし

ての訓練を受けたものの、結局は間質性肺炎にむしばまれ、今日では大声を出すことはおろか発作的な咳に襲われて、皮肉なものであるが、受け入れなければならない現実の一つになってしまった。

その後は、時間の経過とともに、いろいろな人たちの助けをお借りして、へき地医療に携わることもでき、また学位の取得も可能となり、さらに20年を超える内科開業医としての時間、その後の今日までの老健施設長としての流れの中に、浮かびながら、今日を漂っている。

私より早く逝ってしまったが、またとない伴侶にも出会うことができ、この世に迎えた娘は、今は、自分で望んで、切り開いた道を歩いている。何もしてやることはできなかったが、かえって、それでよかったのかもしれない。

若くエネルギーのあった当時は、先が見えず、右往左往していたような出来事も、今の時点から見ると、単なるひとつのエポックにすぎないと感じられる。やはり現在ある自分の姿をそのまま肯定していくことが、自分にとって、今は一番楽に過ごしていけるのかな、といかにも悟ったような気分にはなる。



ふゆどなり ふゆごもり
冬隣，冬籠日南市 北村胃腸科眼科 ^{きた} ^{むら} ^{まさ} ^お
北 村 應 旺 (和生)

♪毎日難儀なことばかり…

日に日に世界が悪くなる…♪

(ハンバート ハンバート/朝ドラ主題歌

「笑ったり転んだり」)

まったくそのとおり！ こんな時代は酒を飲んで笑い飛ばして生きよう！ 酷暑の主役であったビールがようやく舞台を降り、気づけば冬隣、焼酎が戻ってきた。最近は「霧島 No.8」をロックか炭酸割で飲むことが多い。ただ、本業左前につき、3杯目以降は親父の代から臍眞にしているコスパ抜群の1.8Lパック入り「松の露」に切り替え、その分、週末・祝日にはワインと酒落込む。ボルドーが手ごろだが、州ごとに個性が際立つイタリアワインにも心持ち甘めでお気に入りのものが多い。「ハレの日」にはブルゴーニュや、とっておきの1本を手取ることもある。そして年末にはボジョレーが美味い。普段は妻と2人なので、1本空けると飲みすぎだが、時には集うメンツや季節によって赤、白、泡、ロゼから選ぶことになる。ワインは、ブドウの種類の違い、混ぜ合わせassemblageの有無、ブドウ畑ごとの違いterroir、収穫年の気候による違い、料理との組み合わせmariageなど変化に富んでいて奥が深い。

そして冬籠。清酒は普段飲まないが正月限定。酒好きの娘婿たちが各地の銘酒を持参するのだ。お屠蘇に用い、おせちを肴に少しずつ口に運ぶのだが、あっという間に蒸発してしまう。しかも今年は午年で年男だ。洋酒は減多に飲まない。まだ青かった医学部合格時、恩師に勧められるまま、だるま(オールド)を一人で

一本短時間に空け、急性アル中になった“青春の蹉跌”の記憶がある。だが、飲めないわけではなく、ウイスキー、ブランデー、ラム酒に自作の梅酒と、手当たり次第なんでも飲めるのは父親譲りか。1日何グラムまで、など大きなお世話だ。

近頃はアルコールも煙草と同じ道を辿っている。発癌物質の仲間入りをして肩身が狭くなりつつあるのだ。それにともないノンアル飲料が売り上げを伸ばしている。中には本物に劣らないものもあるというが、個人的には飲もうと思わない。逆説的だがノンアルに頼らねばならぬほどアルコール依存に陥ってはいないと自負しているからだ。何より、紀元前から人類に愛されてきた飲み物だ。せめて夜だけでも酔生夢死を気取って、限りある人生を楽しみたい。この時期の酒を歌った好きな曲がある。シャンソン、ジャズ、フアド、演歌となんでもござれの、ちあきなおみ姐御の歌唱はもちろん絶品だが、何より「地球の」という句がこの曲を非凡なものにしている。作詞は吉田旺。胃肝臓！飲みすぎてもうた。

♪…地球の夜更けはせつないよ

そこから私が見えますか～♪

-「冬隣」-

新春に寄せて

- 大動脈緊急症医療のこれから

宮崎市 宮崎大学医学部附属病院 心臓血管外科 ^{ふる}古 ^{かわ}川 ^{こう}貢 ^じ之

新しい年を迎え、地域医療の未来についてあらためて思いを巡らせています。昨年10月、大阪で開催された第78回日本胸部外科学会学術集会にて、「大動脈緊急症ネットワークの実情と将来構想」というテーマで講演する機会を頂きました。本稿では、その内容を少しご紹介しながら、宮崎県における心臓血管外科医療の現状と展望をお伝えしたいと思います。

県内で大動脈緊急症の外科治療が可能なのは、宮崎大学病院、県立宮崎病院、宮崎市郡医師会病院、県立延岡病院の4施設で、いずれも宮崎大学の関連病院です。私たちはGmailカレンダーを用いて各施設の手術状況を共有し、宮崎市内の3施設ではなるべく手術日が重ならないように調整しています。緊急手術の依頼があった際には待機時間が短い施設で対応する仕組みを整えています。いずれの病院でも対応が困難な場合は近県の施設へ搬送することもあります。

大学病院では、2015年からの10年間でA型大動脈解離に対する手術を86件行い、入院死亡率は7%でした。都市部のデータと比較しても遜色のない成績です。しかし疫学調査を進めると、宮崎県では高齢者のA型大動脈解離が多く、相当数の患者さんが「dead on arrival」として手術に至っていない可能性があることが分かりました。

今後20~30年間で高齢者人口が増加するにともない、大動脈解離の発生数も増えると予想されます。特に医師数の少ない地域では、この

傾向が顕著になるでしょう。そこで私たちは、医療ニーズの高い地域での心臓血管外科チームの新設に取り組んでいます。県内の先生方には、高齢者循環器疾患に関する知識の普及にご協力いただくとともに、高血圧管理を通じた発症予防にご尽力いただければ幸いです。また、救命救急体制の充実、ステント治療の進歩、心臓血管外科医の養成環境の整備も重要な課題と考えています。

私は2021年に教授に就任しました。定年まで残された10年の間に、宮崎県民の皆様が安心して適切な治療を受けられる体制を築き上げたいと願っています。新しい年が、地域医療に携わるすべての方々にとって希望に満ちた一年となりますよう祈念いたします。

集計作業

延岡市 みやた内科医院 みや た じゅん いち
宮 田 純 一

新しい年を迎えた。年末から新年にかけて毎年さまざまな年間の統計が発表されている。集計した結果は数値で示すと分かりづらいが表やグラフ、面積で示すと理解し易くなる。

私が自分で毎年集計しているものの1つに学校検尿がある。私は腎臓を専門としているが勤務医のころは学校検尿は小児科の分野だと思い関心はなかった。しかし、医院を開業すると「学校医になりなさい」とか「医師会の理事として学校検診を担当しなさい」という先輩の命令があり学校検尿の結果集計も行わなければならなくなった。当時は集団検診は別として個別検診を行っている地区ではいろいろな病名がみられた。例を示すと血尿症候群としてまとめられる病名に血尿、チャンス血尿、微少血尿、無症候性血尿がそのまま集計されていた。

そのころ九州学校検診協議会の腎臓専門委員に指名され九州全体の検診業務に携わることになった。熊本県の委員の服部先生から鹿児島の上宮先生に学校検尿のマニュアルを作成するようにと指示があり、平成15年に「九州学校腎臓病検診マニュアル」が作成された。マニュアル作成にあたり同一の方法、同一の診断基準、同一の診断名にして検診が行われることを目標とした。私が宮崎県の委員として提案し作成した主な項目は検診結果の集計表の作成、病名統一の目的で検診結果報告書に主な診断名を記載し番号に○印を付ける形式にすること、マニュアルのダイジェスト版を作成すること、臨床診断名と病理診断名を分けて集計することなどである。検診の方法については、マニュアル作成

前の平成13年、作成後の平成23年と令和2年に九州すべての郡市医師会を対象として腎臓検診の方法についてアンケート調査を行った。マニュアルに従って現在では九州全体で正確な検診結果の集計が行われている。

年末に発表されるさまざまな集計を目にしたとき、正確さを判断するため集計方法についても関心を持つ必要があると思う。



仙人からの教え

宮崎市 ^{たに}谷 ^{ぐち}口 ^じ二郎

初夢を見た。それは仙人が現れ、「なあ、おまえ。喜寿を迎えたのに、まだ自分というものが分かっとらん。起きたらダラダラと一日を過ごし、テレビは付けっぱなし。何かをしようという目標もなく一日を過ごしている。明日からウォーキングしようとか、早起きするとか、日記をつけようとか、お酒は控えめにしようなんて毎日思っているだろう。『そのうちに』『いずれ』『いつか』なんてのんびりかまえていると、ふと気がついたらもう夜。寝る時間だ。一日がなんて早く過ぎていくなんでブツブツ言っても始まらない。一体自分はなんのために生きているのか考えたこともないだろう。せめてそうならないようにトイレの壁に次のものを貼れ！」。

まず一年分のカレンダー。用を足しながら、今日が何月、何日、何曜日なのか確認。一週間後、一か月後に何をやりたいのか思い浮かべよ！そうすれば今自分が一年のどの辺で生きているのか分かる。それが分かれば自分の目標、目的も自覚することができるはずじゃ。

次に世界地図、日本地図、自分の住んでいる県、市町村の地図を貼れ。それを眺め今自分がどこで生きているのか、どうしてここにいるのかを確認しろ！今世界中でいろんな紛争や気候変動が起こっている。それがどこで起こっているのか、どうしたらそうならないようにできるのかを考えるのだ。常に自分だけではなく、世界に目を開き、グローバルな考え方を持つことが大切だ。

自分の幼いころの写真を貼れ。子どものころ

は必ず夢を持っていたはずだ。そして今よりずっと純粹に生きていた。それがだんだん私利私欲に走り、今のあなたがいる。若いころに抱いていた夢はまだ忘れていないはずだ。夢が実現しなくても、夢を持つということは大切なことだ。

家族の写真を貼れ。今自分が頑張れているのも家族あっての自分だ。自分が一番偉いわけではない。いずれ年老いて一番世話になるのも家族である。家族のことを考えるということは、全世界の生きるのに大変な人たちのことを思いやるということにもつながる。

仙人は続けてこう言われた。「新年を迎えることができおめでとう。今生きていることは当たり前のことじゃない。奇跡なんじゃ。毎日を大切に夢と感謝を持って生きるんじゃよ。分かったか！」。

目が覚めると、もう仙人はそこにいなかった。

私の当番医

都城市 橋病院整形外科 ^こ小 ^{じま}島 ^{たけ}岳 ^し史

初日の出
サーフィン終わりに
外来へ

芥川龍之介

宮崎市 中山医院 なか やま けん

旧聞ながら菊池寛創設の芥川賞は昨年第173回を迎えましたが、結果は該当作なしに終わりました。これは27年ぶりのことだそうです。

私が龍之介を初めて知ったのは小学生のころでした。買ってもらえる書物が充分ではなく文字に飢えており、家の倉庫などで大人の書物を漁っておりました。それらの中で今も記憶に残るのは偶然ながら菊池寛と芥川龍之介の2冊の全集本で前者は朱色を基調とした布張りのカバー、後者は白色のハードカバーでした。当時の私には寛は面白くなくそれでも「父帰る」だけは覚えています。龍之介は周知のごとく35歳の若さで（将来に対するただぼんやりとした不安）「或旧友へ送る手記」との言葉を残してヴェロナールとジャール（バルビツール酸系薬剤の旧名）の致死量を仰ぎ自ら人生を絶ちました。そのひと月前に脱稿した「或阿呆の一生」では彼の心情の一端が窺われます。

ところで幼少の私がなぜ読めたのでしょうか。今手に取っても文章は難解で漢字がやたら多く、名詞だけでなく形容詞や形容動詞まで多用

されています。それでも読めたのは、ほぼすべての漢字にルビが振ってあったからです。作者の意図は分かりませんが、写真を見ると生原稿からそうであったようです。

それから月日は経ちましたが、彼の作品のいくつかはそのタイトルと断片的ながら内容がずっと頭に残ってきました。例えば、みにくい鼻を持った内供が苦心して少し見映えをよくしたところ世間は前にも増して嘲笑った「鼻」、ある下人が自分の行為を正当化しながら老婆の衣服を剥ぎ取り蹴り倒した「羅生門」や出生の可否を父から問われた河童の胎児が父の性を危惧して否と応じ簡単な処置で直ちに消滅した「河童」等々です。

よくある質問で「貴方が書籍一冊のみの持参を許されて島流しにされるとしたら答えは？」というのがありますが、私に迷いはありません。ただ生涯かけてもすべての読解は無理ではとの不安は正直あります。

なお第174回芥川賞候補作は昨年12月11日に5作がノミネートされ、本年1月14日に選考会が開かれますがフレッシュな受賞者を期待しております。

お知らせ

カット、イラストの募集

日州医事のページを飾るカットやイラストを募集しております。ぜひ、作品をお寄せください。

なお、白黒での掲載になります。採否は広報委員会にお任せください。



原稿宛先

宮崎県医師会広報委員会
〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101
genko@miyazaki.med.or.jp

令和7年1月～12月に 叙位・叙勲・褒章及び各種表彰を受けた会員の先生

叙位・叙勲・褒章

【宮崎市郡医師会】

保健衛生功勞により旭日双光章（令和7年4月29日）	山 村 善 教
保健衛生功勞により旭日双光章（令和7年11月3日）	原 田 雄 一
保健衛生功勞により瑞宝小綬章（令和7年11月3日）	石 川 正

【延岡市医師会】

学校保健功勞により瑞宝双光章（令和7年4月29日）	小 池 祐 一
---------------------------	---------

【日向市東臼杵郡医師会】

学校保健功勞により瑞宝双光章（令和7年11月3日）	稲 原 明 肆
---------------------------	---------

【南那珂医師会】

保健衛生功勞により瑞宝小綬章（令和7年11月3日）	藤 元 秀一郎
---------------------------	---------

各種表彰

【宮崎市郡医師会】

公衆衛生功勞により県知事表彰（令和7年2月4日）	三 原 敬
公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰（令和7年2月25日）	海老原 爲 博
医療功勞により県知事表彰（令和7年6月14日）	高 村 一 志
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	杉 田 新
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	福 永 隆 幸
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	小 緑 英 行
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	井 手 勝 彦
国民健康保険事業功勞により国民健康保険中央会表彰（令和7年8月29日）	田 畑 直 人
国民健康保険事業功勞により国民健康保険中央会表彰（令和7年8月29日）	川 越 宏 文
救急医療事業功勞により県知事表彰（令和7年9月8日）	今 村 卓 郎
国民健康保険関係功績により厚生労働大臣表彰（令和7年10月27日）	中 崎 秀 二
国民健康保険関係功績により厚生労働大臣表彰（令和7年10月27日）	姫 路 大 輔

【都城市北諸県郡医師会】

公衆衛生功勞により県知事表彰（令和7年2月4日）	義 川 剛太郎
公衆衛生事業功勞により日本公衆衛生協会会長表彰（令和7年2月25日）	坂 口 健次郎
医療功勞により県知事表彰（令和7年6月14日）	檜 原 進一郎
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	木 村 健
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	濱 田 圭 一

学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	宮 田 和 典
救急医療事業功勞により県知事表彰（令和7年9月8日）	森 山 拓 造
学校保健及び学校安全に関する文部科学大臣表彰（令和7年11月20日）	濱 田 義 臣

【延岡市医師会】

公衆衛生功勞により県知事表彰（令和7年2月4日）	丸 山 洋一郎
公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰（令和7年2月25日）	木 下 義 美
公衆衛生事業功勞により日本公衆衛生協会会長表彰（令和7年2月25日）	佐 藤 信 博
医療功勞により県知事表彰（令和7年6月14日）	平 野 雅 弘
血液事業の発展に寄与された功績により厚生労働大臣表彰（令和7年7月16日）	医)建悠会 吉田病院
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	野 田 寛
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	高 尾 雄 平
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	林 田 中
救急医療事業功勞により県知事表彰（令和7年9月8日）	押領司 篤 茂
救急医療功勞により厚生労働大臣表彰（令和7年9月9日）	長 沼 弘三郎

【日向市東臼杵郡医師会】

医療功勞により県知事表彰（令和7年6月14日）	松 岡 敬 子
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	家 村 文 夫
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	中 村 剛 之
救急医療事業功勞により県知事表彰（令和7年9月8日）	中 平 孝 明

【児湯医師会】

医療功勞により県知事表彰（令和7年6月14日）	内 田 俊 浩
-------------------------	---------

【西都市西児湯医師会】

公衆衛生功勞により県知事表彰（令和7年2月4日）	児 玉 健 二
公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰（令和7年2月25日）	大 塚 和 子
医療功勞により県知事表彰（令和7年6月14日）	上 野 尚 美
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰（令和7年8月26日）	黒 木 重 晶

【南那珂医師会】

医療功勞により県知事表彰（令和7年6月14日）	外 山 望
-------------------------	-------

【西諸医師会】

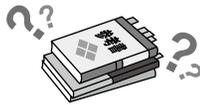
学校保健及び学校安全に関する文部科学大臣表彰（令和7年11月20日）	長 井 章
労働基準行政関係功勞により厚生労働省労働局長表彰（令和7年11月23日）	田 原 徳 人

【西臼杵郡医師会】

産科医療功勞により厚生労働大臣表彰（令和7年9月9日）	寺 尾 公 成
-----------------------------	---------

【宮崎大学医学部医師会】

労働基準行政関係功勞により厚生労働大臣表彰（令和7年11月23日）	落 合 秀 信
-----------------------------------	---------



あなたできますか？

—令和6年度 医師国家試験問題より—

(解答は63ページ)

- 48歳の女性。ふらつきと複視を主訴に来院した。10日前に38°Cの発熱と咽頭痛が出現したため、自宅近くの診療所で総合感冒薬の処方を受け、7日前に症状が改善した。2日前からテレビの画面が二重に見えることに気付いた。昨日から歩行時にふらついて転びそうになることが増えてきたため受診した。意識は清明。体温36.5°C。脈拍68/分、整。血圧120/68mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。神経診察では、両眼とも垂直、水平方向の眼球運動制限を認め、正面視以外で複視を自覚する。眼振は認めない。四肢筋力は正常だが、四肢腱反射はすべて消失している。Babinski徴候は陰性。膝踵試験は両側とも拙劣で、歩行は可能だが歩隔は広く不安定である。感覚障害は認めない。尿所見と血液所見に異常を認めない。
この患者と同様の発症機序と考えられるのはどれか。
 - 重症筋無力症
 - 多発性硬化症
 - 進行性核上性麻痺
 - Guillain-Barré症候群
 - 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉
- 細菌培養検査の検体に適さないのはどれか。
 - 中間尿
 - 尿道分泌物
 - 導尿で採取した尿
 - 腎瘻造設時に採取した尿
 - 尿道留置カテーテルの集尿袋内の尿
- 76歳の男性。高血糖高浸透圧症候群のため1週間前から入院中である。本日、訪室した際に、呼びかけに反応がなかった。糖尿病以外の既往歴はなく、入院時の血糖は785mg/dLであったが、大量輸液とインスリン皮下注射で改善していた。直近数日の血糖は100～150mg/dLであった。意識レベルはJCS III-100。体温36.2°C。心拍数108/分、整。血圧138/82mmHg。呼吸数18/分。SpO₂99% (room air)。瞳孔は左右対称で対光反射は正常。顔面神経麻痺を認めない。指示には従えないものの四肢を動かしており、明らかな麻痺は認めない。
まず行うべき検査はどれか。
 - 血糖測定
 - 脳波検査
 - 頭部単純CT
 - 脳脊髄液検査
 - 動脈血ガス分析
- 医療保険で利用可能なのはどれか。
 - 住宅改修
 - 訪問診療
 - 介護医療院
 - 福祉用具貸与
 - ショートステイ
- 抗原提示能をもつのはどれか。
 - T細胞
 - 血小板
 - 好酸球
 - 好中球
 - 樹状細胞
- 片頭痛で正しいのはどれか。2つ選べ。
 - 男性に多い。
 - 入眠中に多い。
 - 体動により増悪する。
 - 拍動性の痛みが多い。
 - 発作予防にトリプタンを用いる。
- 僧帽弁閉鎖不全症の原因となるのはどれか。
3つ選べ。
 - 高安動脈炎
 - 拡張型心筋症
 - 急性心筋梗塞
 - 感染性心内膜炎
 - 急性大動脈解離
- 医療倫理の4原則に含まれないのはどれか。
 - 正義
 - 善行
 - 無危害
 - 自律尊重
 - 共同意思決定
- 抗精神病薬の作用と関連しているのはどれか。
 - ドパミン受容体
 - セロトニン受容体
 - モノアミンオキシダーゼ
 - アセチルコリンエステラーゼ
 - ノルアドレナリントランスポーター
- 医療計画において二次医療圏単位で基準病床数が設定されるのはどれか。2つ選べ。
 - 一般病床
 - 結核病床
 - 精神病床
 - 療養病床
 - 感染症病床

エコー・リレー

(605回)

(南から北へ北から南へ)

週末チャリ練

宮崎市 大塚小松台眼科 なか やま けい すけ
中 山 恵 介



大学や県病院時代に乘れていなかったロードバイク（ドロップハンドルのスポーツ用自転車）を3年前に体力維持目的で再開しました。清武から田野まで往復30kmのコースを日曜日の

午前中に走っています。少しでも路面が濡れていたら出走を中止するダレた週末ライダーな自分ですが、続けていると人生にも共通する教訓みたいなものを得ることができます。いくつか挙げてみますと、

① 心を折るのは上り坂ではなく向かい風
上り坂については、おおよそどこまで続くのか把握できるためペースコントロールが可能です。向かい風はどの区間でどの程度吹くのか毎回異なり、同じ道を同じ負荷をかけて漕いでもペースが保てなくなることによって心が折れがちです。逆に追い風は、能力が向上したように錯覚させる点で、それはそれでやっかいです。

② シフトダウンはキツくなる前に
登坂などでギリギリまで頑張り、いよいよ苦しくなってからシフトダウンしても心拍が戻るまでは楽にならず結局ペースは落ちてしまいます。また、加重をかけた状態でシフトチェンジすると機材に負担がかかりメカニカルトラブルも起きやすくなります。キツくなる前にギアを変え、淡々と漕いでいくのが安定した走りにつながります。

③ 楽なコースなどない
下りや平坦路であっても、昨日より速く走ろうとすればキツさは上りとちっとも変わりません。等々、そんな当たり前なことを肌で感じさせられながら、今週末もボチボチ走ってきます！

[次回は、宮崎市の藤井 将人先生にお願いします]

歌舞伎への誘ない

延岡市 黒木病院 しお つき ひろ のり
塩 月 裕 範



『當る午歳 吉例顔見世興行 東西合同大歌舞伎』を京都「南座」に観劇に行きます。今回は八代目尾上菊五郎さん・六代目尾上菊之助さん親子の襲名披露公演も行われますので楽しみです。

歌舞伎の顔見世興行とはその年の役者がそろう一座の顔ぶれをお披露目する、最も重要な年間の興行です。江戸時代には劇場と役者との一年ごとの契約が十一月更新される習慣があったことに由来し、京都南座でも年末の風物詩として行われています。

「かぶき者」の斬新な動きや派手な装いを取り入れた「かぶき踊り」が「かぶき」の語源となっております。江戸時代、歌舞伎役者は「河原者」（賤民）として身分上は差別されておりました。しかし、明治政府が、一八八六年演劇改良会を設立し、翌年には天覧歌舞伎を実現させ役者たちの社会的地位向上を助けました。逆に自分たち庶民には敷居の高い演劇と感じられる方もいるでしょう。でも、かく言う私も初めてはワンピース歌舞伎でした。市川猿之助がルフィとハンコックの二役で、役者たちが各々のお家芸を此処彼処に織り込んだ楽しいお芝居でした。また、指金・十八番といった歌舞伎に由来する言葉もあります。そういったことを解説してくれるイヤホンガイドを聞きながら観劇すれば内容も分かりやすく楽しめます。

今年は松竹創業130周年という節目で、映画「国宝」のヒットもあり、歌舞伎への関心が高まっております。

ぜひ皆様、歌舞伎観劇にお出かけください。

[次回は、宮崎市の國武 歩先生にお願いします]

身近なお困りごと相談室

本コーナーでは、「医療機関での身近な疑問や質問」について、各分野の専門家が回答いたします。

第53回 インシデント・アクシデントレポートについて



Q.

当院ではヒヤリハット事例や何か事故が生じたときにインシデント・アクシデントレポートの作成を推奨していますが、なかなか職員が作成せず、問題が生じたときの対応に苦慮することがよくあります。インシデント・アクシデントレポートを職員が積極的に作成するようにどのように指示・指導すべきでしょうか。

医療現場では予期せぬ事故が生じたり、望まぬ結果が生じたりすることが不可避な分野です。そのようなときに、医療機関における各種レポートは、医療安全を確保するための中核的な仕組みであるとともに、院長や管理職には、その運用を適切に統括する責任があります。一方で、報告書の内容や管理方法を誤ると、紛争発生時に医療機関全体の法的リスクを高めてしまう恐れがあり、この点を恐れて作成を躊躇される方もいらっしゃるかと思います。

まず職員に強調すべきは、インシデント報告書は医療安全向上を目的とした内部資料であり、責任追及や懲戒のための書類ではないという点です。報告書が「誰かの過失を探す道具」になってしまうと、現場の萎縮や報告忌避を招き、結果として医療安全が損なわれます。そのため、「レポートを出すことが決して悪いことではない。むしろ、医療安全を高めるための重要な資料提供である」との認識を、院長自らが積極的に職員に発信すべきでしょう。

次に、法的観点から注意すべきは、報告書における記載内容です。「不注意」「確認不足」「ミスをした」などの評価的・断定的表現は、後に医療事故として紛争化した際、過失の自認として引用される可能性があります。そのため、レポートに記載すべきは確認された客観的事実を記載するにとどめ、その評価や原因分析、今後の医療安全体制構築は組織として別途行うことを、院内で明確に周知する必要があります。

また、報告書の保管・閲覧範囲についてもルール化が不可欠です。必要以上に共有範囲が広がると、情報管理上の問題や二次的トラブルを生むおそれがあります。院内での各種レポートの取扱い手順を明確にし、目的外利用を防ぐ体制整備が求められます。

医療安全と法的リスク管理は両立可能です。院長・管理職が報告書の意義と法的側面を正しく理解し、現場を支える姿勢を示すことが、結果として医療機関と職員、そして患者を守ることに繋がります。

(回答 宮崎県医師協同組合顧問弁護士
弁護士法人きさらぎ 代表弁護士 高山 桂)

A.



<医療機関での身近な疑問、質問をお寄せください>

- 文字数：200字以内
- 質問はメール (genko@miyazaki.med.or.jp), FAX, 郵送などでお送りください。
※匿名での掲載になります。採否は広報委員会にご一任ください。

処方薬の「推奨・エビデンス」を加えさらに充実した、 信頼と実績の治療年鑑 第68巻

2026年1月上旬発行



- 1959年の初版から長きにわたり臨床現場で使われてきた信頼と実績の最新治療年鑑。
- 今版では、エビデンス情報強化の一環として、新たに主な処方薬の「推奨・エビデンス」を示した。
- 付録電子版限定コンテンツの「エビデンス解説」も大幅にボリュームアップ。
- 薬剤師による「服薬指導・薬剤情報」や各種付録など便利な情報も満載。

『治療薬マニュアル2026』との併用で2冊の電子版が連携し、診療データベースとして利用できます。

今日の治療指針 2026年版 付録電子版付

総編集 福井次矢・高木 誠・小室一成

- ポケット判 (B6) 頁2272 2026年 定価17,600円 (本体16,000円+税10%) [ISBN978-4-260-06247-3]
- デスク判 (B5) 頁2272 2026年 定価24,200円 (本体22,000円+税10%) [ISBN978-4-260-06248-0]

※付録電子版・WEB電子購読版が2026年版のコンテンツに更新されるのは2026年3月末の予定です。

今日の治療指針
公式サイト



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <https://www.igaku-shoin.co.jp>

宮崎県感染症発生動向 ～11月～

令和7年11月3日～令和7年11月30日（第45週～第48週）

■全数報告の感染症

1類：報告なし。

2類：○結核17例（男性8例・女性9例）：保健所別報告数は【図1】，病型別報告数は【表1】，年齢別報告数は【表2】のとおりであった。

3類：○腸管出血性大腸菌感染症6例：都城（4例），宮崎市，小林（各1例）保健所管内から報告があった。患者が2例，無症状病原体保有者が4例であった。年齢は0～4歳，20歳代，50歳代，60歳代，70歳代，80歳代が各1例で，原因菌は【表3】のとおりであった。主な症状として，腹痛，水様性下痢，血便，嘔吐，発熱がみられた。

4類：○日本紅斑熱3例：宮崎市（2例），日南（1例）保健所管内から報告があった。年齢はいずれも80歳代で，性別は男性2例，女性1例であった。主な症状として発熱，刺し口，発疹，肝機能異常等がみられた。

○レジオネラ症1例：日向保健所管内から報告があった。年齢は30歳代で，性別は男性であった。病型はポンティアック熱型であった。主な症状として発熱，咳嗽がみられた。

○レプトスピラ症1例：小林保健所管内から報告があった。年齢は60歳代で，主な症状として筋肉痛等がみられた。

5類：○劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は80歳代で，主な症状としてショック，急性呼吸窮迫症候群，DICがみられた。

○梅毒3例（男性1例・女性2例）：保健所別報告数は【図2】，病型別報告数は【表4】，年齢別報告数は【表5】のとおりであった。主な症状として初期硬結，梅毒性バラ疹，丘疹性梅毒疹がみられた。

○百日咳11例：保健所別報告数は【図3】，年齢別報告数は【表6】のとおりであった。主な症状として持続する咳，夜間の咳き込み，呼吸苦，スタッカート，ウープ，嘔吐，肺炎がみられた。ワクチン接種歴は有りが9例，不明が2例であった。

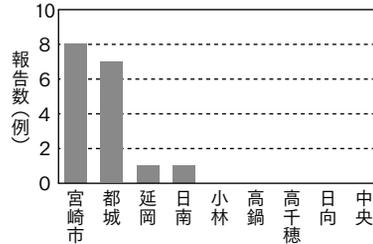


図1 結核 保健所別報告数(例)

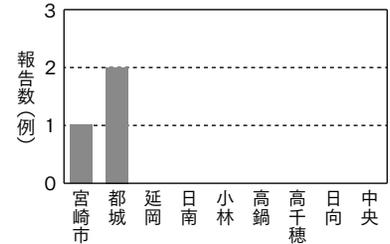


図2 梅毒 保健所別報告数(例)

表1 結核 病型別報告数

肺結核	9
肺結核及びその他の結核(粟粒結核)	1
その他の結核(腎結核, 結核性リンパ節炎, 結核性胸膜炎)	3
無症状病原体保有者	4

表4 梅毒 病型別報告数(例)

早期顕症梅毒Ⅱ期	2
無症状病原体保有者	1

表5 梅毒 年齢別報告数(例)

年齢	報告数
20歳代	2
40歳代	1

表2 結核 年齢別報告数(例)

年齢	報告数
20歳代	3
40歳代	2
50歳代	2
60歳代	2
70歳代	4
80歳代	2
90歳代	2

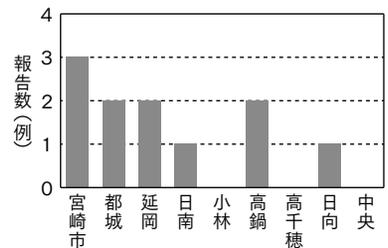


図3 百日咳 保健所別報告数(例)

表3 腸管出血性大腸菌感染症 原因菌別報告数(例)

原因菌	報告数
O157 (VT2)	2
O103 (VT1)	1
O115 (VT1)	1
O血清群不明 (VT1)	1
O血清群不明 (VT2)	1

表6 百日咳 年齢別報告数(例)

年齢	報告数
0～4歳	1
5～9歳	4
10歳代	5
60歳代	1

■5類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数（急性呼吸器感染症は除く）は3,457人（定点あたり162.3）で、前月の128%、例年（新型コロナウイルス感染症・急性呼吸器感染症は除く）の169%であった。急性呼吸器感染症の患者報告総数は7,391人（定点あたり264.0）で、前月の約113%であった。

前月に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎及び伝染性紅斑であった。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患はインフルエンザ、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び伝染性紅斑であった。

インフルエンザの報告数は2,247人（80.3）で前月の約6.5倍、例年の約16.0倍であった。延岡（128.3）、小林（97.5）、宮崎市（84.9）保健所からの報告が多く、15歳未満が全体の約7割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は187人（12.5）で前月の約0.6倍、例年の約5.6倍であった。日向（29.0）、高鍋（28.0）、日南（16.0）保健所からの報告が多く、3歳から6歳が全体の約6割を占めた。

前月との比較

	2025年11月		2025年10月		例年との比較
	報告数(人)	定点当たり(人)	報告数(人)	定点当たり(人)	
インフルエンザ	2,247	80.3	344	12.3	★
新型コロナウイルス※1	145	5.2	553	19.8	★
RSウイルス感染症	65	4.3	185	12.3	★
咽頭結膜熱	42	2.8	29	1.9	
溶レン菌咽頭炎※2	216	14.4	152	10.1	★
感染性胃腸炎	443	29.5	498	33.2	
水痘	28	1.9	20	1.3	
手足口病	1	0.1	2	0.1	
伝染性紅斑	187	12.5	302	20.1	★
突発性発しん	19	1.3	26	1.7	
ヘルパンギーナ	2	0.1	13	0.9	
流行性耳下腺炎	1	0.1	3	0.2	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	50	8.3	66	11.0	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	0	0.0	1	0.1	
マイコプラズマ肺炎	11	1.6	11	1.6	
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.0	0	0.0	
急性呼吸器感染症	7,391	264.0	6,545	233.8	★

★例年同時期【新型コロナウイルス感染症流行前5年間(2015-2019)の平均】より報告数が多い

※1 新型コロナウイルス感染症

※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■病原体検出情報（微生物部）

★急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）

検出病原体		検出数	
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	0
		AH3	14
	B型	ビクトリア系統	1
		山形系統	0
新型コロナウイルス		2	
RSウイルス	A型	1	
	B型	0	
パラインフルエンザウイルス	1型	1	
	2型	1	
	3型	0	
	4型	0	
ヒトメタニューモウイルス		1	
ライノウイルス		10	
エンテロウイルス		0	
アデノウイルス		0	
ライノウイルス・アデノウイルス		1	
インフルエンザウイルスAH3・パラインフルエンザウイルス2型		1	
インフルエンザウイルスAH3・ライノウイルス		5	
新型コロナウイルス・ライノウイルス		1	
パラインフルエンザウイルス1型・ライノウイルス		1	
検出せず※2		13	
受付検体数		53	

○急性呼吸器感染症（ARI）※1サーベイランス検体について

急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

※1 急性呼吸器感染症（ARI）：咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※2 左記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

検出病原体		件
細菌	Salmonella Saintpaul (O4:e,h:1,2)	1
	Salmonella Bareilly (O7: y :1,5)	2
	Salmonella Enteritidis (O9:g,m:-)	1
ウイルス	Echovirus 9	1
	Human herpes virus 6	2
	SARS-CoV-2	1
	Rhinovirus A	1
	Parvovirus B19	4
	Adenovirus B3	2
	Influenza virus A H3	5

■月報告対象疾患の発生動向〈2025年11月〉

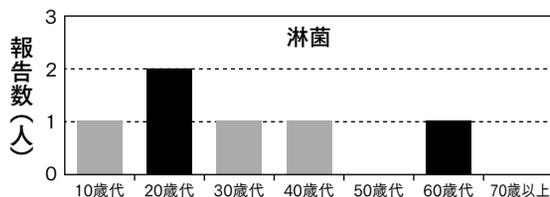
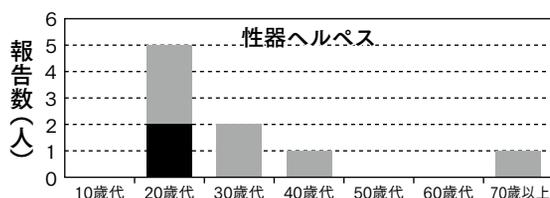
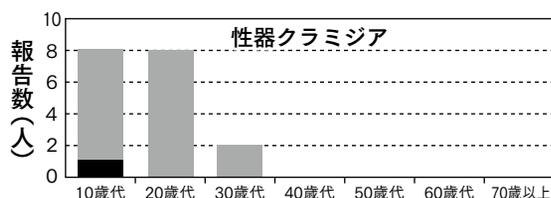
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は33人（2.5）で、前月比103%とほぼ横ばいであった。また、昨年11月（3.1）の約0.8倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数18人（1.4）で、前月の約1.1倍、昨年11月の約0.9倍であった。10歳代と20歳代がそれぞれ全体の約4割ずつを占めた。（男性1人・女性17人）
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数9人（0.69）で、前月の約1.3倍、昨年11月の約0.9倍であった。（男性2人・女性7人）
- 尖圭コンジローマ：報告なし。
- 淋菌感染症：報告数6人（0.46）で、前月の約1.5倍、昨年11月の約0.9倍であった。（男性3人・女性3人）



■男 ■女

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は17人（2.4）で、前月比65%と減少した。また、昨年11月（2.1）の約1.1倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数17人（2.4）で、前月の約0.7倍、昨年11月の約1.1倍であった。70歳以上が全体の約6割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

（宮崎県衛生環境研究所）

日赤だより

【宮崎県赤十字血液センター】

宮崎県赤十字血液センターからのお礼とお願い

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は宮崎県の血液事業推進に対し、医療機関の皆様の多大なるご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。本年も昨年と変わらずご協力・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2025年度は表のようにたくさんの医療施設にご協力をいただきました。血液製剤には有効期限があるため、安定的に患者さまへお届けするには、皆様の定期的・継続的な献血へのご協力が不可欠です。さらに、宮崎県では血液製剤の使用量を県内の献血のみでは充足することができていません。献血者をお迎えする窓口のひとつである献血バスの巡回場所が、年々減少していますし、1日の献血者数も減少しています。

医療機関・団体・グループなどでの献血をお考えの担当者さまにおかれましては、ぜひ献血実施にご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

2025年（4月～11月）の協力医療機関（順不同）

医療法人和敬会 国見ヶ丘病院	公益社団法人宮崎市郡医師会 宮崎市郡医師会病院	公益社法人都市北諸県郡医師会 都市郡医師会病院
宮崎県立延岡病院	独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南病院	医療法人社団静雄会 藤元上町病院
医療法人建悠会 吉田病院	地域医療支援病院・社会医療法人同心会 古賀総合病院	一般社団法人藤元メディカルシステム 藤元病院
医療法人久康会 平田東九州病院	社会医療法人善仁会 宮崎善仁会病院	医療法人一誠会 都城新生病院
社会福祉法人恩賜財団済生会支部 宮崎県済生会日向病院	一般財団法人潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	医療法人社団牧会 小牧病院
社会医療法人泉和会 千代田病院	社会医療法人慶明会 宮崎中央眼科病院	医療法人社団橘会 橘病院
医療法人誠和会 和田病院	一般財団法人弘潤会 野崎病院	医療法人養気会 池井病院
医療法人社団聖山会 川南病院	独立行政法人国立病院機構 宮崎東病院	医療法人浩然会 内村病院
	医療法人同仁会 谷口病院	

令和7年度医師会立看護学校担当理事連絡協議会

と き 令和7年11月6日(休)

ところ 県医師会館, Web (Zoom)

赤須常任理事の司会により開会し、金丸副会長の挨拶の後、報告・意見交換に入った。なお、県医療政策課に出席をいただいた。

1 報 告

- (1) 令和8年度県に対する要望事項について
- (2) 令和6年度看護学校卒業生および令和7年度入学生の状況について
- (3) 医師会立看護学校卒業生就業状況について
- (4) 医師会立看護学校運営状況について
- (5) 令和7年度看護進路相談会について

2 意見交換

看護学校を取り巻く複合的な問題について、各学校より現状を報告いただき、情報交換および県に対し要望を行った。

医師会立看護学校は卒業後の県内定着率が高く、地域医療の貢献に大きな役割を果たしているものの、少子化による人口減少や学生の大学志向の増加により年々学生の確保が困難となっている。

学生だけでなく教員不足にも危惧しているという学校もあり、教員の仕事量に対して給与を問題視して辞められていくという状況などもあった。

運営状況については、すべての学校で赤字となっている。補助金の減額や物価上昇による費用増加などが要因となっている。

県立看護大学のあり方についても言及された。看護大学というのは県立病院に供給するための学校と認識していたが、現実的には遠くから来られた方、県外から来られた方が県外に

戻っていくというようなことで、県立病院への就職率が低いのではないかと。県からは、県病院だけでなく県内の主要な病院などに排出していくというところは大切な役割であるし、1人でも多く県内にとすることで都度、意見交換を行っているとの回答であった。

県や行政に対して、補助金などの財政支援、IT教育環境整備のさらなる補助および授業の「eラーニング」化の推進などを要望した。

出席者

県医師会館

宮崎：玉置副校長，黒木事務長，滝川事務
県医療政策課：藤村副主幹，河野主任主事，
長岡主任技師

Web (Zoom)

都城：高城校長，河野副校長，
新森教務主任，山下教務主任，
藤田事務課長，四位事務係長，
中馬事務

延岡：金井校長，竹原・門田副校長，
古川事務次長，甲斐教務主任

日向：堀之内校長，大石事務局長，
黒木教務主任

児湯：黒木校長，坂田副校長，
鳥原学校主事，鍋倉教務主任，
黒田事務長

(県医)

金丸副会長，赤須・市来常任理事，
久永課長，永田係長

令和7年度全国医師会勤務医部会連絡協議会

と き 令和7年11月8日(土)

ところ ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING

全国医師会勤務医部会連絡協議会が、岩手県医師会の担当で「勤務医が生き生きと活躍できる場を作る～混沌を成長の機会に～」をメインテーマとして開催された。祖父江副会長（岩手県医）が開会を宣言され、松本会長（日医）、本間会長（岩手県医）の挨拶後、釜范参議院議員、達増岩手県知事、内館盛岡市長が祝辞を述べ、講演に入った。

特別講演Ⅰ

「日本医師会における勤務医支援に向けた取り組み」と題し、松本会長（日医）から、日医の勤務医支援について、地域に根ざした医師会活動を支えていくこと、診療報酬改定や補助金などでの対応を国に求めていくこと、勤務医のキャリアパスに直結する課題について国に働きかけること、勤務医の意見を集約し医師会会務や医療政策へ反映していくことなどの取組みについて説明がなされた。その中でも2026年度診療報酬改定については、財務省は医療費抑制を強く求めていると指摘した。診療報酬の伸びが物価上昇に追いつかず、医療機関の経営は非常に厳しい状況にあると強調された。診療報酬の引き上げは不可欠であり、国が率先して医療従事者の賃上げを実現することが重要であるとした。今後も勤務医支援や地域医療の質向上に向けて、地域の医師会と連携しながら課題解決を目指していくと述べられた。



特別講演Ⅱ

「南部美人の挑戦～混沌とした時代を切り開く～」と題して、株式会社南部美人 五代目蔵元 代表取締役社長 久慈浩介様から、日本酒「南部美人」について講演された。南部美人は世界的な日本酒コンテストで多数の受賞歴を持ち、海外66か国に輸出を行うなど、海外での和食文化を普及する活動も積極的に行っていると説明された。地方の小規模企業でも「オンリーワン」の商品であれば世界で勝負できるとの考えが示され、日本の伝統産業の強みを生かす重要性が強調された。

日本医師会勤務医委員会報告

一宮勤務医委員長（日医）から、今期の会長諮問「勤務医の医師会活動へのさらなる参画について」の検討状況が報告された。

参画促進・組織強化に向けたキーポイントとして、医学部卒後5年間の会費減免期間以降、いかに会員を継続してもらうか、地域医療や医療政策にかかる医師会活動を理解してもらうかが極めて重要だとした。そのためには医師会活

動に触れる機会の設定が必要であり、勤務医や病院、大学などに向けた活動方針などの情報発信を行い、信頼関係を醸成することが必要であると。また、限られた勤務時間の中で勤務医が医師会活動に参画しやすい環境を整備し、若手勤務医の積極的な登用を行うことが重要であると述べられた。

特別講演Ⅲ

「新型コロナウイルス感染症と今後の日本の医療」と題して、国際医療福祉大学長 鈴木康裕先生から、新型コロナウイルス感染症と同様のパンデミックは今後も繰り返される可能性が高いとして、病床逼迫、医療従事者の疲弊など、コロナ禍での多くの課題が指摘された。日本は高い質の医療を維持しているものの、高齢化による医療・介護の需要増加と労働力不足が深刻化しており、医師一人あたりの負担が大きい現状があると指摘。AI技術の導入により、診断や治療支援の効率化、医療の質向上と労働生産性の向上が期待されているとした。また、医療費の財源として消費税の重要性が強調され、景気変動に強い税収を確保する必要性が示された。今後の医療政策では、公平な負担の実現や医療機関の経営安定化が重要課題であると述べられた。

シンポジウム・全体ディスカッション

「人口減少時代に活躍する勤務医」をテーマとして開催された。「岩手の臨床研修医教育」と題し、いわてイーハトーヴ臨床研修病院群WG代表・岩手医科大学医学部総合診療医学講座講師 米田真也先生、「目標伝達、勤務環境整備、総合的に診る教育とチーム医療、地域活動で、医師の活躍を支える」と題し、あがの市民病院院長 藤森勝也先生、「医療DX～地域医

療連携システムの経験から」と題し、東北大学大学院医学系研究科医学情報学分野教授 中山雅晴先生、「憧れるのをやめましょう～混沌の先に居場所があった～」と題し、岩手県立中央病院総合診療科 住吉明子先生、「人口減少を迎える地域で」と題し、岩手県立病院院長会会長・岩手県立釜石病院院長 坂下伸夫先生が、それぞれ研修医教育、総合診療、医療DX、女性医師、岩手県医師の立場からシンポジウム講演された。

全体ディスカッションでは、フロアの参加者に対しオンラインでアンケートが実施され、医師・診療科偏在の影響や課題解決案について活発な意見交換が行われた。

なお、今回は大分県医師会の担当で、令和8年11月7日に大分県大分市で開催予定である。

最後に全会一致で採択された、いわて宣言を次のとおり掲載する。

出席者

勤務医部会－山口・松本理事

県医師会－金丸副会長、嶋本常任理事、

田畑・山中理事、串間課長補佐

いわて宣言

我が国は、急速に進行する人口減少と高齢化により、医療提供体制の持続可能性がかつてないほど問われる時代を迎えている。特に地方においては、医療需要の増大に反し、医療従事者の確保が困難となり、必要な診療科が揃わない状況に追い込まれるなど包括的な対応が急務となっている。先進諸国の中でも最も高齢化人口減少が先行している国として、日本の動向に世界も注目している。医師多数都府県は、寧ろ特例的であり、日本の多くの地域においては、直近の医療提供体制維持に危機感を持って備えなければならない。

医学の進歩は日々加速し、専門性の深化が進む一方で、複合的疾患を併せ持つ高齢者には包括的医療を担う体制や人材の確保が必要である。また、急速に進化する医学に伴い、制度の複雑化や薬剤費の高騰などが進み、病院運営はかつてない困難に直面している。

このような状況の中、勤務医は、病院を拠点に、多職種や地域医療機関、福祉施設等と連携し、複雑化する先進医療を担っている。診療所との機能分担と連携を図りつつ、我々勤務医は、診療科や施設の垣根を越え、持続可能な医療の実現に尽力している。

一方、勤務医の長時間労働や過重な業務負担は、個々の人生と健康に深刻な影響を及ぼすだけでなく、医療安全にも直結する重大な課題である。勤務医の働き方改革は、医療提供体制の持続性を高める基盤として不可欠な施策であり、年齢や地域の実情に見合った運用が適切に為されていく必要がある。

また、人工知能や通信機能における先端技術の導入は、業務の効率化のみならず、医療の質と安全性の向上を目指すための重要な鍵となる。我々は積極的にこれらを活用し、医療の変革に対応していかなければならない。

以上を踏まえ、我々全国医師会勤務医部会連絡協議会は、この困難な時代を乗り越えるため現場から変革を引き起こしていく決意を新たに、次の通り宣言する。

- 一、人口減少と高齢化が進む中でも、勤務医は地域住民のいのちと暮らしを支えるため、時代の変化に応じた医療提供体制の変革に努める。
- 一、診療所・施設・職種の垣根を越えた連携により、切れ目のない医療を推進する。
- 一、働き方改革を推進し、勤務医が無理なく安心して働ける環境整備に取り組む。
- 一、人工知能や通信技術等の先端技術を有効に活用し、人材が限られる中でも質の高い効率的な医療体制を構築する。

令和7年11月8日

全国医師会勤務医部会連絡協議会・岩手

宮崎県医療事故調査支援団体連絡協議会 宮崎県医師会医療事故調査支援委員会合同会議

と き 令和7年11月10日(月)

ところ 県 医 師 会 館

荒木常任理事の進行により開会。はじめに、県医療事故調査支援団体連絡協議会の河野会長から、外部委員として医療機関に派遣され公平性、専門性に十分考慮した質の高い院内医療事故調査を実施していただいている各委員に対して謝辞を述べられた。続いて、県医師会医療事故調査支援委員会の比嘉委員長の挨拶の後、報告・協議を行った。

1 報 告

1) 宮崎県医療事故調査支援団体連絡協議会の委員について

荒木常任理事から、本年9月末をもって任期満了である委員について、協議会設置要綱第4条による委員をもって構成すること。また、任期は令和9年9月30日までの2年間で、協議会会長は、同規定により、県医師会の河野会長が務めることが報告された。

2) 宮崎県医師会医療事故調査支援委員会の委員について

荒木常任理事から、本年9月末をもって任期満了である委員について、委員会設置要綱第3条に基づき、県医師会長が委嘱した委員が就任することが報告され、新しく就任された県歯科医師会理事の難波秀和先生、県臨床工学技士会理事の福元広行先生から自己紹介があった。任期は、令和9年9月30日までの2年間。

3) 厚労省「医療事故調査制度等の医療安全に係る検討会」について

高宮委員から、厚労省検討会の検討内容について報告があった。

2 協 議

1) 宮崎県医師会医療事故調査支援委員会の委員長互選等について

委員会設置要綱第3条の規定により、委員長は、引き続き、宮崎東病院名誉院長の比嘉利信先生が選出された。続いて、副委員長に、県立宮崎病院副院長の眞柴晃一先生、介護老人保健施設むつみ苑施設長の下菌孝司先生、県産婦人科医会顧問の濱田政雄先生、西臼杵医療センターセンター長の寺尾公成先生、都城医療センター院長の吉住秀之先生、宮崎大学医学部附属病院医療安全管理部教授の綾部貴典先生の6名が委員長から指名され承認された。

また、常任委員会の委員には、比嘉委員長、眞柴・下菌・濱田・寺尾・吉住・綾部副委員長、小牧・金丸副会長、荒木・市来常任理事が就任することが承認された。

3 意見交換

1) 宮崎県医師会医療事故調査支援委員会の支援状況について

本委員会の支援状況について、中村委員、吉住・綾部副委員長から、事例の進捗状況などの報告があり、意見交換を行った。

出席者

県医療事故調査支援団体連絡協議会
県医師会長 河野会長
県歯科医師会長 上窪委員
県薬剤師会長 野邊委員
県看護協会 久保委員
県助産師会長 森委員
県医師会医療事故調査支援委員会
宮崎東病院名誉院長 比嘉委員長(常任委員)
都城医療センター院長 吉住副委員長(常任委員)
県立宮崎病院副院長 眞柴副委員長(常任委員)
西臼杵医療センターセンター長 寺尾副委員長(常任委員)
介護老人保健施設むつみ苑施設長 下菌副委員長(常任委員)
県産婦人科医会顧問 濱田副委員長(常任委員)
宮崎大学医学部附属病院医療安全管理部教授 綾部副委員長(常任委員)
宮崎大学医学部附属病院院長 賀本委員
国立病院機構宮崎病院院長 宮尾委員
県立延岡病院副院長 土居委員
千代田病院院長 中村委員

古賀総合病院院長 石川委員
宮崎生協病院医療安全委員会委員長 山岡委員
潤和会記念病院院長 濱川委員
宮崎江南病院院長 白尾委員
県医師会医療法人部会長 赤須委員
県精神科病院協会名誉会長 高宮委員
県歯科医師会理事 難波委員
県薬剤師会副会長 本田委員
県看護協会常務理事 川崎委員
県助産師会副会長 田中委員
県臨床工学技士会理事 福元委員
県医師会副会長 小牧委員(常任委員)
” 金丸委員(常任委員)
県医師会常任理事 荒木委員(常任委員)
” 市来委員(常任委員)

事務局

竹崎局長, 小川次長, 牧野課長

お知らせ

令和7年度日本医師会認定医療秘書養成制度 卒業生採用のお願い

宮崎県医師会では、日本医師会認定医療秘書養成を宮崎学園短期大学に委託しております。
貴院におかれまして、医療事務職員採用のご予定がございましたら、何卒、宮崎学園短期大学
よりご採用いただきますようご検討をお願いいたします。
なお、採用に関するお問い合わせなどにつきましては、直接担当者までご連絡いただきますよ
うお願い申し上げます。

令和8年3月末卒業予定者

【就職希望者】 5名(男0人, 女5人)

【就職希望地】 宮崎市内3名, 都城1名,
西都・高鍋1名

【連絡先】 〒889-1605

宮崎市清武町加納丙1415番地

TEL: 0985-85-0146

現代ビジネス科 講師 山本 優子
キャリア教育センター センター長 河野 豪

県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会

と き 令和7年11月11日(火)

ところ 県 医 師 会 館

来年度の県政に関する要望を行うために本会主催で開催した。市来常任理事の司会により開会し、河野会長、小牧福祉保健部長、吉村病院局長の挨拶の後、郡市医師会からの要望もふまえ取りまとめた下記の事項について県へ要望し、意見交換を行った。

要望事項

- 1 地域医療について（玉置常任理事）
 - ・医療機関の経営基盤強化への支援
 - ・地域医療の再編と連携
 - ・予防医療の推進と公費助成の拡充
 - ・地域医療への理解と合意形成
- 2 医師確保について（大塚常任理事）
 - ・医師を志す若手世代へのアプローチと研修病院・関係機関との連携
 - ・研修医・地域枠医師の処遇改善とキャリア形成
 - ・医師会病院への対応
 - ・医師及び医療従事者養成・確保のための財源の確立
 - ・日本医師会ドクターバンクとの連携協力
- 3 子どもの発育段階に応じた医療の充実について（高木常任理事）
 - ・県立学校医報酬の増額
 - ・移行期医療センターの設置
- 4 妊娠期からの子育て支援のために（上山理事）
 - ・宮崎県周産期ネットワークシステム体制維持について
 - ・産婦人科医師の人員確保および分娩施設の確保について
 - ・妊産婦のトータルケアについて
 - ・性と健康の相談事業センターの構築について
 - ・助産師養成に関して
- 5 日本一のスポーツメディカルサポート体制を目指して（大塚常任理事）
 - ・2年後に迫る国スポ・障スポについて
 - ・メディカルサポートの充実について
 - ・スポーツランドみやざきについて
- 6 女性医師支援について（上山理事）
 - ・女性医師復職・再研修・キャリアアップ支援
 - ・保育支援サービス事業の継続
 - ・高校生や医学生に対する女性医師等に係る各種支援事業の周知・広報
- 7 医師会立看護師・准看護師養成校への財政支援と、県立看護大学の在り方について（赤須常任理事）
 - ・医師会立看護専門学校に対する支援について
 - ・県立看護大学のあり方について
- 8 在宅医療・介護の推進について（吉見常任理事）
 - ・介護職の人材確保
 - ・ACPの普及啓発
- 9 救急災害について（落合常任理事）
 - ・県内の休日・夜間救急医療体制の整備・強化
 - ・国民保護事案発生時における医療提供体制について
- 10 感染症対策について（吉田常任理事・峰松理事）
 - ・医療従事者等への新型コロナウイルスワクチン接種費用の助成と抗原検査キットの配布について
- 11 電子処方箋導入に関する都道府県助成事業の実施について（嶋本常任理事）
- 12 その他（落合常任理事・松岡理事・赤須常任理事）
 - ・宮崎県における地域フォーミュラリの策定について（宮崎大学医学部医師会より）

- ・ 県立延岡病院の医師に対する処遇改善について（日向市東白杵郡医師会より）
- ・ 延岡市医師会病院への医師派遣について（延岡市医師会より）

出席者

県福祉保健部

小牧部長,
市成(福祉担当)・吉田(保健・医療担当)次長,
椎葉衛生技監兼高鍋保健所長,
北菌福祉保健課長, 早川医療政策課長,
井上長寿介護課長, 藤元医療・介護連携推進室長,
徳山健康増進課長, 蛭原感染症対策課長,
安藤薬務対策室長

病院局

吉村局長, 高妻次長兼経営管理課長
教育庁

田中スポーツ振興課長

県医師会

河野会長, 小牧・金丸副会長,
荒木・市来・吉田・池井・高木・嶋本・
赤須・大塚・吉見・玉置・落合常任理事,
峰松・佐々木・上山・田畑・山中・河原・
吉村・松岡・内藤理事
竹崎局長, 小川・久永次長,
松本・牧野・野尻・湯淺課長, 湯地主事,
杉田医師協事務長, 園山医師協次長

12月のベストセラー（宮崎県）

集計：2025年12月1日～12月20日

1 変な地図	雨 穴	双 葉 社
2 成瀬は都を駆け抜ける	宮 島 未 奈	新 潮 社
3 ザ・ロイヤルファミリー	早 見 和 真	新 潮 文 庫
4 科学的に証明されたすごい習慣大百科	堀 田 秀 吾	SBクリエイティブ
5 僕には鳥の言葉がわかる	鈴 木 俊 貴	小 学 館
6 さよならジャバウォック	伊 坂 幸 太 郎	双 葉 社
7 国宝（上・下）	吉 田 修 一	朝 日 文 庫
8 暁 星	湊 かなえ	双 葉 社
9 新しい花が咲く	宮 部 みゆき	新 潮 文 庫
10 人は話し方が9割	永 松 茂 久	す ば る 舎

日医インターネットニュースから

■医療の支援パッケージに1兆368億円

— 厚労省・補正予算案 —

政府は11月28日、2025年度補正予算案を閣議決定した。金額は18兆3034億円。厚生労働省分は2兆3252億円。「医療・介護等支援パッケージ」として1兆3649億円を計上し、このうち医療分野に1兆368億円を充てた。医療機関や薬局の賃上げ・物価上昇に対する支援に5341億円を積んだ。

賃上げ・物価上昇支援の内訳は賃上げ分が1536億円、物価上昇分が3805億円。医療機関・薬局従事者の処遇改善を支援し、地域に必要な医療提供体制の確保を目指す。

病院への基礎的支援額は1床当たり最大19万5000円（内訳：賃金分8万4000円、物価分11万1000円）。賃金分の加算はベースアップ評価料を算定しているなどの条件を設ける見通しで、厚労省は今後詳細について調整を進める。

●救急車受け入れ件数に応じて加算

基礎的支援に加え、救急対応を行う病院への支援として、過去の救急車受け入れ件数に応じた加算を設ける。23年度の実績値を使用することなどを視野に入れている。

1施設当たりの条件は次の通り。▽1件以上1000件未満＝500万円▽1000件以上＝1500万円▽2000件以上＝3000万円▽3000件以上＝9000万円▽5000件以上＝1億5000万円▽7000件以上＝2億円 — 。3次救急病院は、受け入れ件数が少ない場合でも一律で1億円を加算。5000件以上の実績がある場合は、上記の条件に応じた金額を加算する。

救急車受け入れ件数が少ない病院への支援として、全身麻酔手術と分娩取扱件数に応じた加算も設ける。具体的には、過去の全身麻酔手術件数か、分娩件数を3倍した数を用い、いずれかが800件以上の場合は1施設当たり2000万円を加算。2000件以上の場合は8000万円を加算

する。ただし、救急車受け入れ件数が3000件未満の施設に限るほか、救急車受け入れ件数に関する加算との併給はできない。

有床診療所への支援額は1床当たり8万5000円（内訳：賃金分7万2000円、物価分1万3000円）、医科無床診療所と歯科診療所は1施設当たり32万円（内訳：賃金分15万円、物価分17万円）。その他、医療分野の支援パッケージには病床数の適正化に対する支援に3490億円、福祉医療機構による優遇融資の実施に804億円などを盛った。

厚労省の補正予算案全体は、医療・介護の支援パッケージを含め6つの柱で構成。パッケージ以外の項目と金額は次の通り。▽物価上昇を上回る賃上げの普及・定着に向けた支援＝360億円▽医療・介護の確保、DXの推進、「攻めの予防医療」の推進＝2277億円▽創薬力強化に向けたイノベーションの推進、医薬品などの安定供給確保や品質・安全性の確保＝1527億円▽次なる感染症危機などに備えた体制強化、国際保健への戦略的取り組み＝627億円▽包摂的な地域共生社会の実現＝4683億円 — 。

（令和7年12月2日）

■物価・賃金踏まえ、大幅プラス改定決議

— 自民、国民医療を守る会 —

自民党の「国民医療を守る議員の会」（加藤勝信会長）は12月2日の総会で、2026年度診療報酬改定での大幅なプラス改定を求める決議を採択した。

24年度以降の物価高・賃金増を反映するとともに、26年度からの2年間の物価・賃金動向、医療の技術革新、高齢化に対応することが必要だと主張した。決議は首相官邸に提出する予定。

診療所・病院は著しく経営状況が逼迫し、閉院や倒産が相次いでいると指摘。国民が医療を受けられない事態が発生していると危機感を示

した。公定価格で運営されている医療機関で、経営の安定、離職防止、人材確保、他産業にひけをとらない賃上げが可能となる環境を整えるよう求めた。

25年度補正予算案に盛り込まれた医療機関への財政支援についても、速やかに執行するよう要請した。

OTC類似薬の保険給付見直しにも言及した。安全性、有効性、経済性の観点から国民への負担、不利益を勘案し、慎重に検討すべきだとした。

日医からは松本会長をはじめ、役員が出席した。総会後に記者団の取材に応じた古川俊治事務総長によると、松本会長は医療機関の窮状を説明し、これまでの診療報酬改定は物価・賃金の上昇に追い付いていないと指摘した。上振れしている税収の活用なども求めた。

総会には代理を含めて議員230人以上が出席した。厚生労働省からも幹部が参加した。

●「補正は穴埋め、予算勝ち取る」加藤会長

加藤会長は冒頭の挨拶で、25年度補正予算案は「足元に穴が開いているものを埋めたに過ぎない」とし、早期の執行が必要だとした。財務省は26年度改定を前倒して補正予算を組んだと説明しているとし、「全く違う。24年度分と25年度分を積み上げただけだ。26年度は、改定をはじめとしてさまざまな予算措置を勝ち取っていかなければならない」と力を込めた。

岸田文雄最高顧問は「24年度改定で一定の措置が講じられたが、その後、想定を上回る物価高騰などもあり、医療機関は本当に厳しい状況にある」との認識を示した。「骨太の方針2025」で、社会保障関係費について「経済・

物価動向等を踏まえた対応に相当する増加分を加算する」と明記されたことを挙げ、「こうしたことを踏まえ、国民の安心のために努力しなければならない。次期診療報酬改定に向けて力を合わせていきたい」と意欲を示した。

(令和7年12月5日)

■物価・賃金踏まえ大幅なプラス改定を — 国民医療を守る会、首相に要請 —

自民党の「国民医療を守る議員の会」(加藤勝信会長)は12月4日、2026年度診療報酬改定を、「大幅なプラス改定」にすることを求める決議文を高市早苗首相に提出した。24~25年の物価・賃金上昇を反映するとともに、26年度からの2年間の物価・賃金動向、医療の技術革新、高齢化に対応することが必要だと訴えた。日医の松本吉郎会長も提出に立ち会った。

決議文では、「医療機関は診療所・病院共に著しく経営状況が逼迫し、閉院や倒産が相次いでおり、国民が医療を受けられない事態が発生している」と指摘。公定価格で運営されている医療機関などが、経営の安定、離職防止、人材確保が図れるよう、他産業にひけを取らない賃上げが可能となる環境を整えるよう促した。

25年度補正予算案に盛り込まれた医療機関への財政支援を、速やかに措置することも求めた。

OTC類似薬の保険給付の見直しについては、安全性、有効性、経済性の観点から国民への負担や不利益を考慮し、慎重に検討するよう要請した。

(令和7年12月9日)

日医インターネットニュースは、日本医師会のホームページからご覧になれます(毎週火・金更新)。

日本医師会 (<http://www.med.or.jp/>) >メンバーズ>日医インターネットニュース

メンバーズルームへのアクセス方法

◆ユーザ ID: 会員 ID (日医刊行物送付番号) の10桁の数字 (半角)

◆パスワード: 生年月日の「西暦の下2桁, 月2桁, 日2桁」の6桁の数字 (半角)

医師協同組合だより

宮崎県医師協同組合は、

2025年創立40周年を迎えました。これからも相互扶助の精神に基づき、県医師会・郡市医師会と連携し、主に医業・保険・くらしのサポートを提供しながら、組合員先生方の経済的地位の向上と医業経営の支援に取組みます。

事業内容

購買事業



医療機器、医療用消耗品、
医学書・書籍などの
販売・斡旋
(医師協割引適用)

カード事業



宮崎県内の
医療従事者だけが
取得できる優遇カード
(当組合メディカルカード)の提供

斡旋事業



マンション住宅、
車両などの斡旋
(医師協割引適用)

保険事業



団体割引を適用した
医師賠償責任保険、所得補償保険、
傷害保険、自動車保険、
火災保険などの提供

教育情報事業



医業経営支援(事業承継などを含む)事業、
無料ドクターバンク事業を展開



各種お申し込み・お問い合わせ先

宮崎県医師協同組合

〒880-0023
宮崎市和知川原1丁目101
宮崎県医師会館1F

TEL 0985-23-9100

平日 9:00~17:30

FAX 0985-23-9179

Mail isiky@miyazaki.med.or.jp



当組合ホームページを
ご覧ください



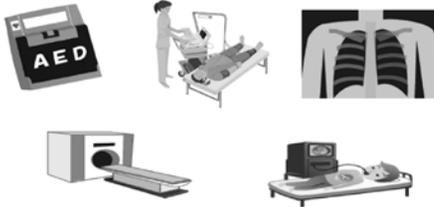
先生方へ 医療機器購入検討に関するお願い

医療機器購入の第一報は医師協へ

メーカーへの見積りは最初の見積りで決定します。

まず、医師協同組合へ見積り依頼をお願いします。
 医師協同組合に窓口を一本化することにより複数メーカーの比較検討が可能になります。

医療機器のことなら
 是非、医師協同組合にご連絡ください！



医師協同組合に第一報をいただければ、有利な条件でご案内することが可能になります。また、提携リース会社によるリースのご提案(相見積りによる良い条件の選択)が可能。

■医療機器お問合せシート

医療機器名 (形式やメーカー名)	見積り希望	パンフレット希望	詳細説明希望	デモ希望
	※ご希望の欄に□に✓をつけて下さい			
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ご意見・ご質問がございましたらお気軽にご記入ください。				

住所	
医療機関	
担当者名	
TEL	

宮崎県医師協同組合
 TEL : 0985-23-9100 FAX : 0985-23-9179



令和7年11月4日(火) 第7回常任理事協議会

医師会関係 (議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について

①県生活習慣病検診管理指導協議会委員の推薦について

→専門的な見地から検診医療機関を指導すること等を目的に設置される協議会で、県医師会代表として役員から6名の推薦と医療従事者区分については現委員に再任の意向を確認した上で推薦手続きを進めることが承認された。

2. 後援・共催名義等使用許可について

①R8.2/28(土) (宮崎市) 日本医療マネジメント学会第18回宮崎県支部学術集会後援名義依頼について

→「医療安全と働きやすい職場環境を目指して」をテーマに開催される学術集会で、名義後援を行うことが承認された。

3. 郡市医師会からの忘年会の案内について

2 郡市医師会からの忘年会の案内があり、日頃の御礼も兼ね役員が出席することが承認された。

4. 11/27(木) (県防災庁舎) 九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導の実施に係る立会いについて

2 医療機関を対象に行われる個別指導で、山中理事を立会人として派遣することが承認された。

5. R8.1/11(日)・2/15(日)JMAT研修 基礎編および統括編の開催について

災害への備えを十分なものとし、かつ、災害発生時において、被災地の都道府県医師会や郡市区医師会等との協働による医療支援活動の充実に資することを目的として開催される研修会で、基礎編に田畑理事、統括編に金丸常任理事・田畑理事・山中理事が参加することが承認された。

(報告事項)

1. 10月末日現在の会員数について

2. 10/31(金) (ニューウェルシティ宮崎) 県市町村国民健康保険運営協議会委員研修会について

3. 11/3(月) (ハイビスカスG.C.) 県医親善ゴルフ大会について

4. 10/29(水) (県防災庁舎) 県健康づくり推進協議会について

5. 10/30(木) (県庁) 県個人情報保護審議会について

6. 10/29(水) (日医) 日医医療秘書認定試験委員会について

7. 10/29(水) (県医) 医師クラーク育成・スキルアップ研修会について

8. 10/30(木) (県防災庁舎) HPVワクチン接種情報共有会・麻しん風しん対策推進会議・予防接種広域化検討会議について

9. 9/25(木)セキュリティインシデント対応研修会について

10. 11/2(日) (イオンモール宮崎) 糖尿病予防フェスタについて

令和7年11月11日(火) 第15回全理事協議会

医師会関係 (議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について

①教職員疾病審査委員会委員の御推薦について

→任期満了に伴う推薦依頼で、本会が推薦している内科2名、外科1名、整形外科1名、産婦人科1名、精神科2名について、再任の方向で現委員の意向

を確認し、辞任の申出があれば専門分科医会に人選を依頼することが承認された。

②県高齢者虐待防止連絡会議における委員の推薦について

→高齢者虐待防止対策を総合的に推進するとともに、関係機関の連携等を図るために設置されている連絡会議の任期満了による委員の推薦依頼があり、引き続き荒木常任理事を推薦することが承認された。

2. 後援・共催名義等使用許可について

①県介護支援専門員協会研究大会名義後援について

→「ケアマネが輝くワークライフバランスの新しい形」をテーマに開催される研修会で、名義後援を行うことが承認された。

3. R8.1/5(月) (宮観ホテル) 2026年寿新年賀詞交歓会について

宮崎商工会議所主催で開催される新年の賀詞交歓会で、河野会長が出席することが承認された。

4. 審査委員の任期途中退任に伴う後任審査委員の適任者の推薦依頼について

社保審査員の任期途中退任に伴う推薦依頼で、県外科医会から推薦のあった1名を推薦することが承認された。

5. R8.1/17(土) (福岡) 九州医師会連合会救急・災害医療担当理事連絡協議会並びに九州ブロック災害医療研修会の開催について

九州医師会連合会担当の福岡県医師会主催で開催される研修会と協議会であり、金丸副会長、池井・落合常任理事と事務局で参加することが承認された。

6. 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 対策に対する連携と協力に関する協定書について

県衛生環境研究所が協力することを確認したうえで、協定を締結することが承認された。

(報告事項)

1. 11/5(水) (県立宮崎病院) 県立宮崎病院グランドオープン記念式典について
2. 11/10(月) (県医) 県医療事故調査支援団体連絡協議会・県医医療事故調査支援委員会合同会議について
3. 11/9(日) (県医) 県民健康セミナーについて
4. 11/6(木) (県医) 医師会立看護学校担当理事連絡協議会について
5. 11/6(木) (日医) 日医予防接種・感染症危機管理対策委員会について
6. 11/8(土) (岩手) 全国医師会勤務医部会連絡協議会について
7. 10/15(水) 労災診療費算定実務研修会について
8. 10/29(水) (宮崎労働局) 労災診療指導委員会・労災部会理事会について

令和7年11月25日(火) 第16回全理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 県医師会役員等報酬支給について

県医師会役員等の報酬等規程に基づき、28名の役員等に報酬を支給することが承認された。

2. 職員の冬季手当支給について

県医師会職員給与規程等に基づき、宮崎県人事委員会の勧告を参考に、社会情勢等を踏まえて、19名の職員に期末・勤勉手当を支給することが承認された。

3. 本会外の役員等の推薦について

①県医療審議会医療計画等部会の委員候補者の推薦について

→2040年を見据えた新たな地域医療構想の策定と、第8次医療計画の中間見直しのために新たに設置される部会の委員推薦依頼があり、金丸副会長と吉見・落合常任理事を推薦することが承認された。

- ② 県障がい者虐待防止・権利擁護連絡会議における委員の推薦について
→ 障がい者の虐待防止及び権利擁護を推進するために設置される連絡会議の委員の任期満了による推薦依頼があり、引き続き玉置常任理事を推薦することが承認された。
- ③ 県がん対策審議会委員の推薦について
→ がん対策推進計画の策定を始め本県におけるがん対策に係る重要な事項を審議するための審議会で、「在宅医療に関する有識者代表」枠に吉見常任理事を推薦することが承認された。
4. 後援・共催名義等使用許可について
- ① 日本癌治療学会市民公開講座 名義後援のお願いについて
→ 「がんと向き合うための“知恵”をあなたに」をテーマに開催される市民公開講座で、名義後援を行うことが承認された。
5. R8.1/20(火) (日医) 令和7年度第3回都道府県医師会長会議の開催について
河野会長が出席することが承認された。また、今回のテーマである「周産期医療提供体制を巡る課題と出産費用の在り方について」に関し、本会からの質問を検討し、取扱いについては会長一任とすることが承認された。
6. R8.1/27(火) (県医) 各郡市医師会長協議会の開催について
開催することが承認された。議題については、1月20日(火)に日医で開催される都道府県医師会長会議の報告等のほか、各郡市医師会にも照会する。また、役員から議題があれば事務局に提出することとなった。
7. R8.2/7(土) (ニューウェルシティ宮崎) 各郡市医師会等職員研修会の開催について
案のとおり、県医師会及び各郡市医師会(関連団体含む)の事務職員を対象とした研修会を開催することが承認された。
8. 県医師会内組織「警察活動協力部会」の設置について
県警察医会から提出された要望を受け、正式な部会へ昇格させるために必要な手続きをとることが承認された。
9. 令和8年秋の叙勲候補者の推薦について
学校医に対する叙勲で、各郡市医師会に照会の結果、2名を推薦することが承認された。
10. 災害時における訪問看護ステーションとの連携体制に関する調査について
各郡市医師会における災害対応マニュアルや体制整備の中で、訪問看護ステーションがどのように位置づけられているかを把握するための調査で、案のとおり実施することが承認された。
11. 12/1(月) (日医) 都道府県医師会予防接種担当理事連絡協議会の開催について
デジタル化の事務フローの概要等について情報共有するとともに、デジタル化に関する地域の意見を共有することを目的に開催される協議会で、高木常任理事の出席が承認された。
12. R8.1/30(金) (日医) 都道府県医師会学校保健担当理事連絡協議会の開催について
学校健診に関する課題を情報共有することを目的に開催される協議会で小牧副会長、高木常任理事、玉置常任理事が出席することと、各郡市医師会へ案内することが承認された。
13. R8.3/7(土)・8(日) (日医) 日本医師会医療情報システム協議会の開催について
「医療DX新時代～現状の課題と未来の展望～」をメインテーマに医師会会員および事務職員を対象に開催される協議会で、嶋本常任理事と田畑理事の出席が承認された。
14. 12/11(木) (県防災庁舎) 九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導の実施に係る立会いについて
1 医療機関を対象に行われる個別指導で、上山理事を立会人として派遣することが承認された。

15. 宮崎県医師会地域医療委員会の委員について
地域医療委員会の委員について、1名を交代することが承認された。
 16. 12・1月の行事予定について
 17. その他
第15回全理事協議会で協議した「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）対策に対する連携と協力に関する協定書」について修正案が示され、案のとおり承認された。
- (報告事項)
1. 週間報告について
 2. 11/12(水) (支払基金) 支払基金審査運営協議会について
 3. 11/18(火) (宮大) 宮大経営協議会について
 4. 11/18(火) (宮大) 宮大学長選考・監察会議について
 5. 11/12(水) (宮大医学部) 宮崎大学医学部附属病院医師研修管理委員会について
 6. 11/14(金) (県民文化センター) みやざき愛の献血運動推進県民大会について
 7. 11/19(水) (日医) 日医地域医療対策委員会について
 8. 11/12(水)・19(水) (県医) 広報委員会について
 9. 11/20(木) (県庁) 県個人情報保護審議会について
 10. 11/20(木) (県医) 医師クラーク育成・スキルアップ研修会について
 11. 11/22(土) (県医) 産業医研修会(実地)について
 12. 11/12(水) (エアラインホテル) 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業運営協議会について
 13. 11/12(水) (県医) 九州各県医師会学校保健担当理事者会について
 14. 11/15(土) (県医) 九州学校検診協議会専門委員会・全体協議について
 15. 11/22(土) (神奈川) 全国学校保健・学校医大会について
 16. 11/16(日) (県医) 日医かかりつけ医機能研修制度応用研修会について
 17. 11/17(月) (県医) 組織強化・将来構想委員会小委員会について
 18. 11/18(火) (宮大医学部) 宮崎大学医学部医師キャリアセミナーについて
 19. 11/18(火) (宮大医学部) 医局員に対する医師会活動説明会【消化器内科学】について
 20. 11/20(木) (国保連合会) 県国保等はり、きゅう及びあん摩マッサージ療養費審査委員会について
 21. 11/20(木) (県医) 国民医療を守るための総決起大会について
 22. 11/12(水)日医救急災害医療対策委員会について
 23. 11/17(月) (県医) 鹿児島県医師会との災害医療に関するワーキンググループについて
- 医師連盟関係
(議決事項)
1. 12/2(水) (東京) 自民党議員連盟「国民医療を守る議員の会」出席について
「診療報酬改定に向けて」を議題に開催される会で、本連盟から2名出席することが承認された。
 2. R8.1/10(土) (宮観ホテル) 三師会合同新春懇談会の開催について
県歯科医師連盟の担当で開催される懇談会で、例年同様、医師連盟役員、県医師会顧問及び役員等に案内することが承認された。
 3. R8.2/28(土) (都城市) 日本創造研究会主催「第15回特別セミナー」について
「次世代につなぐ地方の創生」の講演が行われるセミナーで、協力することが承認された。

あなたできますか？(解答)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
d	e	a	b	e	c, d	b, c, d	e	a	a, d

県 医 の 動 き

(12月)

1	予防接種事務のデジタル化に係る担当理事連絡協議会 (Web会議) 土曜会 (報道機関支局長の会) との懇談会 (会長他) 介護保険委員会 (Web会議) (吉見常任理事他)	14	指導医のための教育ワークショップ (金丸副会長)
2	(東京) 自民党議員連盟「国民医療を守る議員の会」(金丸常任執行委員) 第8回常任理事協議会 (Web会議) (会長他)	15	地域医療対策協議会プログラム運用部会 (大塚常任理事) 地域医療対策協議会 (会長他) 自殺対策うつ病研修会 (Web会議) (吉田常任理事) 労災部会自賠委員会 (Web会議) (赤須常任理事他) 損害保険医療協議会 (Web会議) (赤須常任理事他)
3	医学賞選考委員会 (Web会議) (小牧副会長他)	16	県総合計画審議会 (金丸副会長) 国スポ・障スポ実行委員会医療救護専門委員会 (大塚常任理事) 第17回全理事協議会 (会長他) 役職員懇談会 (会長他)
4	都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会 (Web会議) (市来常任理事) (日医) 日医医療秘書認定試験委員会 (池井常任理事) 県医中間監事監査 (会長他) 日産婦医会性教育指導セミナー全国大会実行委員会 (Web会議) (上山理事)	17	日医公衆衛生委員会 (Web会議) (峰松理事) 県デジタル社会推進協議会 (Web会議) (荒木常任理事) 広報委員会 (荒木常任理事他)
5	医師クラーク育成・スキルアップ研修会 (Web会議)	18	(高鍋町) ロコモ予防運動推進事業普及講座 (東京) 社会保障を守る会緊急集会 (吉田常任執行委員) (日医) 日医広報委員会 (荒木常任理事) 国民保護事案発生時における医療提供体制についての打合せ (落合常任理事) 日医社保指導者講習会伝達講習会 (Web会議) (会長他)
6	(日医) 家族計画・母体保護法指導者講習会 (嶋本常任理事他) 産業医研修会 (TV会議) (吉見常任理事) 病院部会・医療法人部会合同理事会 (池井常任理事他) 病院部会・医療法人部会合同研修会 (池井常任理事他)	19	(東京) 九州各県アイバンク連絡協議会 (東京) 全国アイバンク連絡協議会 県死因究明等推進協議会 (玉置常任理事) (都城市) 都城市北諸県郡医師会忘年会 (会長他)
7	人体シミュレータを用いた在宅医療研修会 (北九州) 自見はなこ政策セミナー (河野委員長)	22	宮大医学部地域枠全体ミーティング (大塚常任理事)
8	新たな地域医療構想を見据えたかかりつけ医機能報告に係る研修会 (Web会議) (会長他) 地域医療委員会・救急災害医療対策委員会 (Web会議) (会長他)	23	県国保等はり、きゅう及びあん摩マッサージ療養費審査委員会 (大塚常任理事) 地方公務員災害補償基金宮崎県支部審査会 (河原理事) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 対策に対する連携と協力に関する協定式 (会長他) 医師協理事会 (Web会議) (河野理事長他) 医師協理事・運営委員合同協議会 (Web会議) (河野理事長他) 第18回全理事協議会 (Web会議) (会長他)
9	組織強化・将来構想委員会小委員会 (小牧副会長他)	24	労災診療指導委員会・労災部会理事会 (赤須常任理事他) 県認知症高齢者グループホーム連絡協議会臨時理事会 (Web会議) (吉見常任理事)
10	宮崎東諸県地域医療構想調整会議 (金丸副会長) 広報委員会 (荒木常任理事他)	25	(日医) 日医有床診療所委員会 (会長) 日医医療秘書養成カリキュラム教科書改訂に関する検討会 (Web会議) (池井常任理事) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 (嶋本常任理事)
11	社会保険医療担当者の個別指導 (上山理事) 県保険者協議会 (大塚常任理事) 宮崎地方労働審議会 (池井常任理事) 県医療審議会及び医療法人等部会 (会長他) 外国人患者受入れに関する研修会 (Web会議) (玉置常任理事) 県産婦人科医会全理事会 (Web会議) (嶋本常任理事他) (延岡市) 延岡市医師会会員忘年会 (金丸副会長他) 「医療・介護等パッケージ」及び「重点支援地方交付金」等に関する三師会要望 (会長)	26	仕事納め式 (会長)
12	指導医のための教育ワークショップ打合せ会 (金丸副会長) 県産婦人科医会HTLV-1母子感染対策事業研修会 (Web会議)		
13	指導医のための教育ワークショップ (金丸副会長) 指導医のための教育ワークショップ記念撮影 (会長他) 県産婦人科医会ひむか性教育シンポジウム (Web会議) (日医) 日医未来医師会ビジョン委員会 (大塚常任理事)		

ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

令和7年12月1日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク（求人・求職等の情報提供）を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。

お申し込み・お問い合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

1. 求職者登録数 14人

希望診療科目	求職数	常勤	非常勤
内 科	1	0	1
外 科	1	1	0
整 形 外 科	2	2	0
精 神 科	1	0	1
脳 神 経 外 科	1	0	1
消 化 器 内 科	3	0	3
放 射 線 科	1	0	1
総 合 診 療 科	1	0	1
産 婦 人 科	1	0	1
老 健	2	1	1

2. 斡旋成立件数 108人

	合 計
令和7年度(4/1~12/1)	4
平成16年度から累計	108

3. 求人登録 102件 290人

(人)

募集診療科目	求人数	常勤	非常勤	募集診療科目	求人数	常勤	非常勤
内 科	88	66	22	消 化 器 外 科	6	3	3
外 科	19	17	2	乳 腺 外 科	2	2	0
整 形 外 科	20	17	3	健 診	2	2	0
精 神 科	14	12	2	泌 尿 器 科	4	3	1
脳 神 経 外 科	2	2	0	産 婦 人 科	0	0	0
循 環 器 科	14	11	3	検 診	0	0	0
消 化 器 内 科	20	16	4	皮 膚 科	0	0	0
麻 酔 科	7	6	1	婦 人 科	0	0	0
眼 科	10	6	4	呼 吸 器 外 科	0	0	0
放 射 線 科	8	8	0	人 工 透 析	12	8	4
小 児 科	3	2	1	リウマチ科	2	1	1
呼 吸 器 科	0	0	0	臨 床 病 理 科	0	0	0
在 宅 診 療	4	3	1	形 成 外 科	0	0	0
総 合 診 療 科・内科	12	9	3	診 療 科 目 不 問	9	5	4
脳 神 経 内 科	2	2	0	緩 和 ケ ア	0	0	0
呼 吸 器 内 科	10	8	2	内 分 泌 糖 尿 病 内 科	3	3	0
リハビリテーション科	5	3	2	そ の 他	5	3	2
救 命 救 急 科	7	5	2	合 計	290	223	67

求 人 登 録 者 (公 開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、
無料職業紹介所（ドクターバンク）へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
160013	医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮崎市	整,リハ,神内,循内,脳外	5	常勤・非常勤
160017	医)宮崎博愛会 さがら病院宮崎	宮崎市	乳外,緩和	5	常勤・非常勤
160020	財)弘潤会 野崎病院	宮崎市	精	1	常勤
160031	社医)同心会 古賀総合病院	宮崎市	内,外,整	4	常勤・非常勤
170048	社医)慶明会 けいめい記念病院	国富町	内	2	常勤・非常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮崎市	内,神内,整,消内,腫内,放	6	常勤
190087	公社)宮崎市郡医師会病院	宮崎市	消内,呼内,総診	5	常勤
190094	社医)耕和会 迫田病院	宮崎市	外,整,総診	3	常勤
190095	社医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮崎市	眼	1	常勤
200104	社医)善仁会 宮崎善仁会病院	宮崎市	救急,外,呼内,消内,糖内	5	常勤・非常勤
200105	医)誠友会 南部病院	宮崎市	外,内,放	3	常勤
210110	医)幸秀会 大江整形外科病院	宮崎市	整	1	常勤
230139	社福)介護老人保健施設 サンフローラみやざき	国富町	内,外	2	常勤
230144	生協)宮崎生協病院	宮崎市	消内,腎内,透,循内,呼内,内,健診,麻	14	常勤・非常勤
230146	財)潤和リハビリテーション振興財団潤和会記念病院	宮崎市	整,脳外,緩和,救急	4	常勤
230164	宮崎県保健所	宮崎市	公衆衛生	1	常勤
230177	医)社団尚成会 近間病院	宮崎市	内,消内,消外	4	常勤・非常勤
230185	医)朋詠会 獅子目整形外科病院	宮崎市	整,内	2	常勤
230194	医)財団シロアム会 新城眼科医院	宮崎市	眼	2	常勤・非常勤
230196	医)社団高信会 辰元病院	宮崎市	内	1	常勤
230209	財)弘潤会 野崎東病院	宮崎市	内	1	常勤
230213	医)聖美会 南宮崎ヤマモト腎泌尿器科	宮崎市	泌,内,透 (いずれか)	1	常勤
230214	医)聖美会 青島リゾートクリニック	宮崎市	内,外,リハ (いずれか)	1	常勤
230215	医)社団紘和会 平和台病院	宮崎市	糖内,消内	3	常勤
230217	医)けいあい かいクリニック	宮崎市	整,リハ,リウ	6	常勤・非常勤
230220	医)社団 宮崎医療センター病院	宮崎市	総診,内,消内,呼内,整 (いずれか)	2	常勤
230224	医)雅会 河野整形外科	宮崎市	内	1	非常勤
230227	医)マナビヤ マナビヤ在宅クリニック[un]	宮崎市	不問	3	常勤・非常勤
230230	医)リっか会 ビア・ささき病院	宮崎市	精	2	常勤・非常勤
230231	認N)ホームホスピス宮崎	宮崎市	内	2	常勤・非常勤
230235	医)青葉会 のぎきクリニック	宮崎市	内	5	常勤・非常勤
230240	医)順養会 海老原病院	国富町	内	1	常勤
230241	医)慈光会 宮崎若久病院	宮崎市	精	1	常勤
230242	さくらメンタルクリニック	宮崎市	精	1	常勤
230243	医)よしき会 どんぐりこども診療所	宮崎市	小	1	常勤
230246	医)灯仁会 あおやま訪問・救急クリニック	宮崎市	救急,内,在宅,総診,不問	10	常勤・非常勤
230247	滝口内科	宮崎市	精	2	常勤・非常勤
230248	社医)耕和会 介護老人保健施設あおしまのいえ	宮崎市	不問	1	常勤
160010	特医)敬和会 戸嶋病院	都城市	内	1	常勤
160018	医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都城市	整,消内,消外,麻,循内	5	常勤
170057	医)清陵会 隅病院	都城市	内,整,訪診	3	常勤
180064	国立病院機構都城医療センター	都城市	消内	1	常勤
190092	公社)都城市郡医師会病院	都城市	内,呼内,消内	6	常勤
210114	一社)藤元メディカル藤元病院	都城市	精,内	3	常勤
230127	医)倫生会 三州病院	都城市	内,消内,消外,乳外,麻,緩和	6	常勤・非常勤
230137	医)宏仁会 海老原内科	都城市	内	1	常勤
230162	一社)藤元メディカル藤元総合病院	都城市	内,循内,救急,呼内,放	10	常勤
230179	医)与州会 柳田病院	都城市	外	1	常勤

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
230181	医) 社団牧会 介護老人保健施設はまゆう	三股町	内	1	常勤
230192	医) 社団明晴会 速見泌尿器科内科医院	都城市	腎内	1	常勤・非常勤
230208	医) 社団樺の葉 ホームクリニックみまた	三股町	内	1	常勤・非常勤
230216	一社) 藤元メディカルシステム大悟病院	三股町	精,内	2	常勤
230225	医) 社団明恵会 早水公園クリニック	都城市	内	2	常勤・非常勤
230244	医) 社団清風会 清風会クリニック	都城市	血内,泌,腎内	6	常勤・非常勤
160012	医) 伸和会 延岡共立病院	延岡市	整,内	3	常勤
160021	医) 建悠会 吉田病院	延岡市	精	1	常勤
190086	医) 早田病院	延岡市	消内,循内	2	常勤
200100	医) 育生会 井上病院	延岡市	小	1	常勤
200102	一社) 延岡市医師会病院	延岡市	内,消内,消外,放	4	常勤
210109	一社) 延岡市夜間急病センター	延岡市	内,小	2	非常勤
230186	医) 隆誠会 延岡保養園	延岡市	精,内	2	常勤
230189	特医) 健腎会 おがわクリニック	延岡市	泌,透	2	常勤
230203	医) 杉杏会 杉本病院	延岡市	内	1	非常勤
230210	医) あつきこころ 大貫診療所	延岡市	内,外 (いずれか)	1	常勤
230219	財) 延岡リハビリテーション病院	延岡市	内,整,リハ	3	常勤
230238	医) en. 縁・在宅クリニック	延岡市	不問	2	常勤・非常勤
230245	医) 健寿会 黒木病院	延岡市	消内, 消外	2	非常勤
160039	医) 誠和会 和田病院	日向市	外	2	常勤
210111	福) 恩賜財団宮崎県済生会 日向病院	門川町	内,外	2	常勤
230147	美郷町国民健康保険西郷病院	美郷町	内,整	3	常勤
230152	美郷町国民健康保険南郷診療所	美郷町	内,整	2	常勤
230200	医) おざきメディカルアソシエイツ 尾崎眼科	日向市	眼	1	常勤・非常勤
230201	医) 洋承会 今給黎医院	日向市	内,循内,呼内,糖内	4	非常勤
230232	医) 社団弘文会 松岡内科医院	日向市	透	1	非常勤
230239	稲原眼科医院	日向市	眼	1	非常勤
160023	医) 宏仁会 海老原総合病院	高鍋町	内,外,麻,健診	4	常勤・非常勤
230187	国立病院機構宮崎病院	川南町	総診,救急,呼内,循内,神内,整	12	常勤・非常勤
230223	医) 聖山会 川南病院	川南町	内,腎内	3	常勤
160024	医) 隆徳会 鶴田病院	西都市	内,外,整,総診,透,循内	6	常勤
150002	社医) 慶明会 おび中央病院	日南市	内,リハ	3	常勤・非常勤
160022	医) 愛鍼会 山元病院	日南市	内	1	常勤
160037	医) 十善会 県南病院	串間市	精,内	2	常勤
170047	日南市立中部病院	日南市	内,外,整,在宅,眼	5	常勤
180071	串間市民病院	串間市	内,外,総診,消内,腎内,呼内	6	常勤
230149	社医) 介護老人保健施設 おびの里	日南市	内	1	常勤
230188	医) 春光会 春光会記念病院	日南市	内,整	4	常勤・非常勤
230211	医) 秀英会 介護老人保健施設長寿の里	串間市	不問	1	常勤
230222	宮崎県立日南病院	日南市	消内	2	常勤
230236	医) 和真会 東内科クリニック	日南市	透	1	常勤
160019	医) 相愛会 桑原記念病院	小林市	循内,内,外	4	常勤・非常勤
170043	医) 和芳会 小林中央眼科	小林市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小林市	放,内,総診,麻	6	常勤
180076	医) けんゆう会 園田病院	小林市	外,内,総診	6	常勤・非常勤
190091	医) 友愛会 野尻中央病院	小林市	内,眼	3	常勤・非常勤
230169	医) 連理会 和田クリニック	小林市	内	1	常勤
230197	医) 友光会 整形外科押領司病院	小林市	整,内,循内	3	常勤・非常勤
230218	医) 養気会 池井病院	小林市	腎内	1	常勤
230229	国民健康保険高原病院	高原町	内	1	非常勤
230237	医) 東陽会 整形外科前原病院	小林市	整	1	常勤
170049	五ヶ瀬町国民健康保険病院	五ヶ瀬町	内,外	2	常勤
180070	高千穂町国民健康保険病院	高千穂町	内,眼,小	3	常勤
190088	日之影町国民健康保険病院	日之影町	内,外 (いずれか)	1	常勤

病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡、賃貸希望の物件を紹介いたします。

令和7年12月1日現在

1. 譲渡物件	① 宮崎市阿波岐ヶ原町前田2633番, 2634番 土地のみ: 2,022.17㎡ (612.77坪) 所有者: 児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
	② 西都市中央町2丁目6番地 土地: 2,280.83㎡ (691.16坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 674.74㎡ 2階 547.79㎡ 3階 177.95㎡ 計 1,400.48㎡ (424.38坪) ※別途駐車場あり (20台) 所有者: 西都市西児湯医師会員 函師医院跡
	③ 延岡市無鹿町1丁目710 土地: 1,654.58㎡ (501.38坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根4階建 1階 145.76㎡ 2階 338.70㎡ 3階 330.69㎡ 4階 14.25㎡ 計 829.40㎡ (251.33坪) ※駐車場あり (50台) 所有者: (医) 社団 隆豊 江崎医院跡
	④ 日向市財光寺615 土地: 1,704.79㎡ (515.70坪) 建物: 鉄筋コンクリート2階建 1階 333.69㎡ 2階 117.27㎡ 車庫 36.60㎡ 計 487.56㎡ (147.49坪) ※駐車場あり (16台) 所有者: 日向市東白杵郡医師会員 吉田クリニック
	⑤ 延岡市本町2丁目3-5 土地: 893.18㎡ (270.19坪) 建物: 木造スレート葺2階建 1階 173.08㎡ 2階 44.72㎡ 計 217.80㎡ (65.89坪) ※駐車場あり (15台) 所有者: 延岡市医師会員 (医) 社団 戸島クリニック
	⑥ 宮崎市原町12-1 土地: 459.69㎡ (139.06坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 249.20㎡ 2階 184.38㎡ 3階 15.55㎡ 計 449.13㎡ (135.86坪) ※駐車場あり (6台) 別途, 賃貸の駐車場 (22台) 所有者: 宮崎市郡医師会員 (医) 青翠会 山本医院
2. 賃貸物件又は	① 児湯郡川南町大字平田1402-74 土地: 4,449㎡ (1,348.18坪) 建物: 鉄骨セメント造平屋建 1階 825.66㎡ (250.20坪) ※駐車場あり (70台) 所有者: 児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
3. 賃貸物件	① 都城市東町10街区18号 土地: 614.18㎡ (186.11坪) 建物: 鉄筋コンクリート造3階建 1階 324.30㎡ 2階 322.11㎡ 3階 322.11㎡ 計 968.52㎡ (293.49坪) ※駐車場あり (3台) 別に隣接病院駐車場あり (応相談) ※賃貸部分は, 2階, 3階 (グループホームやすらぎ) 所有者: 都城市北諸県郡医師会員 (医) 与州会 柳田病院
	② 宮崎市大字本郷南方字榎田2541番地1 土地: 750.44㎡ (227.40坪) 建物: 木造スレートぶき2階建 1階 255.27㎡ 2階 73.50㎡ 計 328.77㎡ (99.62坪) ※駐車場あり (15台) 所有者: 宮崎市郡医師会員 滝口内科 (旧) のぞみ医院跡
	③ 宮崎市大字本郷南方2456番地1 土地: 1801.76㎡ (545.03坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 282.52㎡ (85.46坪) ※駐車場あり (20台) 所有者: 宮崎市郡医師会員 平部整形外科医院跡

ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し, 求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は, 月～金の9時～12時及び13時～17時です。
3. 申込み方法は, 所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は, 「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先

ドクターバンク無料職業紹介所

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 (宮崎県医師協同組合)

TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179 E-mail: isikyoubank@miyazaki.med.or.jp

宮崎県医師会行事予定表

令和7年12月24日

1		月	
1	木	(年始休業)	
2	金	(年始休業)	
3	土	(年始休業)	
4	日		
5	月	13:00 新年賀詞交歓会 14:00 仕事始め式	21 水
6	火	19:00 第9回常任理事協議会	
7	水		
8	木		
9	金	15:00 県依存症対策推進協議会(Web会議) 18:00 県地域医療構想調整会議	22 木
10	土	19:00 三師会合同新春懇談会	
11	日	9:00 (日医)日医JMAT研修会(基本編)	23 金
12	月	(成人の日)	
13	火	19:00 第19回全理事協議会(Web会議)	24 土
14	水	16:00 支払基金審査運営協議会(会長) 16:00 (日医)日医予防接種・感染症危機管理対策委員会 19:00 広報委員会 19:00 宮崎市郡医師会新年例会	
15	木	9:45 社会保険医療担当者の特定共同指導 13:30 (川南町)ロコモ予防運動推進事業普及講座 16:30 日医業経営検討委員会(Web会議) 19:00 発達障害診断医養成研修会 19:00 県産婦人科医会常任理事会(Web会議) 19:30 宮崎市郡整形外科医会新年会	25 日
16	金	13:30 社会保険医療担当者の特定共同指導 19:00 県外科医会理事会(Web会議)	
17	土	14:00 (福岡)九州ブロック災害医療研修会 17:00 (福岡)九医連救急・災害医療担当理事連絡協議会	26 月
18	日		
19	月		27 火
20	火	14:20 (日医)都道府県医師会会長会議 16:30 (日医)日医連執行委員会 19:00 組織強化・将来構想委員会小委員会	
			28 水
			29 木
			30 金
			31 土

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからご覧いただけます。

宮崎県医師会行事予定表

令和7年12月24日

		2		月			
1	日	8:30	(沖縄) 日本プライマリ・ケア連 合学会九州支部総会・学術大会	17	火	13:20 県社会福祉審議会 19:00 組織強化・将来構想委員会 (Web会議)	
		9:00	日医未来医師会ビジョン委員会 13:00 日医医療秘書認定試験	18	水	16:00 支払基金審査運営協議会 19:00 広報委員会	
2	月	19:00	県臨床研修・専門研修運営協議会 ワーキンググループ (Web会議)	19	木	14:00 (日医) 日医広報委員会 14:30 県国保等はり、きゅう及び あん摩マッサージ療養費 審査委員会 16:00 (日医) 日医医療秘書認定試 験委員会 19:00 医師国保組合理事会 19:00 医学会誌編集委員会 (Web会議)	↑
3	火	13:30	日医救急災害医療対策委員会地域 包括ケアシステムにおける救急医 療ワーキンググループ (Web会議)			13:30 県訪問看護ステーション連 絡協議会管理者向け研修 会 (Web会議) 13:30 都道府県医師会「警察活動 協力医会」連絡協議会・ 学術大会 16:00 (福岡)九州地区医師国保組 合連合会理事会・全体協議会 16:40 県内医師会病院連絡協議会	国保 審査
		18:25	県公害健康被害認定審査会 19:00 第10回常任理事協議会				
4	水			20	金	19:00 認知症サポート医・かかり つけ医スキルアップ研修 会 (Web会議)	社 保 審 査
5	木	17:00 地域医療対策協議会プログラム運用部会 18:00 地域医療対策協議会					
6	金	16:00	九州各県学校保健会長及び学校保 健担当者連絡会 (Web会議)	21	土	13:30 県訪問看護ステーション連 絡協議会管理者向け研修 会 (Web会議) 13:30 都道府県医師会「警察活動 協力医会」連絡協議会・ 学術大会 16:00 (福岡)九州地区医師国保組 合連合会理事会・全体協議会 16:40 県内医師会病院連絡協議会	国保 審査
7	土	15:00 母体保護法指定医師研修会 (Web会議) 16:00 各郡市医師会等職員研修会					
8	日			22	日	9:00 かかりつけ医等発達障害対 応力向上研修会 (Web会議)	
9	月	18:30 介護保険に関する主治医研修会 (Web会議) 19:00 県小児科医会役員会 (Web会議)					
10	火	19:00	第21回全理事協議会 (Web会議)	23	月		↓
11	水						
13	金	14:00 県ナースセンター事業運営委員会 15:00 県ロコモティブシンドローム対策 協議会 (Web会議) 18:30 県外科医会冬期講演会 (Web会議) 19:00 広報委員会		24	火	14:00 県国保連合会理事会・通常 総会 (Web会議) 18:30 医師協理事会 19:00 医師協理事・運営委員合同 協議会 終了後 第22回全理事協議会	↓
		14:00 (福岡) 九医連第2回勤務医連絡 協議会～勤務医交流会～ 15:00 (福岡) 九医連常任委員会 16:00 (福岡) 九医連第2回連絡協議会					
15	日	9:00 緩和ケアチーム研修会 (Web会議) 9:00 (日医) 日医JMAT研修会 (統括編)		25	水	15:00 労災診療指導委員会・労災部会理事会 19:00 県医師会創立137周年記念医学会	
		18:00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 19:00 県内科医会理事会					
16	月	18:00 県感染症対策連携協議会 19:00 人体シミュレータを用いた小児在 宅医療実技講習会		26	木	14:00 (日医) 都道府県医師会事務局長連絡会 16:00 宮崎産業保健総合支援センター運 営協議会	
						27	
				28	土		

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからもご覧になれます。

医 学 会 ・ 講 演 会

日本医師会生涯教育講座認定学会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード

がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会 (胃)・(大腸)・(肺)・(乳)

[現地]…現地参加のみ [現地・Web]…現地参加またはWeb聴講

[Web]…Web聴講のみ ※Webの場合，会場は記載いたしません。



詳細および最新情報はこちら

第201回宮崎心臓病研究会

1月7日(水) 18:30~19:30 [Web]

「心臓病地域連携パスを用いた動脈硬化の包括的管理に向けた取り組み」

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 循環器内科学 教授

前村 浩二

主催：宮崎心臓病研究会

共催：大塚製薬(株)

連絡先：宮崎市郡医師会病院 ☎0985-77-9101

CC(単位)：75(1.0)

第82回宮崎県耳鼻咽喉科懇話会臨床セミナー

1月8日(木) 18:30~20:00 [現地・Web]

ホテルJALシティ宮崎

「アレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎に対する安全で効果的な経鼻内視鏡手術をみんなに広めたい」
島根大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授

坂本 達則

主催：宮崎県耳鼻咽喉科懇話会

共催：杏林製薬(株) ☎0985-27-3300

後援：日耳鼻宮崎県地方部会

宮崎県耳鼻咽喉科医会

CC(単位)：39(1.0)

参加費：1,000円

西都市西児湯地域包括ケア推進センター学術講演会

1月9日(金) 18:30~20:00 [現地・Web]

西都市社会福祉協議会

「医療・介護・福祉のためのメンタルヘルスマ

ネージメント～メンタルヘルスを科学する～」

宮崎県立看護大学 精神看護学 教授

川村 道子

主催：西都市西児湯地域包括ケア推進センター

共催：西都市西児湯医師会 ☎0983-43-1687

西都市西児湯内科医会

CC(単位)：13(1.5)

宮崎県医師会産業医研修会

1月10日(土) 14:00~16:00 [現地]

宮崎県医師会館

「石綿(アスベスト)関連疾患診断技術研修会(専門研修)」「石綿関連疾患胸部画像診断の読影実習」
中部労災病院 副院長

松尾 正樹，他

主催：(独)労働者健康安全機構

共催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

CC(単位)：45(2.0)

生涯研修の現地研修会：2単位

令和7年度依存症地域対策支援事業 依存症支援者研修会

1月11日(日) 13:00~17:00 [現地]

宮崎県精神保健福祉センター

「依存症の理解～困った人は困っている人～」

あきやま病院 副院長

福田 貴博

「問題解決しない事例検討会の理念
全国の活動と宮崎県の取り組み
問題解決しない事例検討会」

あきやま病院 副院長

福田 貴博

主催：宮崎県障がい福祉課（吉田病院受託）
 連絡先：吉田病院 ☎0982-37-0126
 CC(単位)：5 (4.0)

宮崎県医師会産業医研修会

1月14日(水) 19:00~21:00 [現地]
 串間市総合保健福祉センター

「産業医としての発達障がい者就労支援」

産業保健相談員
 串間市民病院 内科

江藤 敏治

主催：宮崎産業保健総合支援センター
 ☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会
 CC(単位)：0 (2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

延岡医学会学術講演会

～骨粗鬆症と高血圧診療を考える～
 1月16日(金) 19:00~20:30 [現地・Web]
 キャトルセゾンマツイ

「骨粗鬆症の診断と治療

～脊椎脊髄外科医の立場から～
 いのうえ整形外科クリニック 院長

井上 英豪

「臓器保護のための高血圧管理

～MRBによる包括的治療戦略～
 宮崎大学医学部 内科学講座 循環器・腎臓内科学分野 教授

海北 幸一

主催：延岡医学会
 共催：第一三共(株)
 連絡先：延岡市医師会 ☎0982-21-1300
 CC(単位)：74 (0.5), 77 (0.5)

第63回宮崎救急医学会

1月17日(土) 13:00~18:00 [現地]
 宮崎県医師会館

「緊急手術疾患 (Emergency General Surgery)

のマネージメントのアップデート
 ～軟部組織感染症から急性腹症まで～
 東京科学大学病院 救命救急センター長

木下 幸治

主催：第63回宮崎救急医学会
 連絡先：県立宮崎病院 ☎0985-24-4181
 CC(単位)：14 (1.0)
 参加費：1,000円

日本泌尿器科学会第97回宮崎地方会

1月17日(土) 13:30~16:10 [現地]
 錦本町ひなたキャンパス

「宮崎大学医学部泌尿器科教室における2025年の臨床統計」

宮崎大学医学部 泌尿器科

坂元 広季, 他

他演題あり

「前立腺癌治療中に尿管腫瘍を認め手術を施行した症例の検討」

県立宮崎病院 泌尿器科

香月 東道, 他

他演題あり

「転移性尿路上皮癌に対してエルダフィチニブを使用した一例」

県立日南病院 泌尿器科

田代 尚己, 他

他演題あり

「TUL後に発症した尿管狭窄に対しバルーン拡張術を施行した1例」

藤崎病院 泌尿器科

井内 俊輔, 他

他演題あり

主催：日本泌尿器科学会第97回宮崎地方会
 連絡先：宮崎大学医学部泌尿器科
 ☎0985-85-2968

CC(単位)：64 (0.5), 65 (0.5), 66 (0.5), 67 (0.5)
 参加費：3,000円

宮崎県内科医会学術講演会

1月20日(火) 18:50~20:00 [Web]

「入口と出口を見据えたこれからの不眠症治療戦略
～オレキシン受容体拮抗薬への期待～」

久留米大学 学長

内村 直尚

主催：宮崎県内科医会

共催：大正製薬(株) ☎080-6562-4732

CC(単位)：20(1.0)

宮崎県医師会産業医研修会

1月21日(水) 19:00~21:00 [現地]

宮崎県医師会館

「産業医としての発達障がい者就労支援」

産業保健相談員

串間市民病院 内科

江藤 敏治

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：0(2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

令和7年度在宅緩和ケア研修会

1月21日(水) 19:00~21:00 [現地]

西都市公民館

「西都児湯地域 在宅緩和メディカルラリー(仮)」

縁在宅クリニック 理事長・院長

岩谷 健志

主催：県央在宅緩和ケア推進連絡協議会

共催：西都市西児湯医師会

西都市西児湯内科医会

連絡先：宮崎県高鍋保健所 ☎0983-22-1330

CC(単位)：13(1.5)

西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会

1月22日(木) 19:00~20:00 [現地・Web]

西諸医師会館

「もっと知りたい神経障害性疼痛の話(仮)」

潤和会記念病院 ペインクリニック科 部長

立山 真吾

主催：西諸医師会 ☎0984-23-2113

共催：西諸内科医会, 第一三共(株)

CC(単位)：19(1.0)

第21回在宅医療推進のための連携・スキルアップ
研修会

1月22日(木) 19:00~20:30 [現地・Web]

宮崎市郡医師会館

「猫と母親と私～独身開業医が自宅で母親を看取る～」

あけぼの診療所 院長

國枝 良行

主催：宮崎市郡在宅医会

連絡先：宮崎市郡医師会地域包括ケア推進センター

☎0985-77-9106

CC(単位)：80(1.5)

宮崎県医師会産業医研修会

1月23日(金) 14:00~16:00 [現地]

宮崎県医師会館

「労災事故を防ぐための保護具の正しい使用法」

産業保健相談員

宮崎大学国際連携機構・国際連携センター客員

教授

黒田 嘉紀

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：11(2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

**令和7年度宮崎県産婦人科医会・産科婦人科学会
冬期定時総会・講演会**

1月24日(土) 15:00~17:00 [現地・Web]

宮崎県医師会館

**「妊娠高血圧症候群におけるプレコンセプション
ケアとインターコンセプションケア」**

愛知医科大学 産婦人科学講座 教授

渡辺 員支

主催：宮崎県産婦人科医会 ☎0985-22-5118

共催：宮崎県産科婦人科学会

CC(単位)：74(1.0)

西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会

1月26日(月) 19:00~20:00 [現地・Web]

西諸医師会館

「マンジャロ外来活用ガイド

～外来での伝え方と診療のコツ～」

石橋医院 院長

岩手医科大学医学部 非常勤講師

石橋 興介

主催：西諸医師会 ☎0984-23-2113

共催：西諸内科医会, 田辺ファーマ(株)

日本イーライリリー(株)

CC(単位)：4(1.0)

**延岡医学会学術講演会令和7年度 医師等医療従
事者結核研修会**

1月26日(月) 19:00~20:30 [現地・Web]

延岡保健所

「結核の診断と治療～最近の傾向も踏まえて～」

宮崎東病院 呼吸器内科 部長

松元 信弘

主催：延岡医学会

共催：延岡保健所 健康づくり課

連絡先：延岡市医師会 ☎0982-21-1300

CC(単位)：8(1.0)

令和7年度糖尿病性腎症重症化予防研修会

1月26日(月) 19:00~20:30 [現地・Web]

日南保健所

「JADEC連携手帳を活用した切れ目ない患者支援(仮)」

平和台病院

日本糖尿病学会 認定専門医

西 勇一

主催：宮崎県日南保健所 ☎0987-23-3141

CC(単位)：76(1.0)

令和7年度医療安全支援センター研修会

1月27日(火) 19:00~21:00 [現地・Web]

宮崎市保健所

「電離放射線の管理について(仮)」

宮崎労働基準監督署 安全衛生課 課長

田邊 圭

主催：宮崎市医療安全支援センター

連絡先：宮崎市保健所 ☎0985-29-4130

CC(単位)：0(1.0)

宮崎県医師会産業医研修会

1月28日(水) 19:00~21:00 [現地]

串間市民病院

「人生100年時代における高年齢労働者の安全対策」

産業保健相談員

串間市民病院 内科

江藤 敏治

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：11(2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

宮崎県医師会産業医研修会

1月29日(木) 13:30~15:30 [現地]

延岡市職業訓練支援センター

「この一年間(令和7年)の産業保健の動向」

産業保健相談員

労働衛生コンサルタント

矢崎 武

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：6(2.0)

生涯研修の更新研修会：2単位

南那珂医師会生涯教育医学会

1月29日(木) 19:00~20:00 [現地・Web]

南那珂医師会館

「プライマリでできるアルツハイマー型認知症治療
～ドネペジル貼付剤(アリドネパッチ)の使い
どころを考える～」

宮崎大学医学部 臨床神経科学講座 精神医学分
野 講師

船橋 英樹

主催：南那珂医師会 ☎0987-23-3411

共催：興和(株)

CC(単位)：29(1.0)

令和7年度宮崎県医師会勤務医部会後期講演会

1月29日(木) 19:00~20:40 [現地・Web]

宮崎県医師会館

「病態からシンプルに考えるめまい疾患への対応」

宮崎大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・
頭頸部外科学教室 教授

高橋 邦行

「橋橋を独力私費で架けた医師福島邦成の生涯と
大淀川」

潤和会記念病院 リハビリテーション科医長・
認知症ケアチームリーダー

田代 学

主催：宮崎県医師会 ☎0985-22-5118

共催：宮崎県医師会勤務医部会

CC(単位)：1(0.5), 31(0.5)

令和7年度高次脳機能障がい講演会

1月30日(金) 19:00~21:00 [現地・Web]

宮崎県医師会館

「高次脳機能障害の診断・治療・支援について」

錦海リハビリテーション病院 副病院長

橋本 圭司

主催：宮崎県医師会 ☎0985-22-5118

CC(単位)：29(2.0)

令和7年度宮崎県緩和ケア研修会

1月31日(土) 9:00~17:30 [現地]

県立延岡病院

「e-learningの復習・質問」

宮崎医療センター病院 医師

高橋 稔之, 他

「コミュニケーション」

井上病院 医師

並木 薫, 他

「全人的苦痛に対する緩和ケア」

宮崎医療センター病院 医師

山崎 浩司, 他

「療養場所の選択と地域連携」

和田病院 医師

丸田 望, 他

主催：県立延岡病院 ☎0982-32-6774

CC(単位)：4(1.5), 5(0.5), 53(1.5), 81(1.5)

第202回宮崎心臓病研究会

1月31日(土) 16:00~18:00 [現地]

宮崎市郡医師会館

「強心薬持続投与の重症心不全患者を在宅移行す
るために～在宅医療の立場から～」

坂の上ファミリークリニック 院長

小野 宏志, 他

他演題あり

主催：宮崎心臓病研究会

共催：ゲルベ・ジャパン(株)

連絡先：宮崎市郡医師会病院 ☎0985-77-9101

CC(単位)：80(1.5)

令和7年度HIV・エイズ対策講習会

2月1日(日) 13:00~15:00 [現地]

宮崎県庁防災庁舎

「クリニックで診るHIV/性感染症」

しらかば診療所 院長

井戸田 一朗

主催：宮崎県医師会

共催：県立宮崎病院

宮崎県福祉保健部薬務感染症対策課

☎0985-44-2620

CC(単位)：8(1.0)

専門医共通講習－感染対策：1単位

第203回宮崎心臓病研究会

2月2日(月) 19:00~20:20 [現地・Web]

宮崎観光ホテル

「Society 5.0の循環器診療を展望する」九州大学大学院医学研究院 循環器内科学 准教授
他場 哲哉, 他

他演題あり

主催：宮崎心臓病研究会

共催：興和(株)

連絡先：宮崎市郡医師会病院 ☎0985-77-9101

CC(単位)：75(1.0)

宮崎県医師会産業医研修会

2月4日(水) 19:00~21:00 [現地]

串間市総合保健福祉センター

「リスクを軽減する職場巡視の方法」

産業保健相談員

串間市民病院 内科

江藤 敏治

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：11(2.0)

生涯研修の現地研修会：2単位

宮崎県医師会産業医研修会

2月5日(木) 13:30~15:30 [現地]

都城市北諸県郡医師会館

「この一年間(令和7年)の産業保健の動向」

産業保健相談員

労働衛生コンサルタント

矢崎 武

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：6(2.0)

生涯研修の更新研修会：2単位

第5回宮崎骨粗鬆症研究会

2月5日(木) 19:00~20:00 [現地・Web]

宮崎県医師会館

「生活習慣病関連骨粗鬆症up-to date」

産業医科大学病院 臨床研究推進センター-センター長・診療教授

岡田 洋右

主催：宮崎骨粗鬆症研究会

共催：東和薬品(株) ☎080-1522-3887

後援：宮崎県医師会

CC(単位)：76(1.0)

参加費：1,000円

宮崎県医師会産業医研修会

2月12日(木) 14:00~16:00 [現地]

宮崎県医師会館

「この一年間(令和7年)の産業保健の動向」

産業保健相談員

労働衛生コンサルタント

矢崎 武

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：6(2.0)

生涯研修の更新研修会：2単位

宮崎県医師会産業医研修会

2月18日(水) 19:00~21:00 [現地]

宮崎県医師会館

「リスクを軽減する職場巡視の方法」

産業保健相談員

串間市民病院 内科

江藤 敏治

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：11(2.0)

生涯研修の実地研修会：2単位

延岡医学会学術講演会

2月20日(金) 19:00~20:00 [現地・Web]

エンシティホテル延岡

「呼吸器感染症のプライマリーケア」宮崎大学医学部 内科学講座 呼吸器・膠原病・
感染症・脳神経内科学分野 教授

宮崎 泰可

主催：延岡医学会

共催：インスメッド(株)

連絡先：延岡市医師会 ☎0982-21-1300

CC(単位)：46(1.0)

第213回宮崎県眼科医会講習会

2月28日(土) 16:30~19:00 [現地]

宮崎観光ホテル

「眼瞼炎の診断と治療、そして再発予防

～その異物感はどこから?～」

杉浦眼科 副院長

崎元 暢

「糖尿病網膜症治療のUpdate」

山口大学大学院医学系研究科 眼科学 教授

木村 和博

主催：宮崎県眼科医会 ☎0985-28-1015

共催：千寿製薬(株)

CC(単位)：36(2.0)

参加費：3,000円

Orthopaedic Clinical Seminar in 宮崎

2月28日(土) 18:00~19:00 [現地・Web]

KITENビル

「高齢者によく見られる脊椎疾患

～神経障害性疼痛の管理による健康寿命延伸～」

野崎東病院 副院長

濱中 秀昭

主催：宮崎県臨床整形外科医会

共催：第一三共(株) ☎080-1393-2113

CC(単位)：60(1.0)

第74回宮崎県スポーツ学会

3月7日(土) 15:00~19:00 [現地]

宮崎大学創立330記念交流会館

「膝スポーツ損傷に対する運動器超音波診療」

金沢大学医学部 整形外科 講師

中瀬 順介

主催：宮崎県スポーツ学会

共催：宮崎県整形外科医会、久光製薬(株)

後援：宮崎県医師会

連絡先：宮崎大学医学部整形外科

☎0985-85-0986

CC(単位)：61(1.0)

日医認定健康スポーツ医学再研修会：1単位

参加費：1,000円

診療メモ

上部消化管出血 - 外来で遭遇した場合の
初期対応と紹介判断について

加納さくら消化器・内視鏡クリニック まえ 村 幸 輔

はじめに

「上部消化管出血」(UGIB: upper gastrointestinal bleeding)は、吐血や黒色便などを呈し、時に致死的となる疾患です。専門性の高い疾患ではありますが、NSAIDsや抗血栓薬を長期服用される患者や高齢者の増加により、開業医の先生方をはじめ、一般外来で遭遇する機会が増えています。ここでは、UGIBに外来で遭遇した場合の初期対応と専門医への紹介の判断の指標を中心に解説します。

原因と注意事項

UGIBの原因は、胃十二指腸潰瘍が最も多く、出血性胃炎、マロリーワイス症候群、食道静脈瘤、悪性腫瘍などが続きます。胃十二指腸潰瘍の罹患率は減少傾向であるものの、出血性胃十二指腸潰瘍は、高齢者においてはむしろ増加傾向にあるとされています。これはNSAIDsや抗血栓薬の使用例が増加していることが原因の一つと考えられており、特に初診でUGIBが疑われた場合は薬剤歴の確認は必須です。症状は吐血や黒色便が代表的ですが、特に高齢者では「貧血・めまい」だけで発見されることも多いので問診にも注意が必要です。

初期評価と全身管理

UGIBが疑われた場合は、診断よりもまず循環動態の評価と安定化を優先します。意識・血圧・脈拍・尿量を確認し、Shock Index (SI) (脈拍/収縮期血圧) ≥ 1.0 で出血性ショックを疑

い、静脈路を確保し輸液を開始します。また吐物による誤嚥や窒息の危険性もありますので、気道保護にも注意が必要です。

Glasgow-Blatchfordスコアについて

UGIBに遭遇した際に緊急性の指標としてGlasgow-Blatchfordスコア (GBS) が初期判断に有用です。このスコアは、収縮期血圧・脈拍と検査値 (Hb, BUN) に、症状 (黒色便, 失神, 肝疾患・心不全既往) を加点し、0~23点で評価します。

項目	内容	スコア
BUN (mg/dl)	$\geq 18.2, < 22.4$	2
	$\geq 22.4, < 28.0$	3
	$\geq 28.0, < 70.0$	4
	≥ 70.0	6
(男性)ヘモグロビン (g/dL)	$\geq 12, < 13$	1
	$\geq 10, < 12$	3
	< 10	6
(女性)ヘモグロビン (g/dL)	$\geq 10, < 12$	1
	< 10	6
収縮期血圧 (mmHg)	100 - 109	1
	90 - 99	2
	< 90	3
その他	脈拍 ≥ 100 /分	1
	黒色便あり	1
	失神発作あり	2
	肝臓疾患	2
	心不全	2

- ・ GBS 0～1点：
出血リスク低く，外来経過観察・待機的内視鏡が可能。
- ・ GBS 2点以上：
入院および24時間以内の内視鏡が推奨。
- ・ GBS 7点以上：
再出血・輸血・止血術の必要性が高く，救急搬送を要する。

このGBSは採血（Hb，BUN）と循環動態や病状から容易に算出でき，この計算機もインターネット上で公開されています。診療現場でも使いやすくなっていますので，ぜひご利用ください。

緊急性の判断について

最新のJGES（2025）およびACG（2021）ガイドラインでは，内視鏡検査は24時間以内の施行が推奨されています。また，輸血開始の目安をHb 7 g/dL未満としています。また，心疾患例では8 g/dL前後で開始も検討されています。

「救急搬送すべき症例」と「翌日以降の紹介が許容される症例」について表1にまとめたのでご参考ください。

紹介に際して

また，紹介の際には以下の内容を情報提供書に記載していただくと，紹介先の病院がスムーズに治療方針を立てられると思います。

- ・ 発症時刻，循環動態を含む全身状態
- ・ 吐血や黒色便の詳細（吐血の色やタール便の有無，その量や回数など）
- ・ 内服薬（特にNSAIDs，抗血栓薬の服用について）
- ・ 既往（特に肝疾患や消化管潰瘍歴について）
- ・ 自院での治療経過（PPIやPCABの使用や抗凝固薬の休薬指示など）

さいごに

ここまで，UGIBに外来で遭遇した場合の初期対応と緊急性の判断とその指標について簡単にまとめました。いずれも有用な指標ではありますが，これらは年齢や既往など個々の背景によっては必ずしも当てはまるものではなく，最終的には自身の臨床経験や感覚を含めて総合的に判断する必要があります。

UGIBは適切な初期対応と専門医への適切なタイミングでの紹介が特に重要です。「迷ったら送る」を原則として，輸血や緊急内視鏡検査が必要かもしれない症例は迷わず消化器病専門医が在籍する総合病院へ紹介していただくことが肝要と考えます。

表1

	救急搬送すべき症例	翌日以降の紹介が許容される症例
循環動態	収縮期血圧<90mmHg，SI \geq 1.0，頻脈，意識障害，尿量減少	収縮期血圧 \geq 100mmHg，脈拍<100，循環動態安定
症状	吐血，多量の黒色便（タール便）や持続する黒色便	黒色便が一過性（6時間以上新たな出血なし），少量の黒色便やコーヒー残渣様嘔吐のみ
血液	Hb<8 g/dL または急速な低下	Hbが保たれている（急激な低下なし）
薬剤歴	抗血栓薬服用中で出血継続，または出血量が多い	NSAIDsや抗血栓薬の服用なし，出血が少量
既往歴	肝硬変や食道静脈瘤の既往あり	特記すべき重篤な既往なし
対応	輸血や緊急内視鏡が必要な可能性 →総合病院へ救急搬送	PPI ^{*1} やPCAB ^{*2} を投与し，翌日以降に専門医へ紹介

*1 PPI…プロトンポンプ阻害薬（例：エソメプラゾール，ラベプラゾールなど）

*2 PCAB…カリウムイオン競合型アシッドブロッカー（例：ボノプラザン）

宮大医学部学生のページ

第21回宮崎大学清花祭～彩風爛漫～開催報告

清武キャンパス実行委員長

医学部4年 おいでみず 大出水 もとき 幹

第21回清花祭が令和7年11月15日、16日の2日間、清武・木花の両キャンパスにて開催されました。

今年度も地域の皆様をお迎えし、昨年に引き続き中庭での開催が実現しました。今年のスローガン「彩風爛漫」には、学生一人ひとりの個性が鮮やかに花開き、自由で個性溢れる学園祭にしたいという想いを込めました。その思いのとおり、清花祭は色とりどりの笑顔と活気に包まれ、盛大に幕を閉じました。

清花祭を無事に開催できましたのは、病院関係者の方々をはじめ、教職員の皆様、後援会、協力企業、そして地域の皆様の温かいご支援とご協力のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

今年の清花祭は軽音楽部の力強くも爽やかな演奏で華やかに幕を開けました。息の合ったステージパフォーマンスに来場者の心が躍り、会場全体が一体感に包まれました。すずかけ太鼓の迫力ある演奏、ダンス部による華麗でエネルギー溢れるステージは、清武キャンパスのメインイベントとして観客を魅了しました。

「キズナ企画」では約20チームが参加し、伝言ゲームやリレーなどを通して互いの協力と思いやりを競い合いました。また、「仮装コンテスト」では個性豊かな衣装が会場を彩り、「子ども企画」では地域の子どもたちが元気いっば

いに体を動かし、笑顔が咲き誇りました。さらに、「クイズ企画」では先生方の意外な一面に触れることができ、終始笑いの絶えないイベントとなりました。

講義棟で開催された医学展も多くの方々で賑わいました。「気持ち企画」では、患者さんや医療従事者の想いや、医療現場に込められた温かい心を知るきっかけとなりました。「なっぴみよう企画」では、子どもたちが医師・看護師体験を楽しみながら学び、医療への興味を深める姿が見られました。また、「年齢企画」では測定を通して健康について語り合う光景が広がり、「解剖・病理展」では身体の構造や病気について楽しく学んでいただくことができました。さらに、医学部を志す中高生に向けた「進路相談カフェ」も開催され、熱心な相談で大盛況となりました。

私自身、清花祭実行委員長としてこの学園祭に携わり、仲間や地域の方々との協力を通して大きな学びと成長を得ることができました。今年度は2日間とも天気にも恵まれ、実行委員をはじめ、大学職員の皆様や関係者の方々の尽力により、無事に学祭を成功へと導くことができました。

コロナ禍を乗り越え、社会の形が変わり続ける中でも、私たちは伝統を大切にしながら、新たな風を吹き込む清花祭でありたいと考えています。地域の皆様、学生、病院関係者、そして患者様が笑顔でつながる学園祭として、これか

らも進化を続けてまいります。

最後になりましたが、今年も清花祭を開催できましたのは、宮崎県医師会の先生方、そして地域の皆様の温かいご後援のおかげです。実行委員一同、心より感謝申し上げます。宮崎大学医学部の伝統ある清花祭が後世に引き継がれますよう、来年度以降もご支援のほどよろしく願いいたします。



医学展実行委員長 医学科4年 ^{かじ} ^{かいと} 梶 加衣人

医学展では今年度も医学部講義棟にて多くの企画を行いました。医学に関する展示物、体験コーナー、スタンプラリーなど子どもからご年配の方まで楽しんでいただけるような医学展を開催することができたと思います。

今年は天候にも恵まれ、11月15日、16日の2日間で800人近くの方々にご来場いただき、講義棟は大勢の方でにぎわいを見せておりました。今年で21回目を迎えた清花祭ですが、このようにたくさんの方々に来ていただき、我々医学生一同、心より感謝申し上げます。また、日頃お世話になっている清武をはじめとした地域住民の方々とも交流を深め、感謝を示すとともに、健康、医療についてさらに関心をもっていただけのではないかと思います。

盛り上がりを見せた企画の一部を紹介しますと、「年齢企画」では、肌年齢や血管年齢などを測定することができ、皆様の健康意識を高め

るきっかけになったかと思います。また「なってみよう企画」では、医師になったつもりで聴診体験をすることができたり、AEDの使い方講座で心肺蘇生法を正しく学んでいただきました。医療を施す側と施される側の距離を縮める一助になることができたかと思います。「お化け企画」では、本格的なお化け屋敷を楽しむことができ、小さなお子様とご家族はもちろんのこと、大学生や社会人の方にも楽しんでいただきました。

最後に、今年度の医学展を開催するにあたり非常に多くの方々のご支援をいただきました。

企画の準備を進め、当日の運営をくださった学生の皆様、大学職員の皆様、宮崎県医師会の先生方、そして医学展に関わってくださったすべての方々にこの場をお借りして深くお礼を申し上げます。来年度以降も医学展へのご支援ご協力のほどよろしく願い申し上げます。



お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要です。県医師会地域医療課（TEL 0985-22-5118）にお問い合わせください。

またMMA通信（県医師会から会員への情報提供メーリングリスト）でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員の方はぜひご登録をお願いします。

送付日	文 書 名
12月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンのマイナ保険証への対応に向けた導入手順書の公開について（周知） ・風しんに関する対応について（依頼） ・令和7年度「働く女性の健康支援事業」（厚生労働省委託事業）における作成資料の周知等への協力について ・令和7年度厚生労働省外国人患者受入れ医療機関対応支援事業「夜間・休日ワンストップ窓口」及び「希少言語に対応した遠隔通訳サービス」オンライン説明会（第3回）のご案内について ・令和7年度アドバンス・ケア・プランニング実践報告会について（案内） ・日本学校保健会が主催する研修会の開催要項の送付について
12月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・「医療・介護等支援パッケージ」及び「重点支援地方交付金」の双方の活用について ・医師資格証（ICカード）の優先発行と申請書の改訂について ・HPKIカードの優先発行について（周知） ・独立行政法人福祉医療機構の貸付利率の改定について ・「令和7年版死因究明等推進白書」の公表について（情報提供） ・日本看護協会中央ナースセンター事業「へき地等における看護職確保」特設サイトの開設について ・一般用医薬品のリスク区分変更等について（通知） ・「使用上の注意」の改訂について ・介護保険法施行令の一部を改正する政令の公布について（通知） ・「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」の一部改正について ・後発医薬品を含めたトルバプタン製剤の使用に当たっての留意事項について
12月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度補正予算案「医療・介護支援等パッケージ」・「医療・介護の確保，DXの推進，『攻めの予防医療』の推進等」等について ・介護情報基盤とケアプランデータ連携システムの統合に向けたケアプランデータ連携システムの利用促進等について ・労働安全衛生規則及び電離放射線障害防止規則の一部を改正する省令等の施行等について ・「EMボックスに関する情報提供及び協力依頼について」の一部改正について

送付日	文 書 名
12月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護情報基盤の運用開始に伴う主治医意見書にかかる通知改正等について ・令和7年度介護事業実態調査（介護事業経営概況調査）の結果について（情報提供） ・災害拠点病院の調査について ・降積雪期における防災態勢の強化等について ・検査料の点数の取扱いについて ・「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）診療の手引き2025年版」等の周知について（依頼） ・「オンライン診療指針」の遵守を確認するためのチェックリスト等について（再周知） ・第31回全国医師会共同利用施設総会の動画掲載のお知らせについて ・「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」等の一部改正について ・令和7年青森県東方沖を震源とする地震に係るオンライン資格確認等システムにおける「緊急時医療情報・資格確認機能」をアクティブ化する医療機関・薬局の範囲・期間について ・令和7年青森県東方沖を震源とする地震に伴う災害により被災した要介護高齢者等への対応および被災者に係る被保険者証の提示等について ・令和7年青森県東方沖を震源とする地震に伴う災害にかかる介護報酬等の柔軟な取扱い（基準緩和等）について ・令和7年青森県東方沖を震源とする地震の被災者に関する既往歴等の提供について ・令和7年青森県東方沖を震源とする地震に伴う災害の被災者に係るマイナ保険証又は資格確認書等の提示等について ・令和7年青森県東方沖を震源とする地震に伴う災害の被災者に係る各種母子保健サービスの取扱い等について ・令和7年青森県東方沖を震源とする地震に伴う災害の被災者に係る定期検査等の取扱いについて
12月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度地域医療介護総合確保基金（介護分）の内示について ・「医師の働き方改革と救急医療等の現場に関する調査」への協力のお願（「令和7年度医師の働き方改革と地域医療への影響に関する日本医師会調査」の追加調査及び勤務医調査） ・失業保険の給付額等を増やすことができると謳う申請サポートについて ・令和7年度厚生労働省委託事業「外国人患者受入れ医療コーディネーター養成研修」の実施について（ご案内） ・使用薬剤の薬価（薬価基準）の一部改正等について

送付日	文 書 名
12月22日	<ul style="list-style-type: none">・電子処方箋を安全に運用できる仕組み・環境の整備のための措置について・抗インフルエンザウイルス薬等の安定供給について・年末年始の海外渡航者に対する感染症予防啓発について・指定難病等医療費助成に係る医療保険における所得区分の照会等に係る事務の廃止について・信用保証協会によるセーフティネット保証5号について（情報提供）・「介護現場における生産性向上推進フォーラム」の開催について・令和8年度全国学校保健・安全研究大会（愛知県大会）予報の送付について（送付）・「医療法等の一部を改正する法律」の公布及び一部施行について・令和7年青森県東方沖を震源とする地震に係るオンライン資格確認等システムにおける「緊急時医療情報・資格確認機能」をアクティブ化する医療機関・薬局の範囲・期間について（延長）
12月23日	<ul style="list-style-type: none">・オンライン資格確認の導入のための医療機関・薬局への財政支援の申請期限延長について（周知依頼）・国で備蓄している抗インフルエンザウイルス薬の一時的使用等について（周知依頼）・「重点支援地方交付金」の地方公共団体ごとの交付限度額等について（情報提供）・日本医学会「第38回日本医学会公開フォーラム」ご案内の送付について・令和7年青森県東方沖を震源とする地震に係るオンライン資格確認等システムにおける「緊急時医療情報・資格確認機能」をアクティブ化する医療機関・薬局の範囲・期間について（延長）

日本医師会会員 / 会員が開設・管理する医療機関の医療従事者 /
会員が開設・管理する介護サービス施設・事業所の従業員の皆様へ

日医ペイハラ・ ネット相談窓口 を開設しました!

ご相談は
こちらから!



日本医師会ペイシエントハラスメント・ネット上の悪質な書き込み相談窓口

昨今、インターネット上(Google Map等の口コミやSNS等)で悪質な書き込み被害が増加しており、対応に苦慮している先生方や医療機関も多くあることと存じます。2024年10月に会員向けに実施したアンケート調査では、総回答数4,730のうち、Google Mapやその他の医療機関検索サイト、SNS等でご自身の医療機関に対する誹謗中傷等の書き込みをされた医療機関が約8割という結果でした。このような状況を踏まえ、SNS等の誹謗中傷に関する書き込みをはじめ、医療機関内でのペイシエントハラスメント全般に関する相談窓口を創設いたしました。

相談料無料・
回数制限なし

このような場合にご相談いただけます!



事例1

医療上の指示・指導などの受け入れを拒否され、怒鳴られるなど暴言を受けた。



事例2

インターネットやSNSで誹謗中傷・脅迫をされた。

お気軽にご相談ください!

制度対象者

日本医師会会員 / 会員が開設・管理する医療機関の医療従事者 /
会員が開設・管理する介護サービス施設・事業所の従業員

相談内容

インターネット上での悪質な書き込みを含むペイシエントハラスメント全般

相談受付方法

WEBフォーム・電話

- ご相談に際しては会員確認をさせていただきます。会員本人以外からのご相談の場合(会員が開設・管理している医療機関の医療従事者等の場合は、勤務先の医療機関の開設者または管理者が会員であることを事前にご確認いただくようお願いいたします。
- 無料で回数制限等なくご相談いただけます。

WEB
フォーム

<https://forms.gle/GgKkT837gCyfiVgL6>

※受付の当日または翌営業日以降に相談窓口より電話またはメールにてご連絡いたします。
お問い合わせの対応状況により、数日お時間を頂戴する可能性があります。



電話

0120-830-870

電話受付時間:平日9時~18時

※ネット上の誹謗中傷等の書き込みの場合は、該当箇所を確認するため、WEBフォームにて関連のURL等をご記載ください。

----- このご案内は概要の説明となります。詳しい内容については下記をご確認ください。 -----

〈日医ペイハラ・ネット相談窓口の詳細について〉

日本医師会ホームページおよびメンバーズルーム
をご覧ください。

https://www.med.or.jp/doctor/sonota/sonota_etc/011988.html



〈日医ペイハラ・ネット相談窓口全般に関するお問い合わせ先〉

日本医師会情報システム課

TEL: 03-3942-6135 FAX: 03-3946-6295

MAIL: josys@po.med.or.jp

医療機関の経営者・管理者の皆様へ

医療勤務環境 改善支援センターを ご利用ください

県下の社会保険労務士と医業経営コンサルタントが県内の医療機関からの医療勤務環境の相談内容に応じて専門的な助言・支援を行います。

医療労務管理相談

- スタッフが長く、安心して働ける職場にしたい!
- 育児・介護中の休み方、働き方は?
- 医師の負担を軽減させたい…

医業経営面

- スタッフのキャリアを磨きたい!
- 補助制度を上手に活用したい。
- 効率良く、経営を安定させたい。

相談
無料



まずは、お電話ください。

宮崎県医療勤務環境改善支援センター

公益社団法人宮崎県医師会内

月曜～金曜 午前10時から午後4時まで

TEL.0985-20-1211

FAX.0985-27-6550 E-mail iryou-kinmukaizen@miyazaki.med.or.jp

日州医事原稿募集のお知らせ

日州医事では、会員の皆様から随筆、旅行記、ご意見などさまざまな投稿を随時受け付けております。以下の要領に沿ってご投稿ください。

■ 随想・随筆・旅行記

字数：3,000字以内

写真：執筆者顔写真、その他本文に関連した写真・イラストなども掲載可

■ 短歌・俳句・川柳・詩

字数：それぞれの一般的な文字数（500字以内）

写真：執筆者顔写真、その他本文に関連した写真・イラストなども掲載可

■ 宮崎グルメ探訪

題材：お気に入りのお店をご紹介ください。お店の雰囲気やお薦めの料理、思い出話など

字数：800字程度

写真：執筆者顔写真、その他料理などの写真（2枚程）

※掲載は白黒

■ 私の本/私が推薦する本

題材：書物の紹介、読みどころ、執筆の思い出・思い入れなど

字数：800字以内

写真：執筆者顔写真、書物の表紙写真

■ その他

- ・夏の「はまゆう随筆」、新年の「新春随想」はその時期に本誌で原稿募集の案内をいたします。
- ・随筆などに掲載する、カット・イラストも随時募集しています。

～上記のコーナーにご投稿いただくにあたっての留意事項～

■ 掲載の可否・方法につきましては広報委員会にご一任ください。

■ 原稿の趣旨を変えない範囲で、日州医事のルールにしたがって表記などの修正をさせていただきます場合があります。

■ 日州医事は、各都道府県医師会や行政・図書館・報道機関などにも配布しています。

■ すべての投稿について

広報委員会で以下のいずれかに該当すると判断した場合には、修正または掲載をご遠慮いただくことがあります。

- ・著作権をはじめ、法令に定める権利やプライバシーを侵害するもの
- ・誹謗中傷や差別など、他の団体、個人または読者に不利益や嫌悪感を与える可能性があるもの
- ・布教や政治活動など、特定の宗教上や政治上の信条に偏ったもの
- ・公序良俗に反し、法律で禁止されている行為など、その他不適切と判断されるもの
- ・事実誤認、難解、過度な宣伝広告など

【原稿送付・問合せ先】 ご投稿は主にメールで受け付けております。

宮崎県医師会広報委員会 日州医事担当（弓削）

Tel 0985-22-5118 Fax 0985-27-6550 E-mail genko@miyazaki.med.or.jp



あとかぎ



明けましておめでとうございます。皆様にとって2025年はどのような年でしたでしょうか？私の年明けは実習で、地域の患者さんに採血や問診をとることから始まりました。学生同士やシミュレーターでは慣れていても、実際にやるのはやはり緊張しました。そして12月はKANEHIROプログラムに参加して、東京慈恵会医科大学で1か月小児外科を学んできました。東京タワーのすぐ近くで、迷路のような複雑な病院でした。宮崎との相違点を学び、将来選択したい診療科やキャリアについても大きな影響を受けました。人の多さやご飯の美味しさなど、宮崎の良さを発見した1か月でもありました。1年間のクリクラで現場の雰囲気にもだいぶ慣れてきて、医師として働くビジョンが見えてきました。2026年は去年以上の学びを得られるよう、積極的に実習に参加していきたいです。

私生活の方では、所属している剣道部での活動がかなり疎かになり、代わりに旅行や友人との思い出作りをすることが多くなりました。医学部生活の終わりを意識しだしてから本当にあつという間に時間が過ぎていきます。今年は最後の九山があるので、とりあえずはそこに向けてしっかりと稽古をしていきたいです。そして、残り少ない医学部生活を満喫しつつ、国家試験に無事合格します。

最後に、日州医事での活動もあと少しとなりました。これまで同様、頑張らせていただきます。残り3か月もよろしくお祈りします。
(宮本)

* * *

あけましておめでとうございます。6年間にわたった広報委員もあと3か月で終了予定です。寂しくなります。今年も日本は禍去禍更至の状態が予想されますが、深く考えずにWork << Life Balanceで過ごしてまいります。
(菊池)

* * *

県外へ出かける際は、まず航空券を予約してから宿を探すのが常でした。従来はそれで問題なかったのですが、11月末の福岡は違いました。早割で航空チケットを入手したものの、ホテルが1泊4万~10万円と高騰。有名歌手3組の公演が重なった影響らしいです。ようやく確保したのは1万8千円のキャビンタイプ、壁とカーテンで仕切られた6人部屋でした。福岡行きはまず宿確保の目星がついてから航空券を購入しようと肝に銘じました。
(下窪)

* * *

柚子胡椒が大好きです。冬は柚子胡椒を美味しく味わうために鍋をつくっているとんでもないほどです。先日沖縄に旅行したときにシークワサー胡椒なるものを見つけ、思わず買ってしまいました。ゆずと比べて爽やかさが強く、交互に使っては食べ比べるのを楽しんでいます。また最近、大分には「かぼす胡椒」があることを知りました。日本全国を探せば他にも柑橘でできた〇〇胡椒があるのかどうか、探してみたいと思います。

(安丸)

明けましておめでとうございます。皆様にとって2025年はどのような年でしたでしょうか？私の年明けは実習で、地域の患者さんに採血や問診をとることから始まりました。学生同士やシミュレーターでは慣れていても、実際にやるのはやはり緊張しました。そして12月はKANEHIROプログラムに参加して、東京慈恵会医科大学で1か月小児外科を学んできました。東京タワーのすぐ近くで、迷路のような複雑な病院でした。宮崎との相違点を学び、将来選択したい診療科やキャリアについても大きな影響を受けました。人の多さやご飯の美味しさなど、宮崎の良さを発見した1か月でもありました。1年間のクリクラで現場の雰囲気にもだいぶ慣れてきて、医師として働くビジョンが見えてきました。2026年は去年以上の学びを得られるよう、積極的に実習に参加していきたいです。

医学と直接関係のない本を読むのが好きです。最近歴史ハマっています。歴史を点で見るのではなく、線で見る・面で見ること、新しい発見があります。そこには多くの発見や法則があり、「メタ認知」のよい機会になります。AIとともに学ぶと理解がより深まり、楽しいものです。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」——昔の人は、うまいことを言ったものだと思います。引き籠もりの道楽です。
(國枝)

* * *

毎年恒例の青島太平洋マラソンに挑戦しました。35kmで脚がつり、さらに強烈な向かい風に苦しみましたが、腕を振り続けて前へ進み、ついにゴールにたどり着きました。沿道からの温かい声援に励まされ、仲間とともに大会運営の素晴らしさに感動しながら帰路につきました。走れる幸せをあらためて実感し、今年も元気に挑戦できるよう日々を大切に過ごしていきたいと思います。
(高村)

* * *

横浜で開かれた全国学校医・学校保健大会に参加した翌日に、わたくしの心電図判読の師匠である89歳になられる現役小児科医N先生と昼食をご一緒しました。今でも診療後に不整脈関連の最新の文献を読むことが楽しいとのこと。さらに年6回はご夫婦でスキーを楽しまれているそうです。開業して10年過ぎ、診療終了後の晩酌が楽しみで文献検索など皆無に等しい自分が情けなくなりました。しかし大幅な軌道修正は無理と考えています。
(高木)

今月のトピックス

年頭所感

近年の物価高騰，エネルギー費，人件費の上昇，人材の流出による病院経営の厳しさから，地域医療の崩壊が危惧されます。複数の先生より本年度の診療報酬改定への期待が述べられています。各人がその動向を見据え，政治に関心を持たないといいませんね。

3 ページ

新春随想

「無責任力について」気持ちが楽になりました。「思い出」，「仙人からの教え」これまで歩いてこられた人生からの随想，感銘を受けました。随想を投稿してください。皆様ありがとうございました。

25 ページ

医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会

本号より，少しでも読者の皆さんが読みやすいようにと，広報委員会で議論を重ね，デザインを変更しています。いかがでしょうか。

71 ページ

診療メモ 上部消化管出血 - 外来で遭遇した場合の初期対応と紹介判断について

一般臨床医が知りたい初期対応と判断基準が解説されています。他科の私も参考になりました。

78 ページ

(文責：石田 康行)

日 州 医 事 第917号 (令和8年1月号) (毎月1回10日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会 会長 河野 雅行

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550

http://www.miyazaki.med.or.jp/ E-mail:office@miyazaki.med.or.jp

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 菊池 英維

副 委 員 長 石田 康行

委 員 横山 晃子，下窪 徹，高橋 聡，

國枝 良行，永野 元章，高村 一紘

学 生 委 員 家村 和奈，宮本貴由樹，野間 貫太，安丸 佳苗

担 当 副 会 長 金丸 吉昌

担 当 理 事 荒木 早苗，高木 純一，佐々木 究，田畑 直人

事 務 局 学術広報課 弓削 圭介，久永 夏樹

印刷所 有限会社 中川印刷 落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円 (但し，県医師会員の購読料は会費に含めて徴収してあります)